増補頭書

訓蒙圖彙大成

四

イ 3
加
467
4

頭書増補訓蒙圖彙巻之五

身體

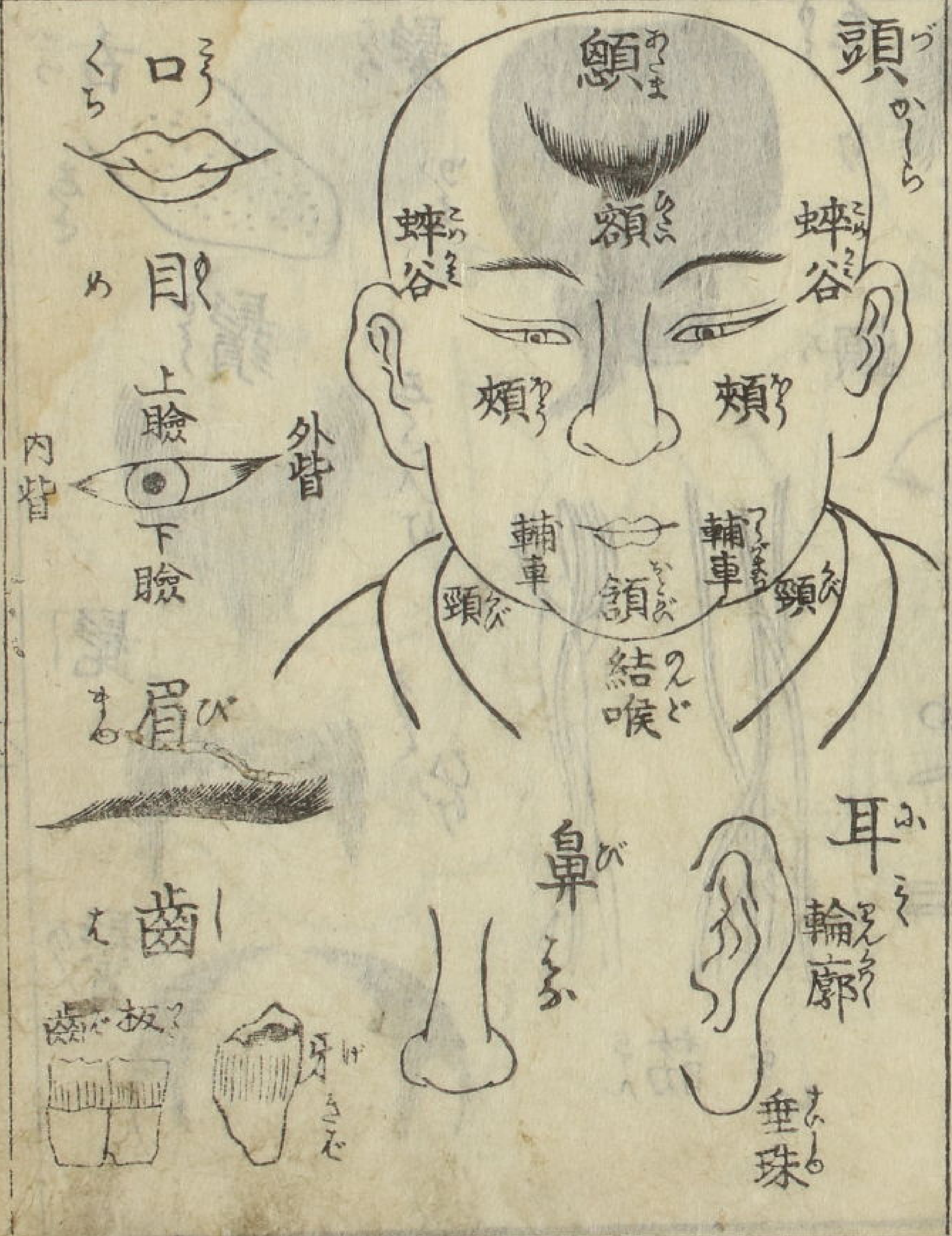
此部には耳目鼻口毛髪頭足のたぐひすべて人乃身のうへ此事あるなり

○頭 頂 顖 蟀谷 頟 頰 輔車 頷 頸 結喉 このかみ 靨 黒子 黒痣 皺 首同

○口 吻 唇 とりふちまきとあり唇ハくちびる 人中ハはなの下也 齶ハあぎと

○目 眼ハ肝の臓のつかさどるなり 睛 眸 眶 瞼 外眥 内眥 眵 翳 淚 雀目 近視 瞟眼

○耳ハ腎のつかさどる所也


頭
顖
頟
蟀谷
蟀谷
頰
頰
輔車
輔車
頷
頸
頸
結喉
口
目
上瞼
外眥
内眥
下瞼
眉
齒
板齒
牙
鼻
耳
輪郭
垂珠

小﨑氏

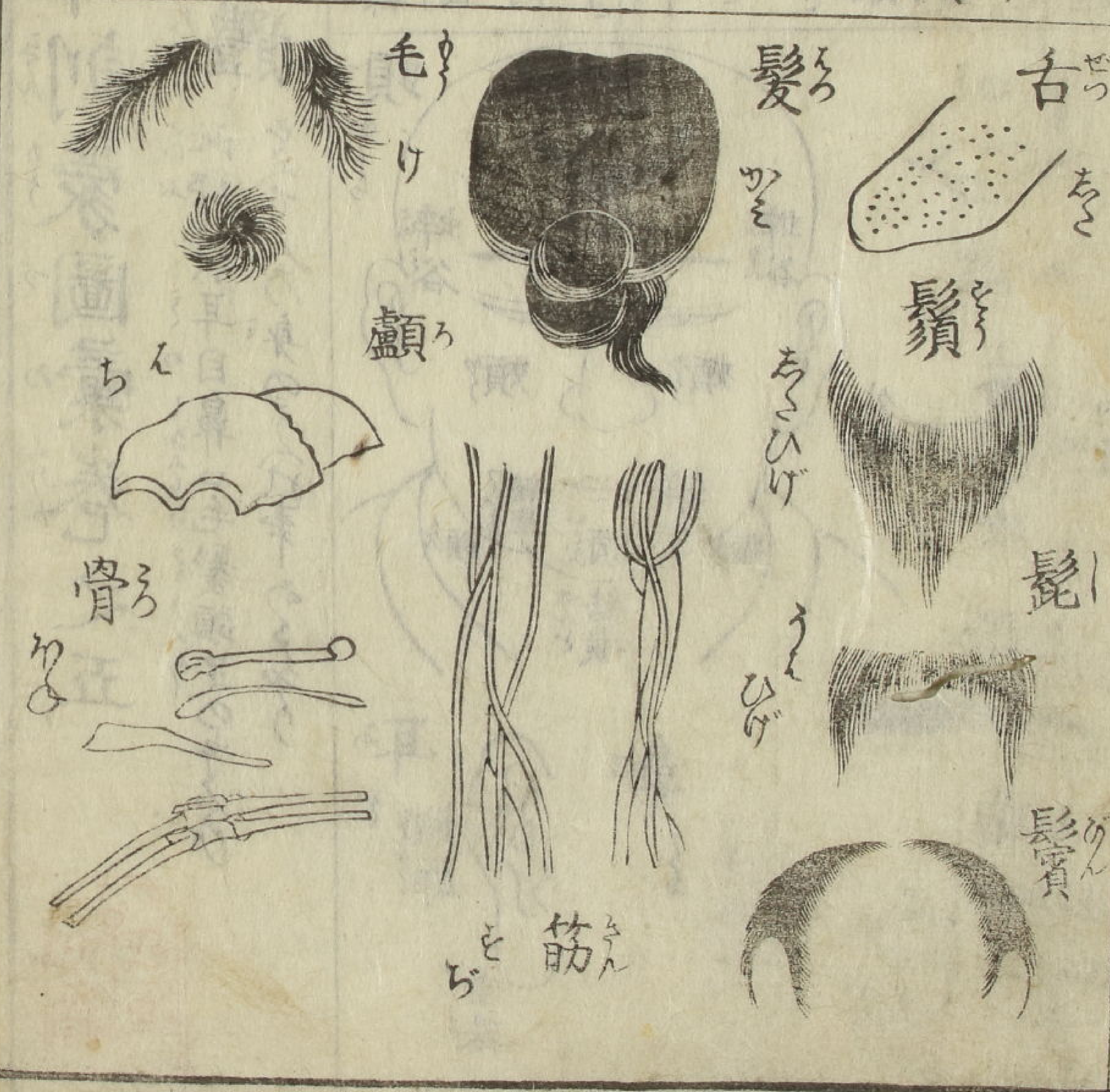
輪廓はみゝのふち垂珠はみゝのたぶ耳門はみゝのあな完骨はそのうしろの骨耵聹はみゝくそ聹耳はみゝだれ聾はみゝしひ

○鼻は肺のつかさどる所なり頞ははなすぢ鼻梁同準ははながしら皶鼻はざくろはな洟ははなしる衄ははなぢなり

○眉年よりてながきは眉壽といふ睫はまつげ

○齒は骨のあまり腎のつかさどる所なり牙板齒齦齒齲齒齦齗齒連

○舌は釋名に舌は卷なり



食物を卷制して落さしむ涎はよだれ唾はつばき心の臟これをつかさどる

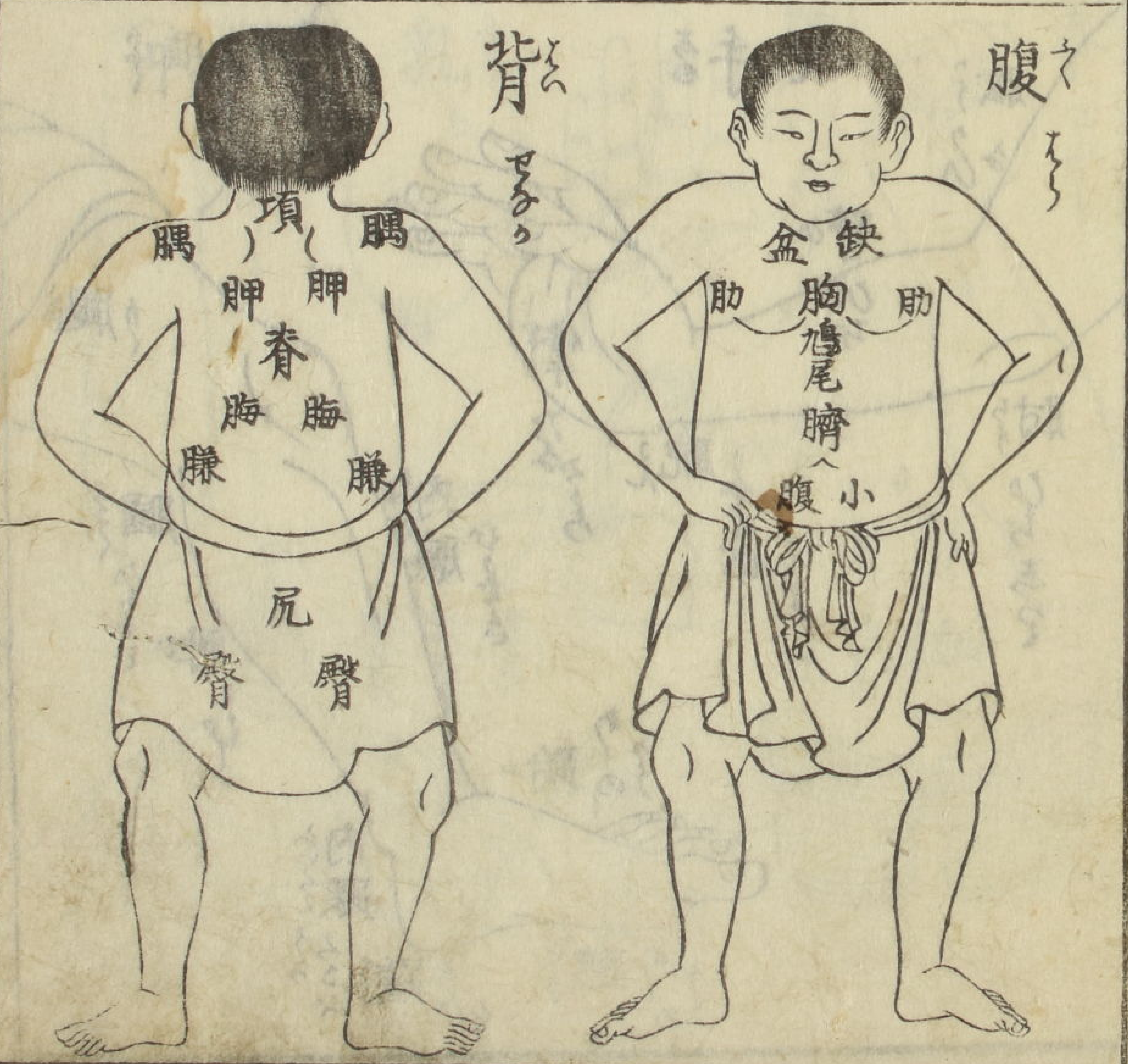
○髮は頭髮なり胎髮はうぶかみ髻はもとゞり鬟はみづら

○鬚は釋名に秀なり物成て秀人成て鬚生髯はほうひげ

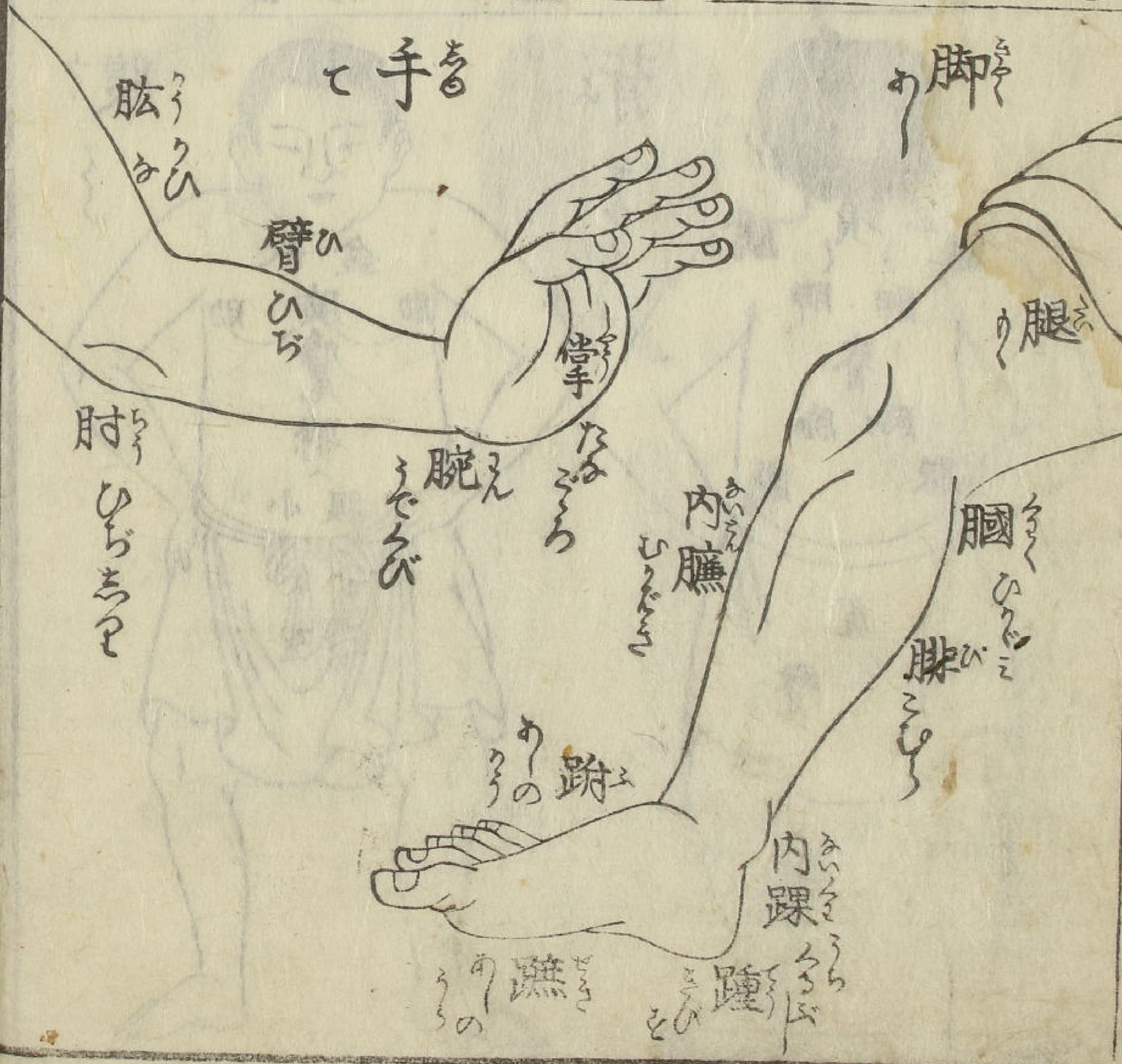
○髭字彙に髭は口上の毛を髭といひ下にあるを鬚といひ頰にあるを髯といふなり

○鬢は額旁の髮也鬢髮同髻はひたひぎは蟬髮はつと

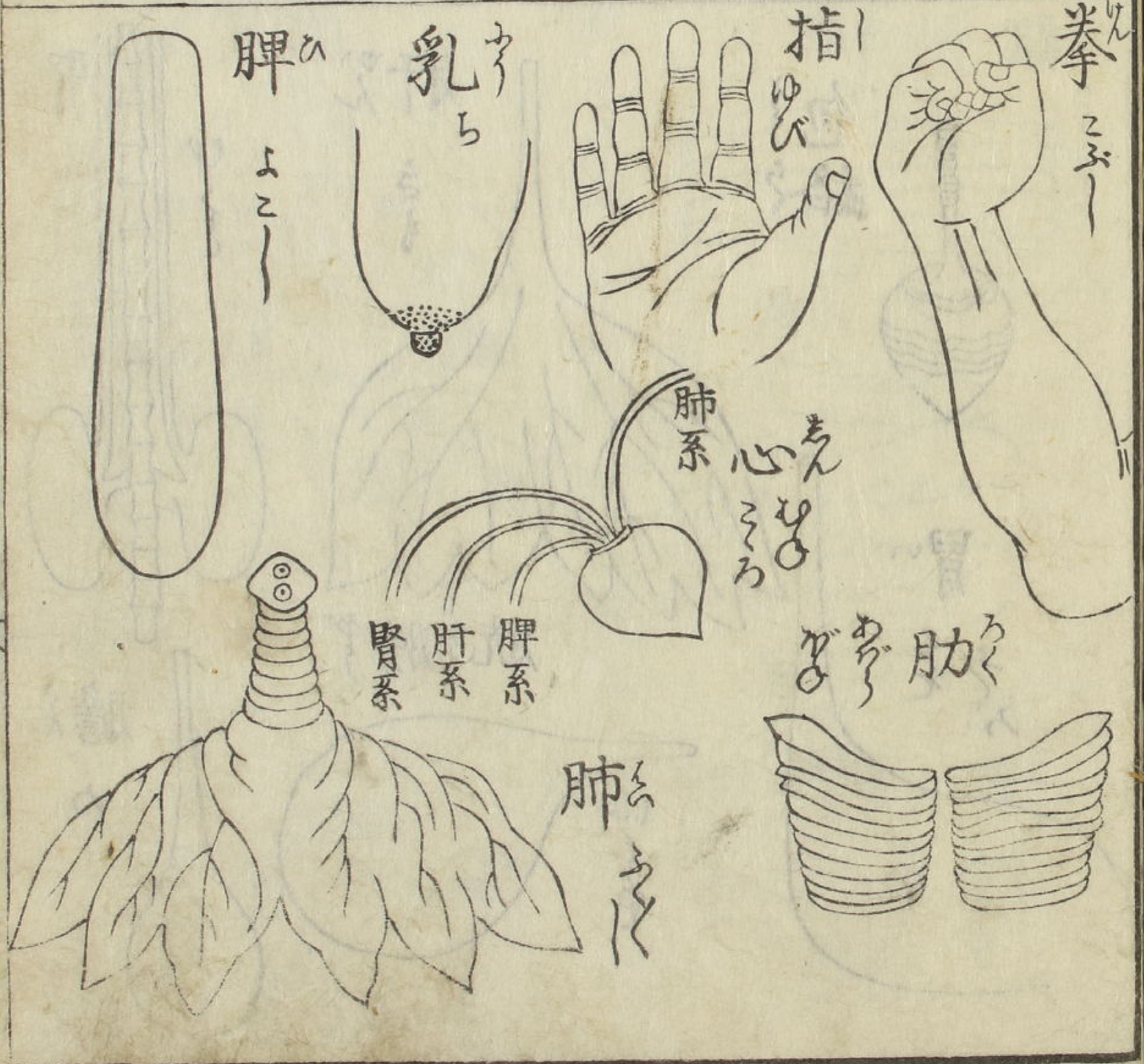
○筋は絡脉なり肝の臟



のつかさどる所なり色をし
醋とのめば筋ゆるぐ
○毛ハ血のあまりなり毫
同 肺のつかさどる所なり
旋毛つじ 皮ハ膚なり又
皺しわ
○顱ハ頭骨なり顖會ハ
頭のうち髑髏ハしやれかう
べ腦ハなづき
○骨ハ肉核なり骸同髓
からのあつまる節ふし
○腹 缺盆 胸 肋 鳩尾
臍 小腹 乳 肚 前陰 陰
莖 陰嚢 脂 似なり
○背 項 肩 腢 胛 脢 腰
臁 髂 尻 臀 膂 脊


手 て
肱 かひな
臂 ひぢ
掌 たなごゝろ
腕 うで
肘 ひぢまり
脚 あし
腿 もゝ
内臁 むかふずね
膕 ひつかゞみ
腓 こむら
跗 あしのかう
内踝 うちくるぶし
踵 くびす
蹠 あしのうら

○手 掌ハたなごゝろ腕ハ
たゞむきうで臂ハひぢ肘ハ
ひぢまり肱ハかひな
○脚 足同 胯ハまた 腿もゝ
膝ひざ脛はぎ臁むかふずね
膕ひつかゞみ腓こむら跗あし
のかう蹠あしのうら踵くびす
○指 大指おやゆび拇同 食
指ひとさしゆび中指たけたか
び又將指ともいふ無名指べに
つけゆび小指こゆび又季指といふ又
○拳ハ手を屈るなりにぎ
りこぶしなり
○乳 説文に人および鳥
子うむを乳とし又獣を産と
いふ嬭奶おちのひと同じ


拳 こぶし
指 ゆび
乳 ち
脾 よこし
心 こゝろ
肺系
脾系
肝系
腎系
肋 あばら
肺 ふく

○肋は釋名に肋は勒なり五臓を検勒するゆゑん也かくのごとく○たとへ乃ごとくあたかも○液腸脅なりびふくれなり

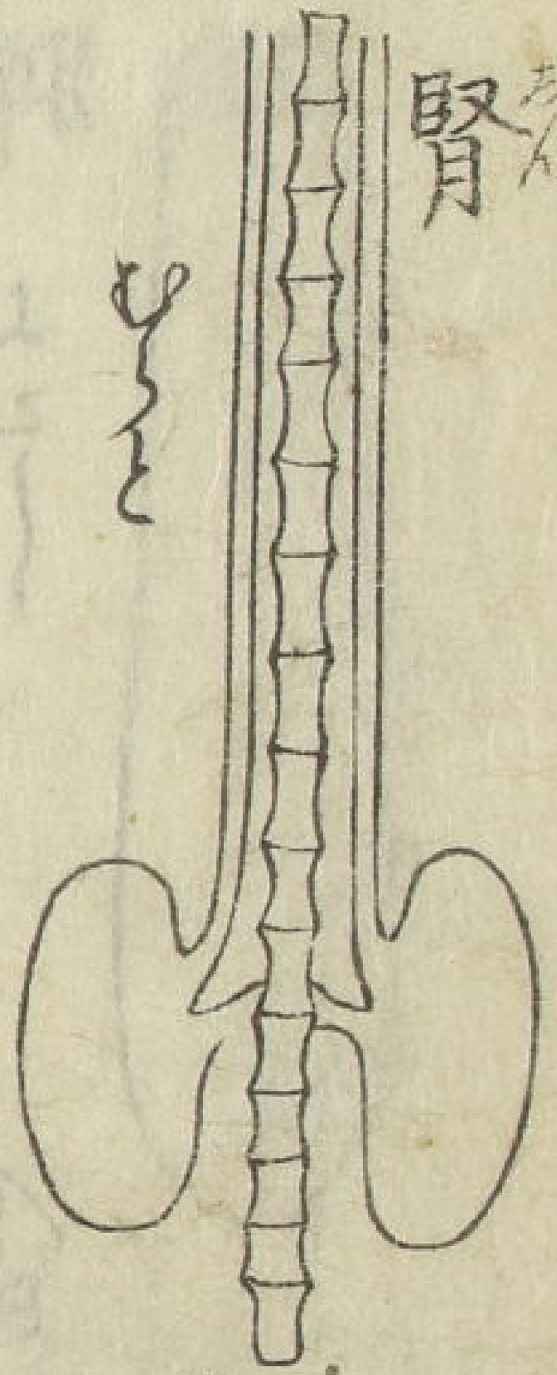
○心は五臓のうちにして一身の主なり胸のあいだにあり色あかし火なり

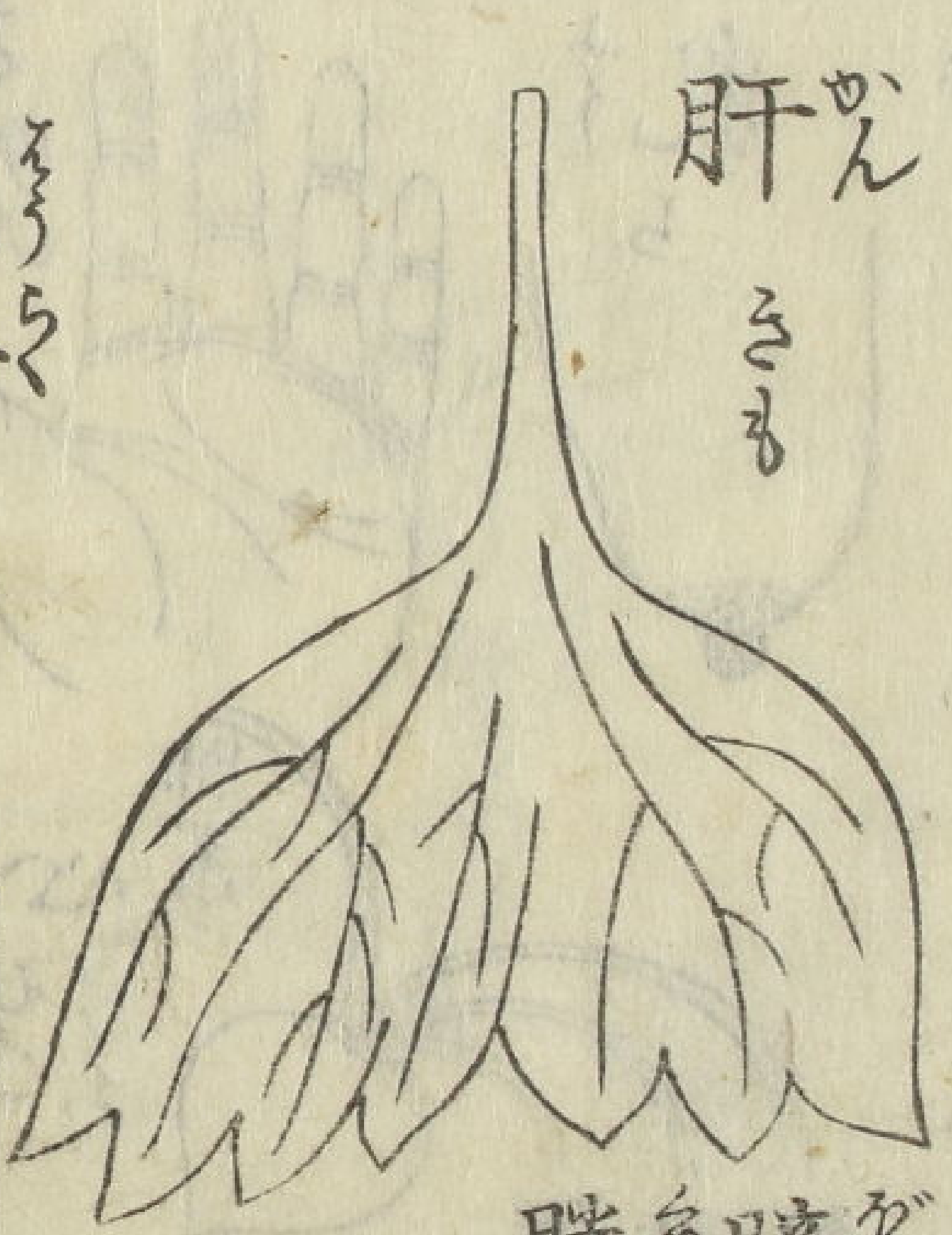
○肺は五臓のうちなり胸のおほひなり蓮花をうつむけたるかたちのごとし六葉両耳あり孔ありてよく声をいだし痰を生ずる色白し金なり

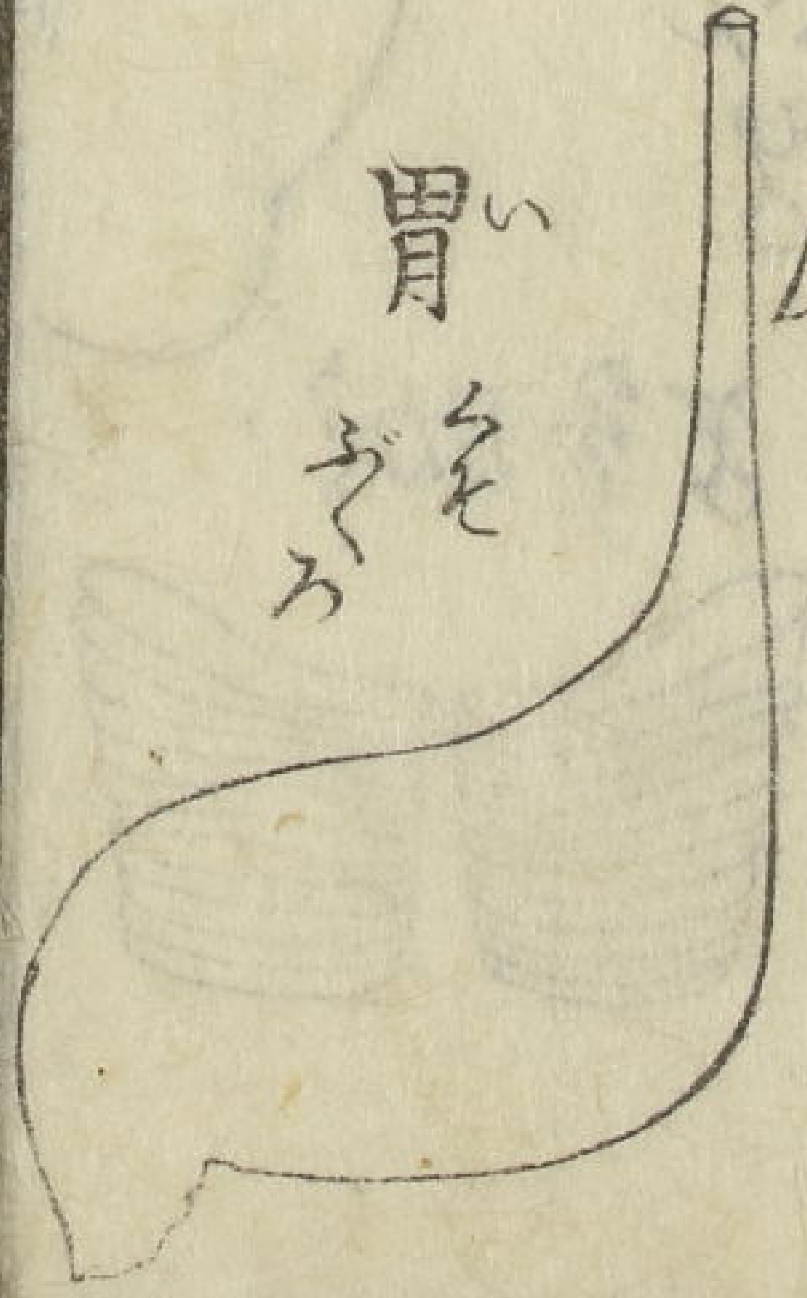
○脾は五臓のうちなり土なり食をこなすなり色黄いなり腹の中脘にあり

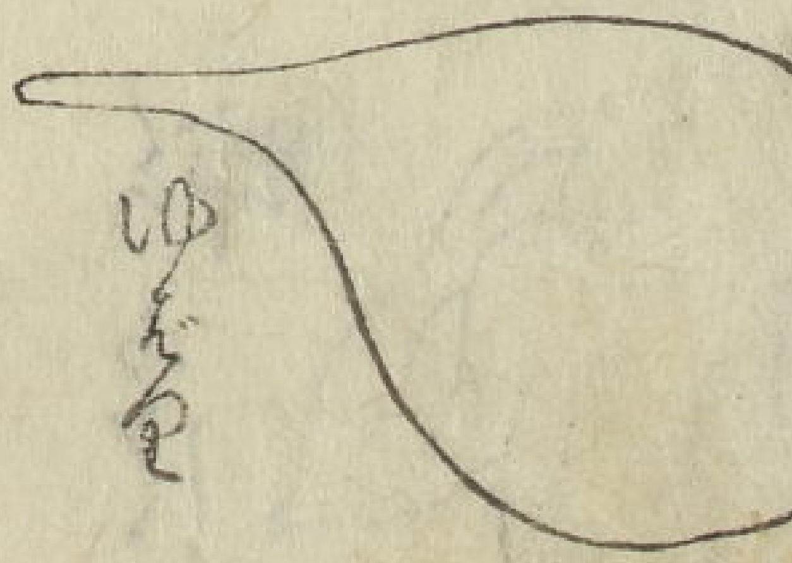
○腎は五臓のうちなり腰にあり水なり色くろしかたち卵のごとし左にあるは腎なり右にあるは命門なり

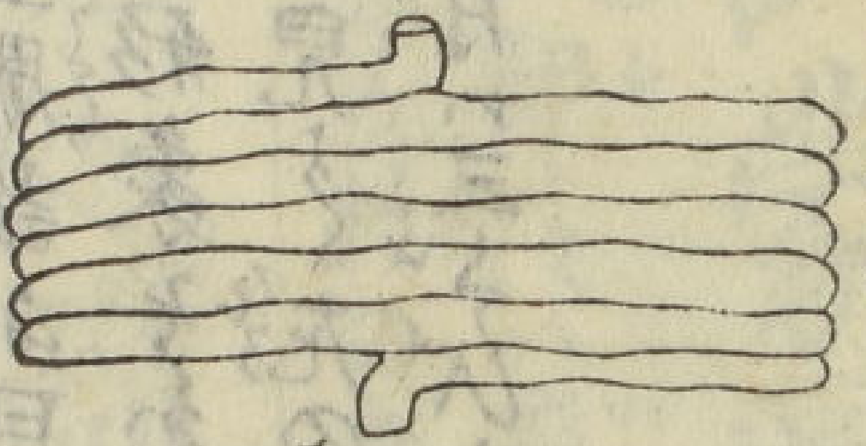
○肝は五臓のうちなり左のわきにあり木なり



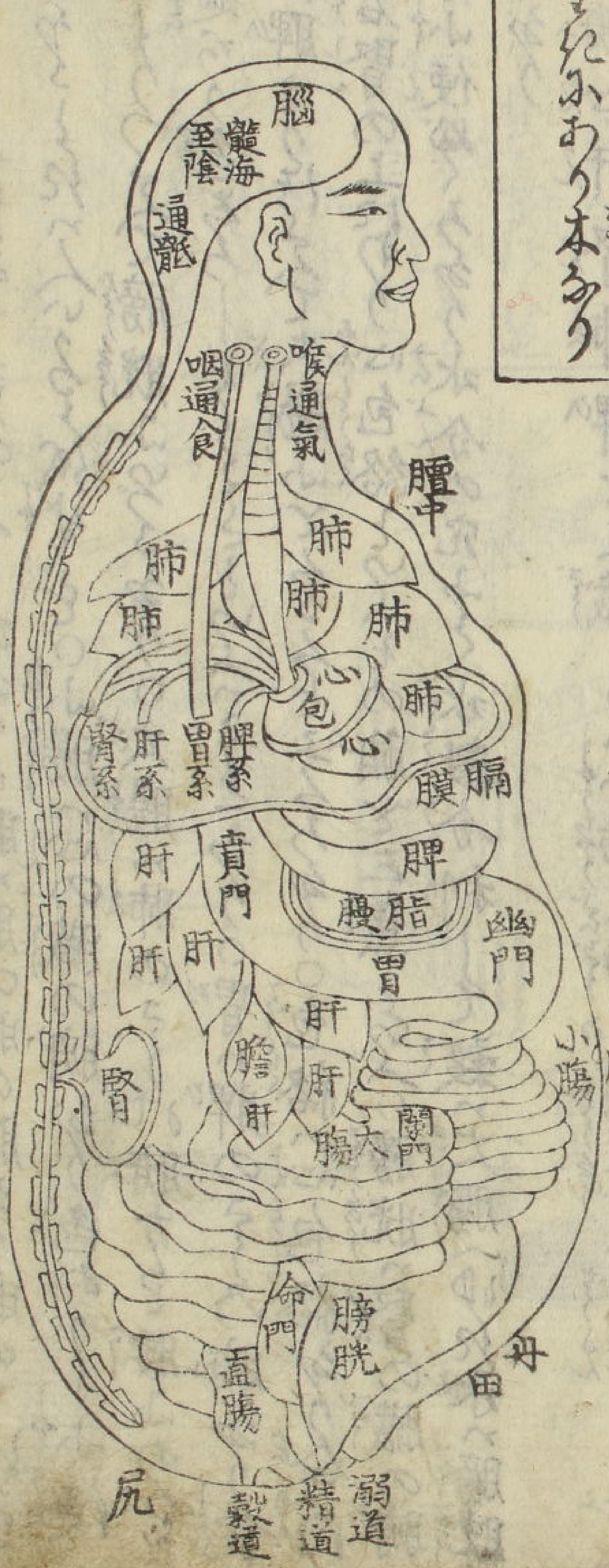








臟腑


脳
髓海
至陰
通髄
喉通氣
咽通食
膻中
肺
肺
肺
肺
肺
肺
心包
心
膈膜
腎系
肝系
胃系
脾系
賁門
脾
腰脂
幽門
胃
肝
肝
肝
肝
膽
肝
小腸
臍
腎
大腸
闌門
命門
膀胱
直腸
丹田
尻
溺道
精道
穀道

色あをし七葉ありて䰟のかくる所なり○膽ハ肝の臓の腑なり肝の下にあ
膽のかゝるハ人いかるを決すど○小腸ハ心の臓の腑なり色あかし小便
こしにまりつたへて膀胱にいづるなり○大腸ハ肺のさうの腑なり腰にあり
十六廻なり色しろし[illegible]なり○胃ハ脾のざうの腑なり食
物をうけ脾よりはこんで大腸におくるをつかさどるなり○包絡ハ心包絡なり命門
の下右腎の上にあり心包絡といふその腑を三焦といふ○膀胱ハ腎の臓の腑
なり小便のふくろなり水分の穴にて水穀分利して穀ハ大腸へゆき水ハ膀胱
へゆくなり

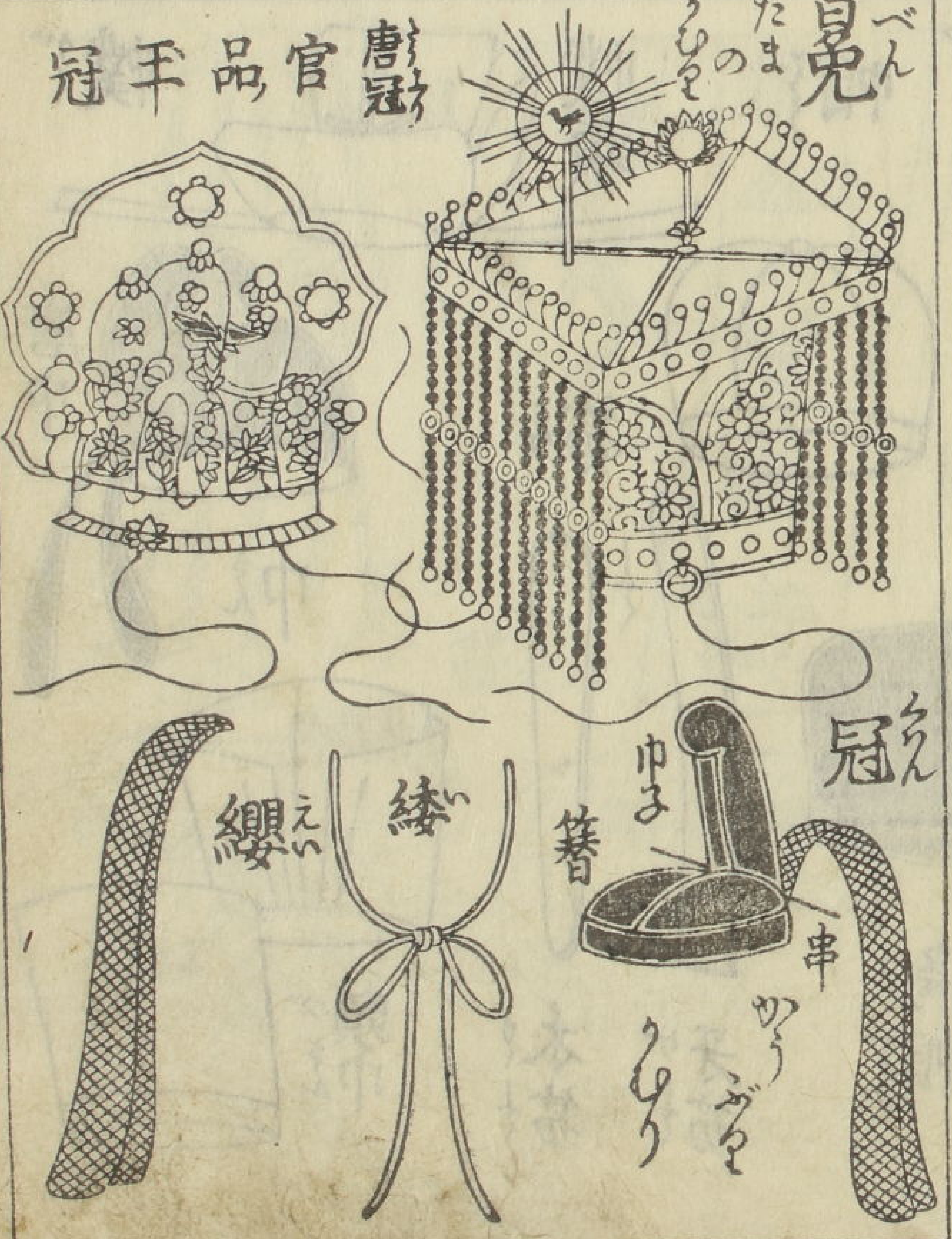
○臓腑　心　肝　腎　肺　脾を五臓といふ小腸　大腸　胃　膀胱　三焦　膽を六腑と
いふ○胞胎はらごもりなり　五臓論に曰一月ハ珠露のごとし二月ハ桃花のごと
し三月ハ男女わかる四月ハ形象そなはる五月ハ筋骨なる六月ハ毛髪生ず
七月ハその䰟をあそばしむ兒よく左の手をうごかす八月ハその魄とあそばしむ
兒よく右の手をうごかす九月ハ三たび身を転ず十月ハ気をうくる事足

頭書増補訓蒙圖彙巻之六

衣服

此部にハ衣裳冠帯をすべてきる物のたぐひあり

○冕ハ天子の冠なり十二旒有
前にさがりたるハ邪をみまじき
ためなり旁に黈纊とてあり
讒言を聞まじきためなり
○冠ハ貫なり髪を貫ぬくといふ意
と釈名に見えたり冠ハ首にある
ものゆへ何よりも法制をまもるなり
○和冠ハ漆塗にして紗也髪を
おほふ物なり巾子といふハうしろに立
たる物也羅と云貫物を串
といふ又簪ともいふ
○纓ハ冠のうしろにさげたる物也
今燕尾といふ紗にて作る



○幞頭ハ後周武帝に始る もろこしの人唐人のかうふりもの也 幅巾を裁して四脚を出す

○緌ハ武官耳とおほふものなり 冠の纓なり頷の下に結ふ也

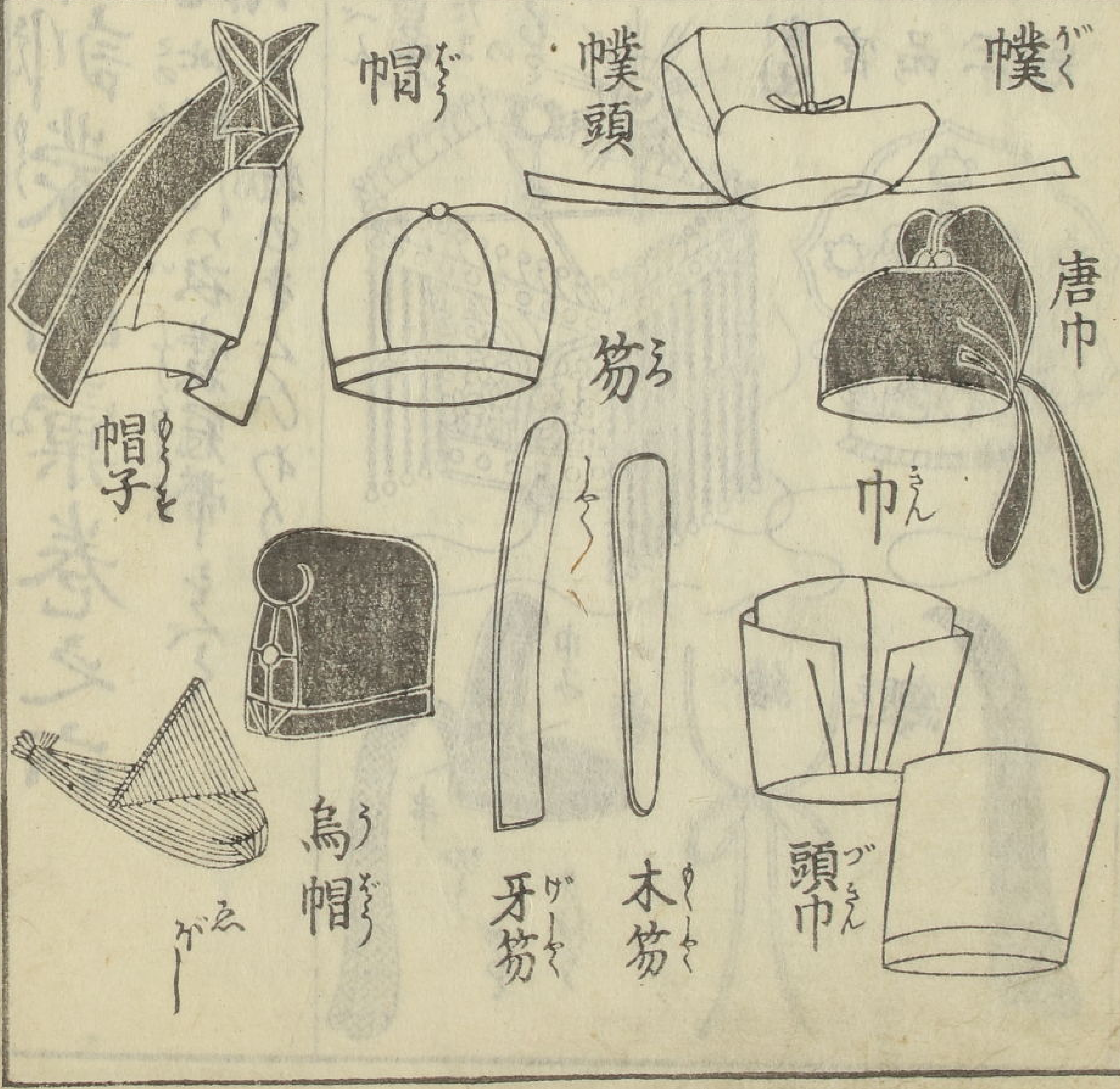
○巾ハ頭巾なりその制衣不 おほし方巾紙巾などいふ名 なるを帽と云ともいへり

○帽ハ頭衣なり唐にハ上 官より下官にいたるまでも 帽ときむる冠の下にきる物なり

○帽子ハ僧の冠なり佛會 法事のときかぶるなり

○笏ハ手板なり天子ハ玉 諸候ハ象牙大夫ハ魚須文 竹士ハ本に象文をかざりてよし 用ゆ官人のもつものなり

○烏帽ハ紙にてつくる漆ぬ

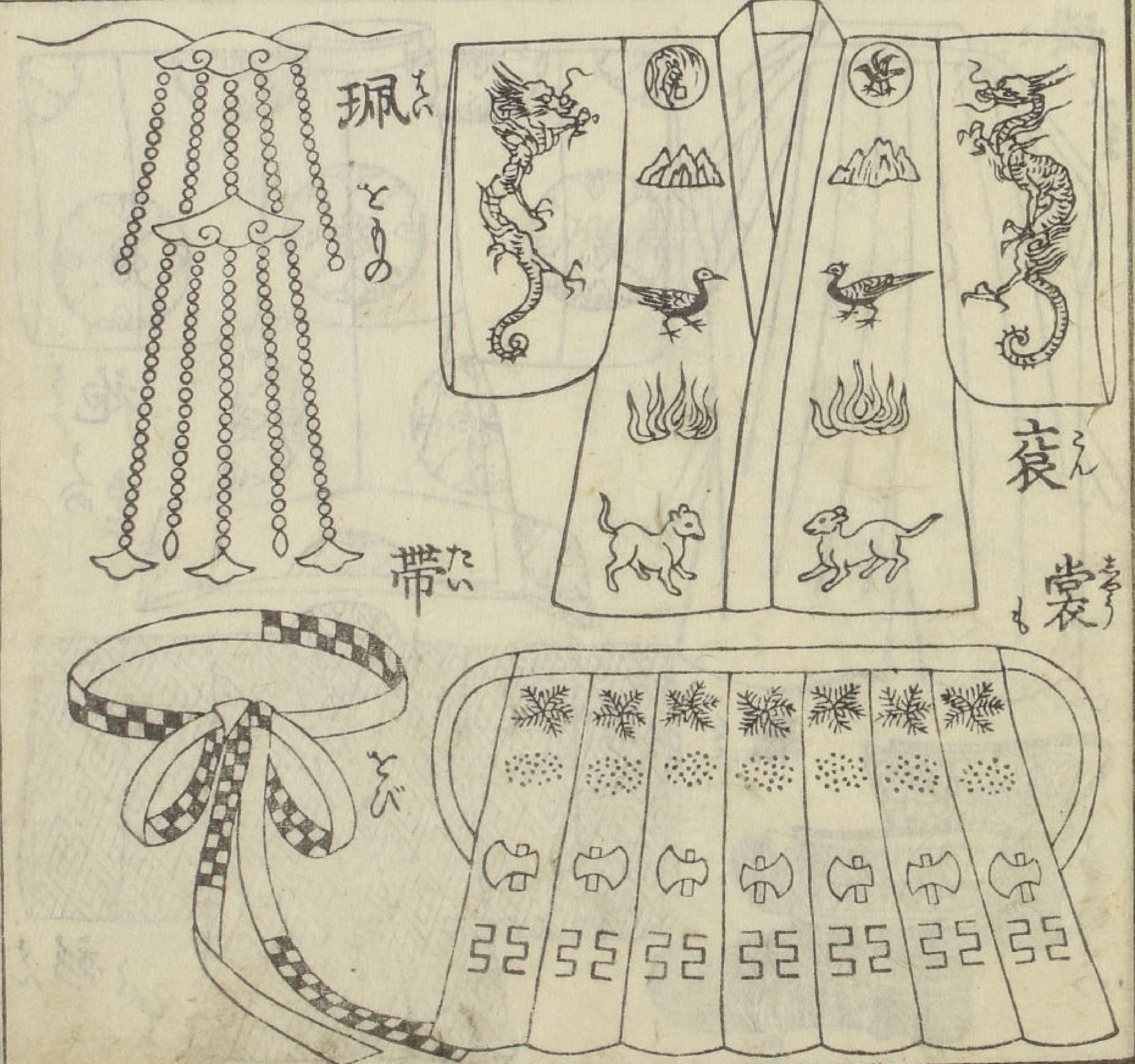


てぬるなり丸打ハ侍従以上 若を右打ハ五位已上これを 若を侍従以上ハ糸の緒に 位已下ハ紙の緒にて結ぶ

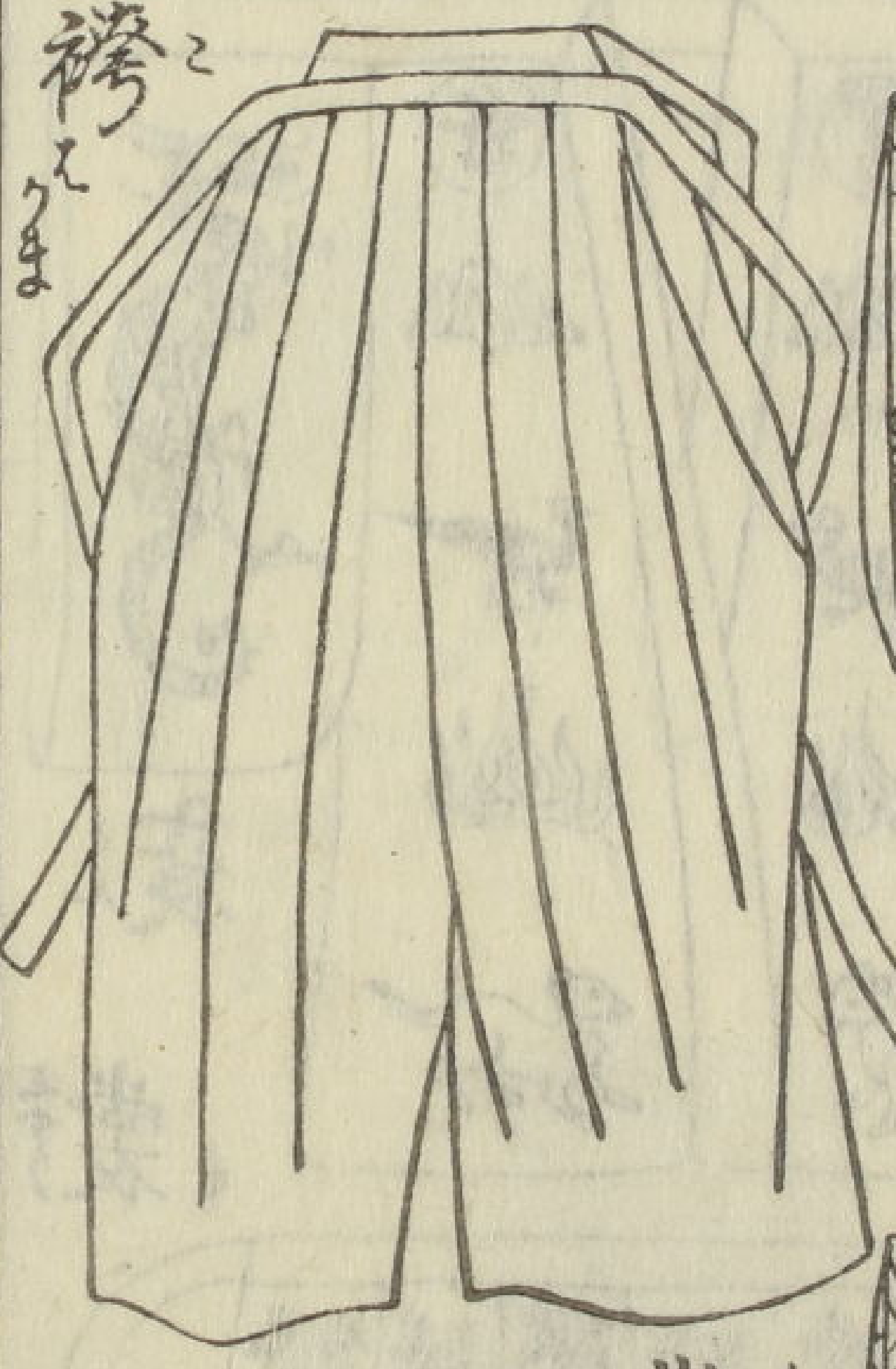
○袞ハ天子の御衣裳衣なり 一に龍二に山三に花蟲四に 火五に虎以上衣にゑがく六に 藻七に粉米八に黼九に黻 以上裳にあり是を九章 の御衣といふ

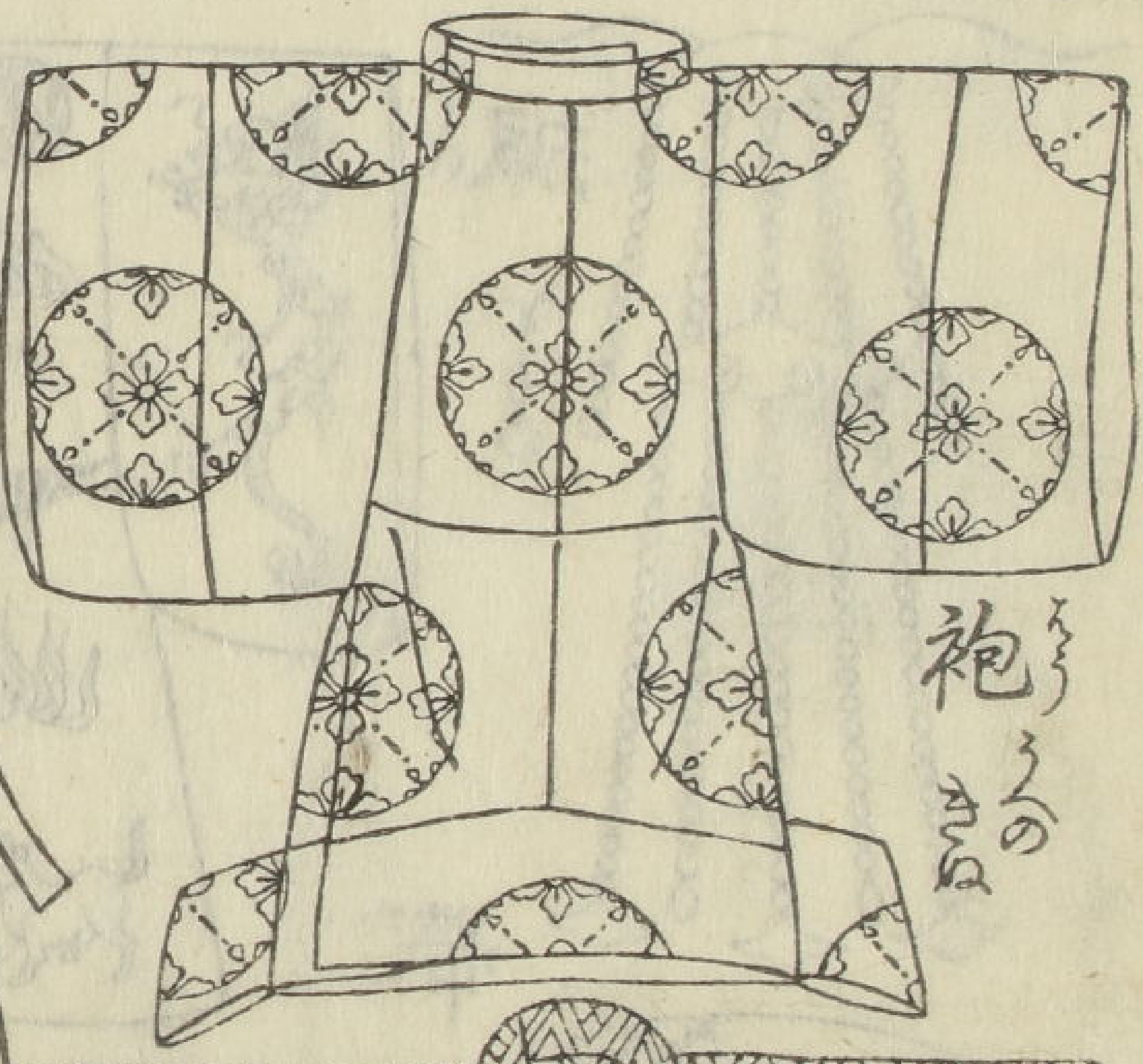
○裳ハ上を衣といひ下を 裳といふ裳の紋ハ宗藻 粉米黼黻なり九章の内 なり天子御衣の裳なり

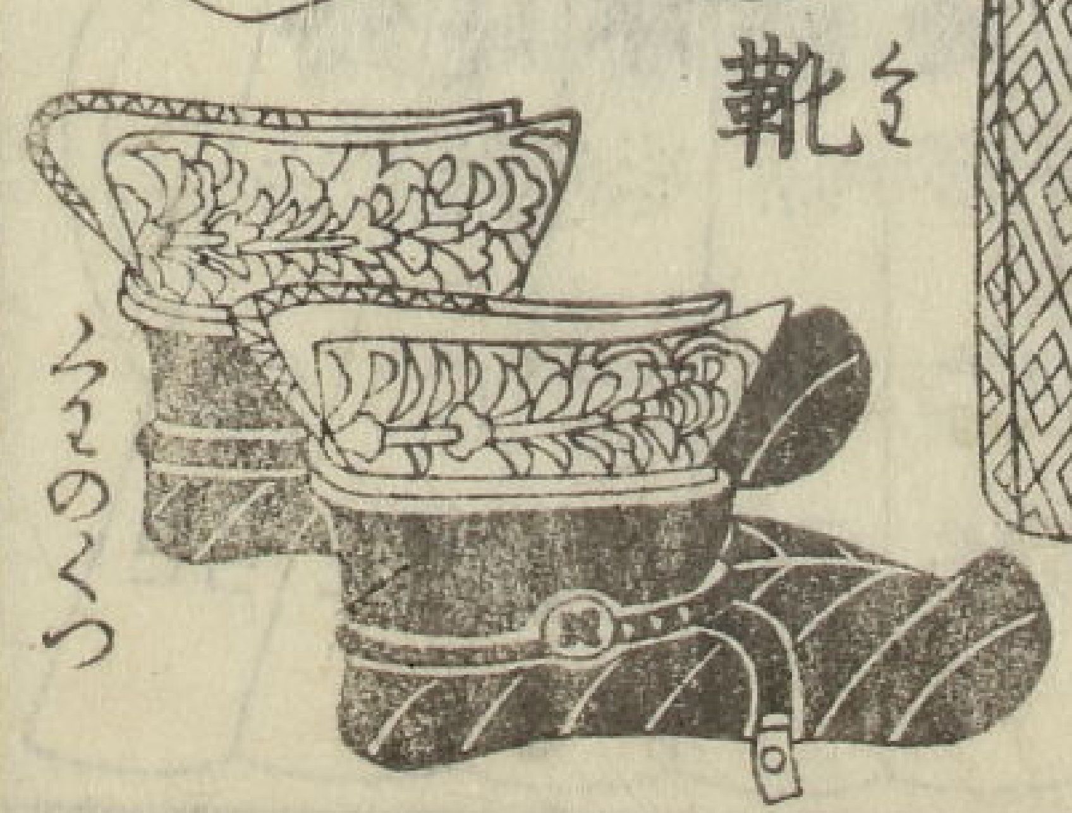
○珮ハ官人の腰におぶるもの なり上に双衡あり衡ハ長 さ五寸ひろさ一寸下に双璜 あり璜のまろさ三寸也蠙

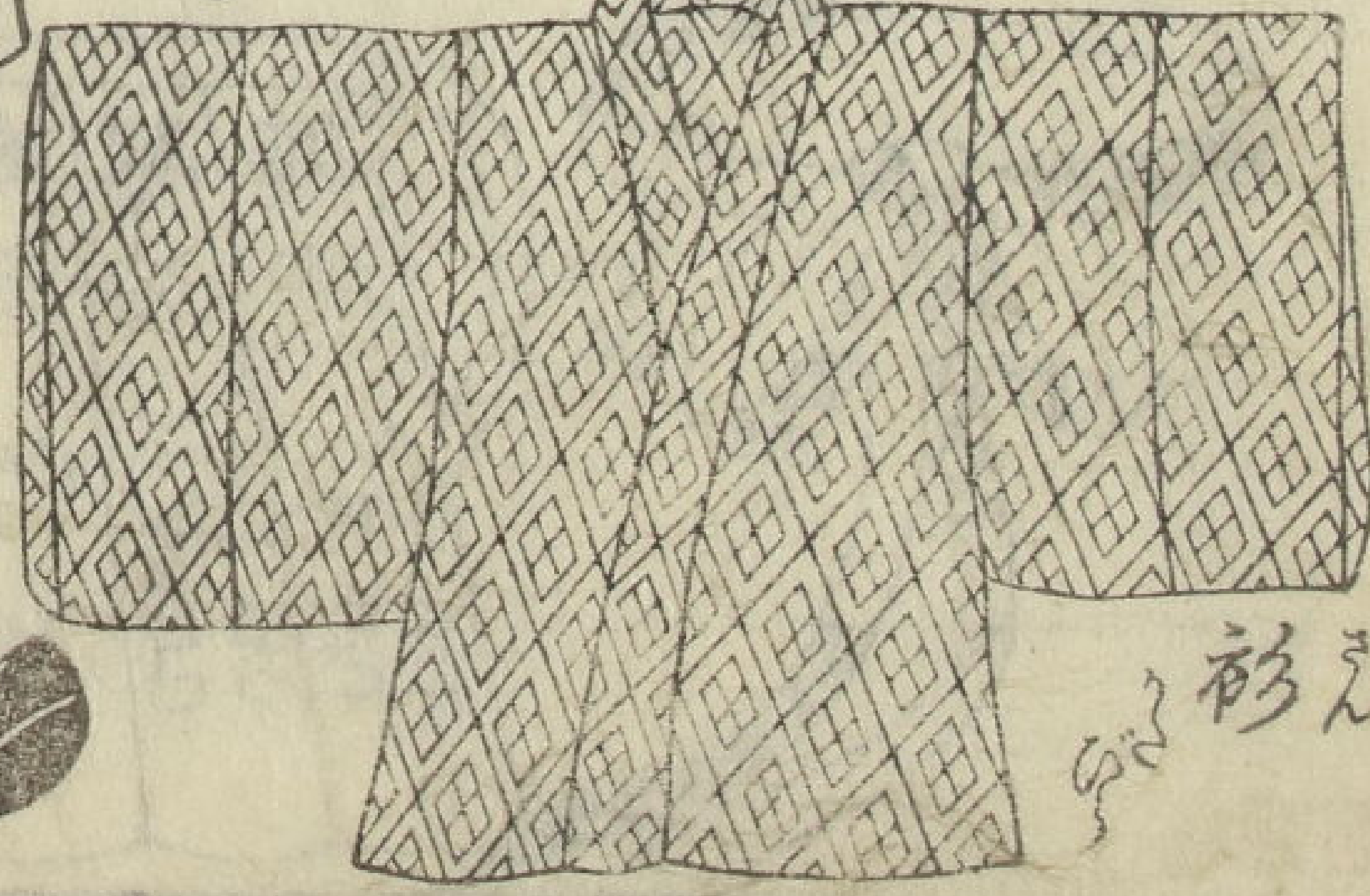


珠をその間にはさむ
○帯は字のごとし珮玉をはかぐものなり石帯あり下帯又掛帯あり
○袍はながぎぬ繻絆なるを今朝廷へ出仕のときにきる服を袍といふ又ふるきはいろどる服を縕袍といふそのめぐるを素袍といふ
○衫は小袖なるをもろぐえん袖端あるを衫衣といふ又紗衫布衫偏衫あるを類おほし公服の下に着る
○袴は股衣なり又大口袴あり襞積あるを信り上下とつゞく上を襴といひ下を袴といふ
○靴は革のくつなり官人

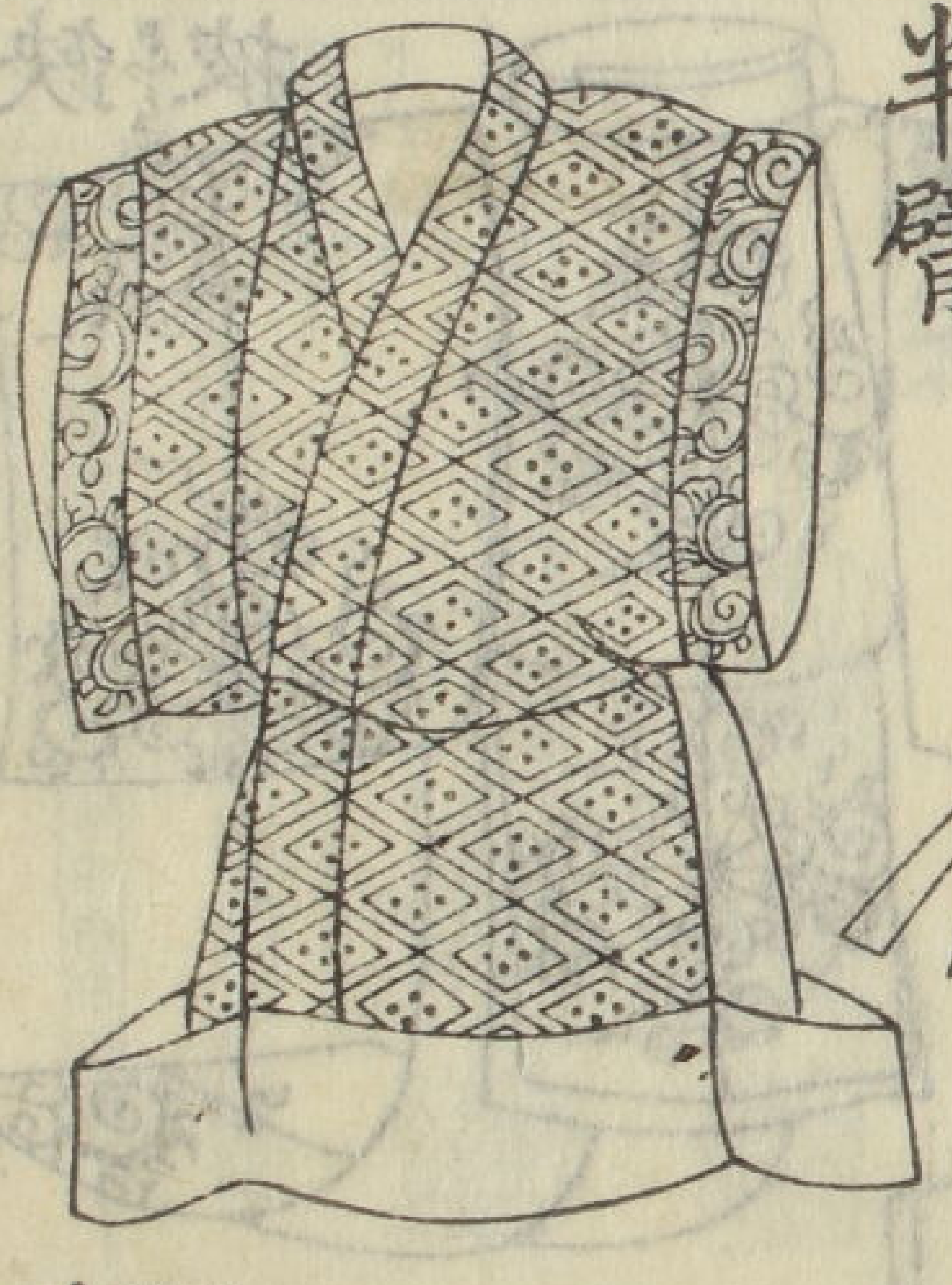


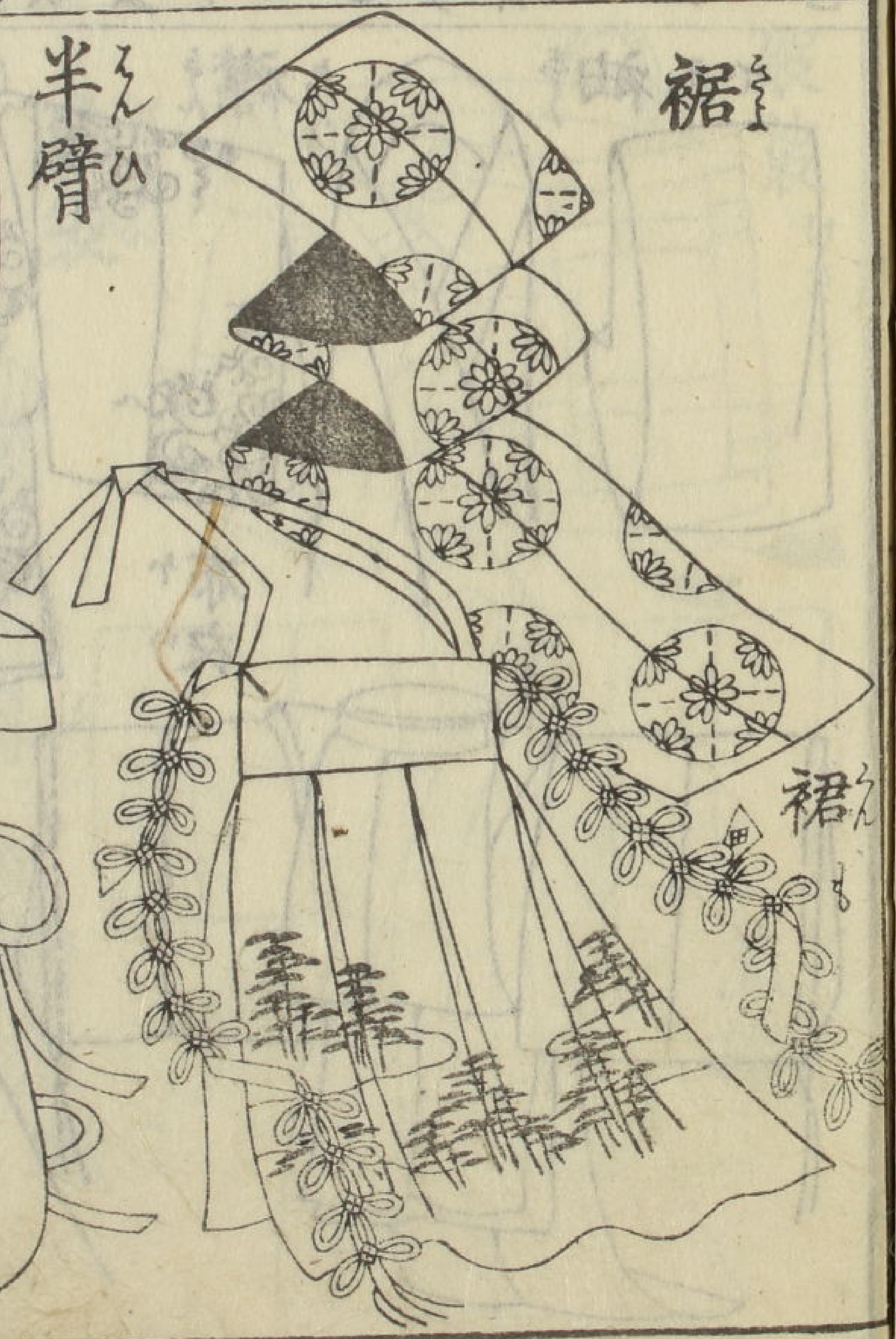


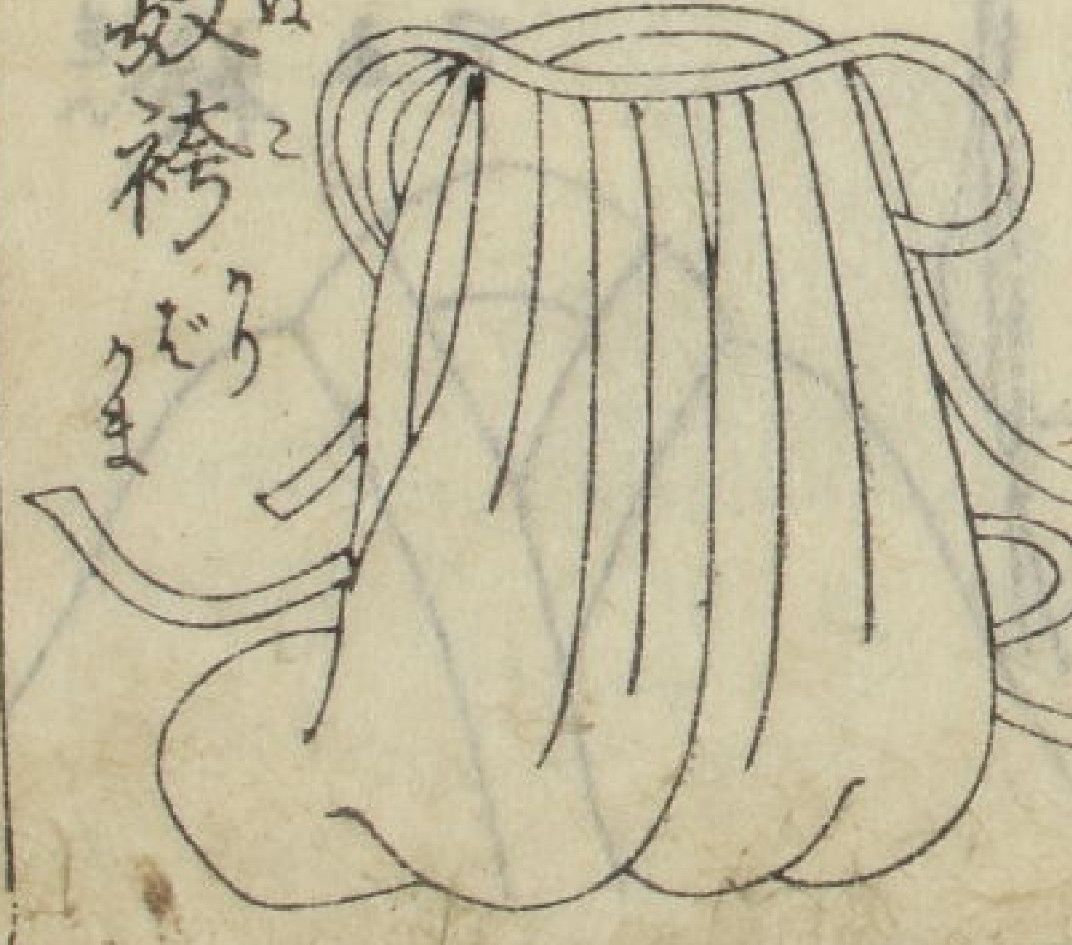




おまとなく石公が靴李白が殿上の靴これなり日本にては鞠乃靴またなり官人僧などの靴は異なり
○裾は衣裳のわきにさがるものなり俗にとびの尾といふなり
○裙は婦人の下にきる裳なり帯にてさぐるべし唐もろく漢の女に蒼裙といふなるを
○半臂は楽人の縫衣裳などにあり袍のゆきみじかくして半臂いづるゆへになづくるなり
○奴袴はさし貫のことなり禁中にて女中のきるはう色なり女のきるは色赤く







そむくなり

○鈌掖ハ大臣のしやうぞく又ハ緌衣装ふあり逢掖鈌かとうひらきあへまあづく

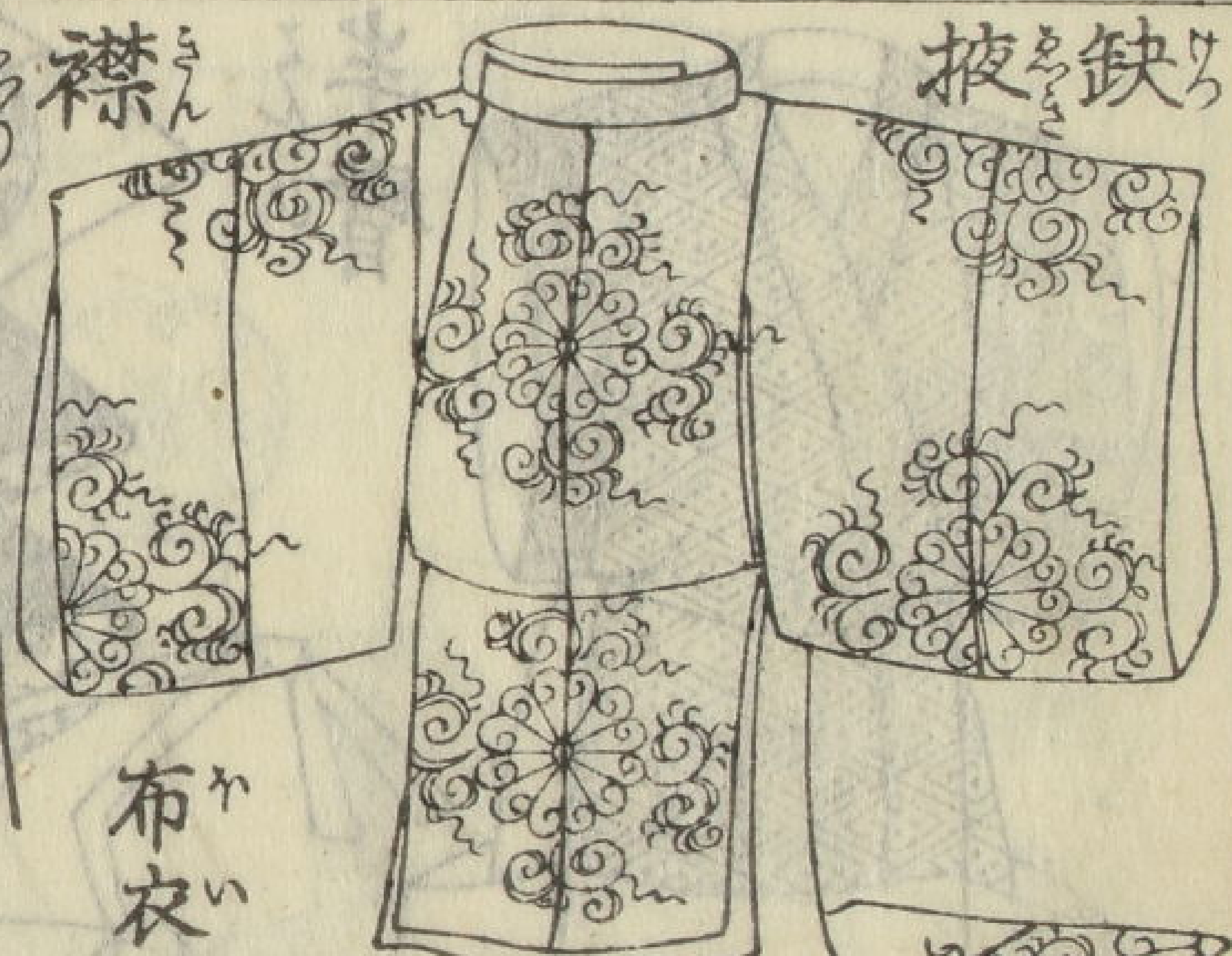
○襟ハ衣乃経ふかまとかるあかり内襟ハしたがひ外襟ハうハがひなるを

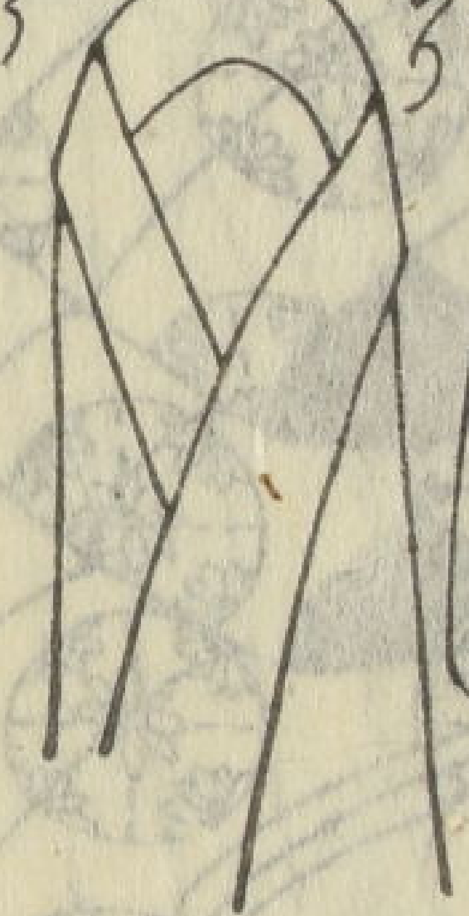
○袷ハころものくびかみ領といふ綱領要領といふも領ハ衣のかうくびの事にとる

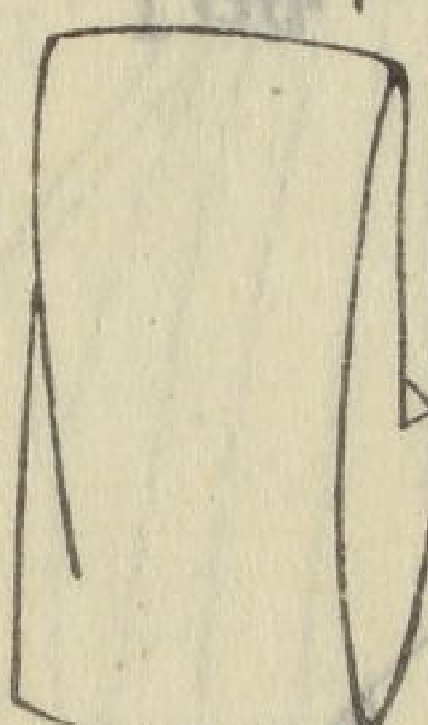
○布衣ハ狩衣に紋なきをいふ下官の役をうるのなり紋あるを狩衣といふされある位のものきる服なり

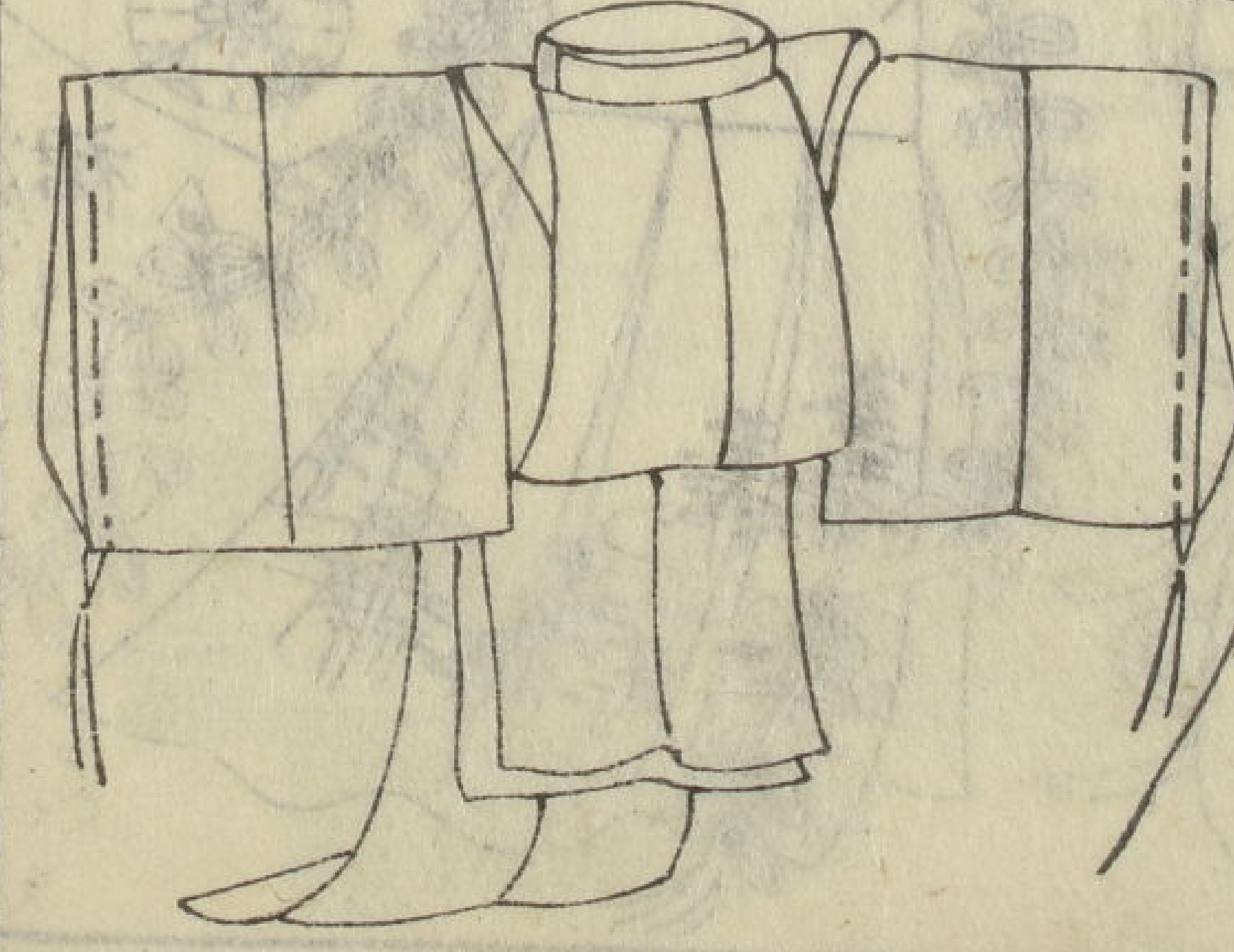
○袖ハ衣の袂なり又長袖といふまそで袪ハそでぐち

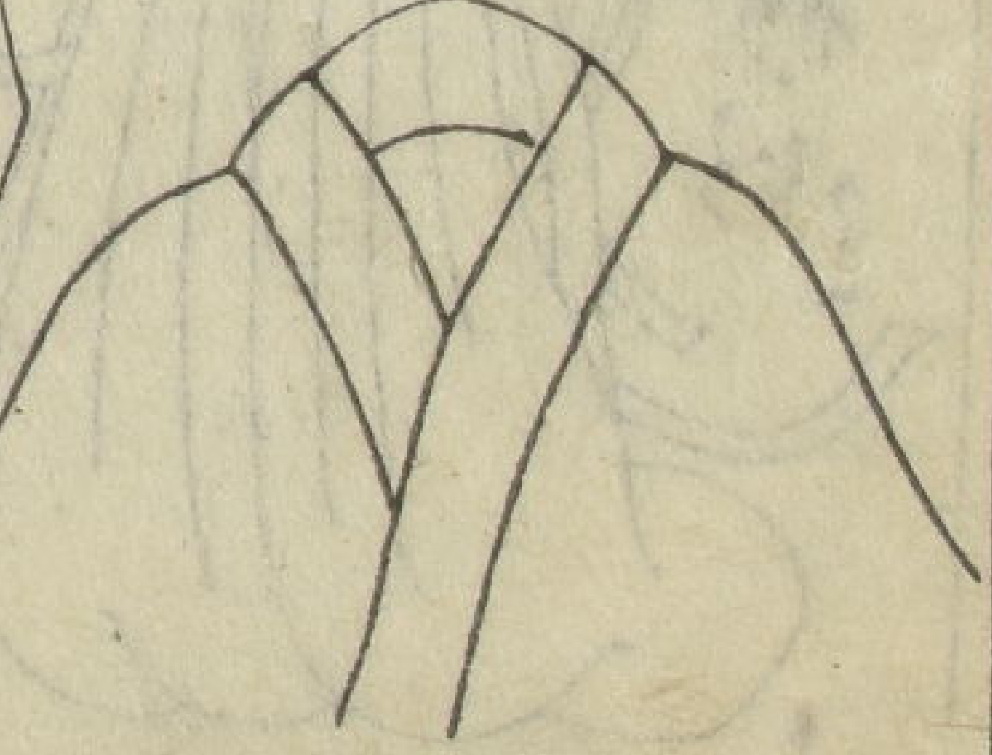
○袈裟ハ大衣七條五條是を三衣といふ大衣ハ九條より二十五條まで僧衣なり











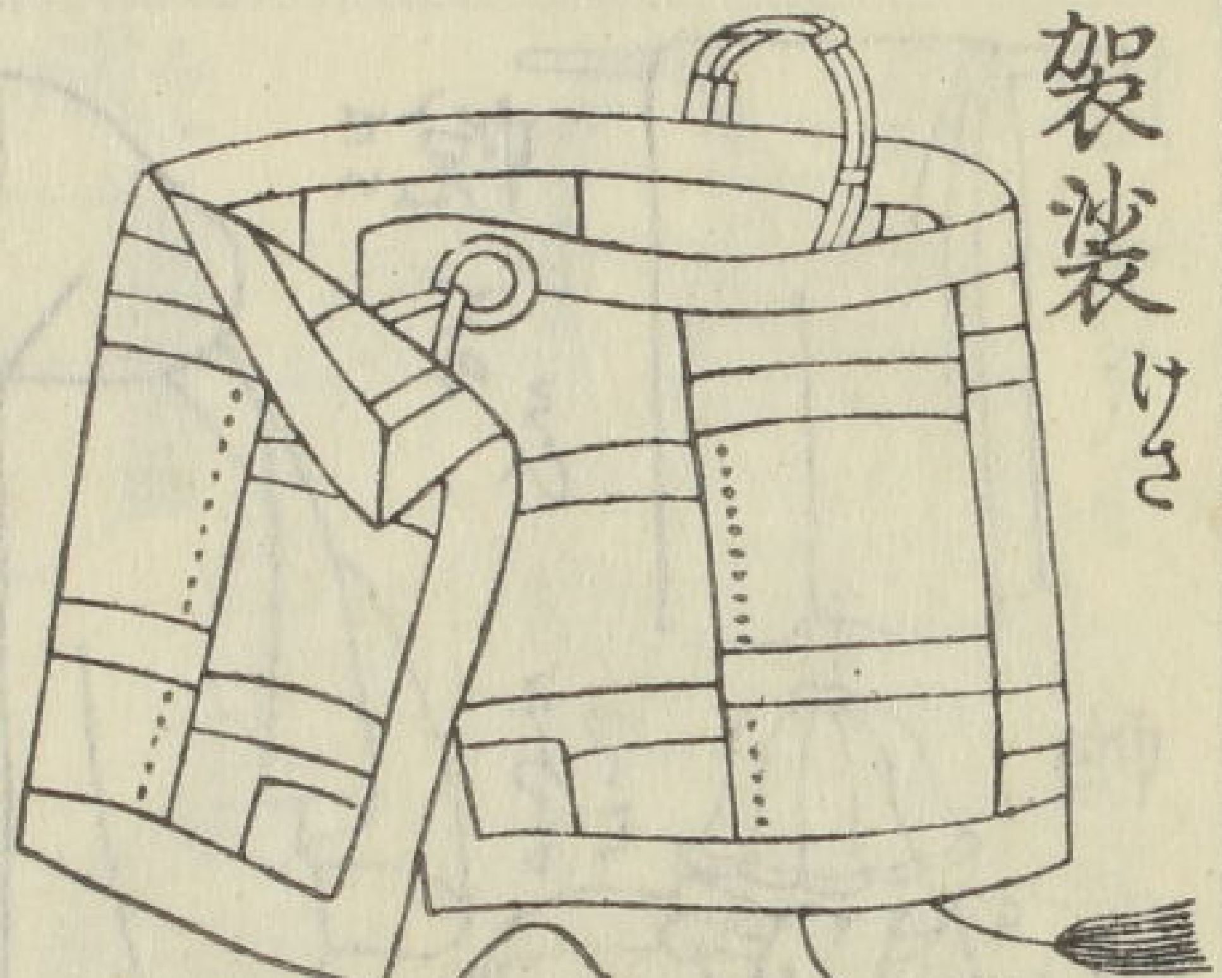
○直綴ハ僧服なりむかし人ハ偏衫裙子を服とのちり上下を綴て直綴と名付るなり

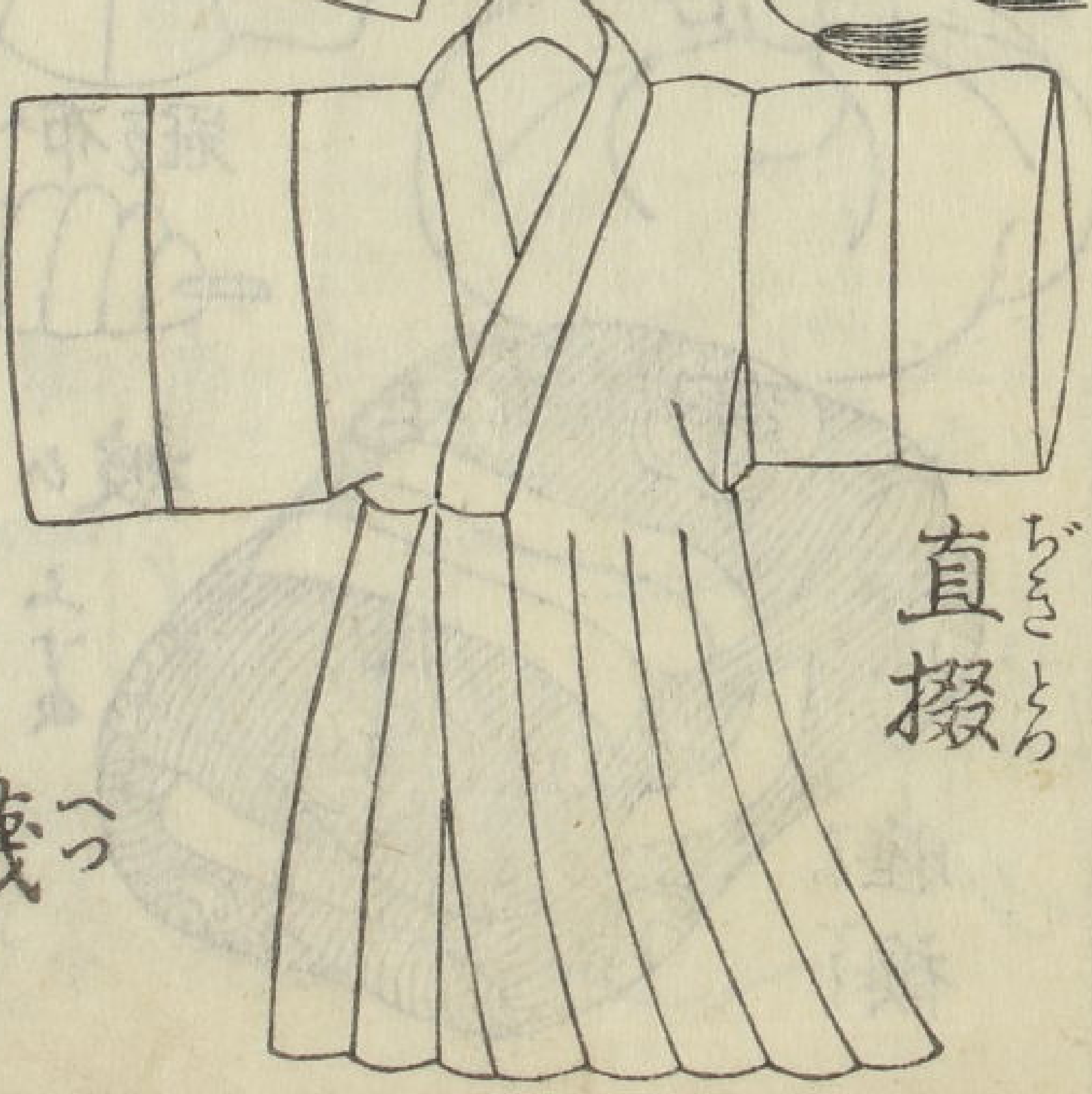
○魚袋ハ官人の腰に帯るものなり公卿ハ金魚袋四品以下ハ銀魚袋なり

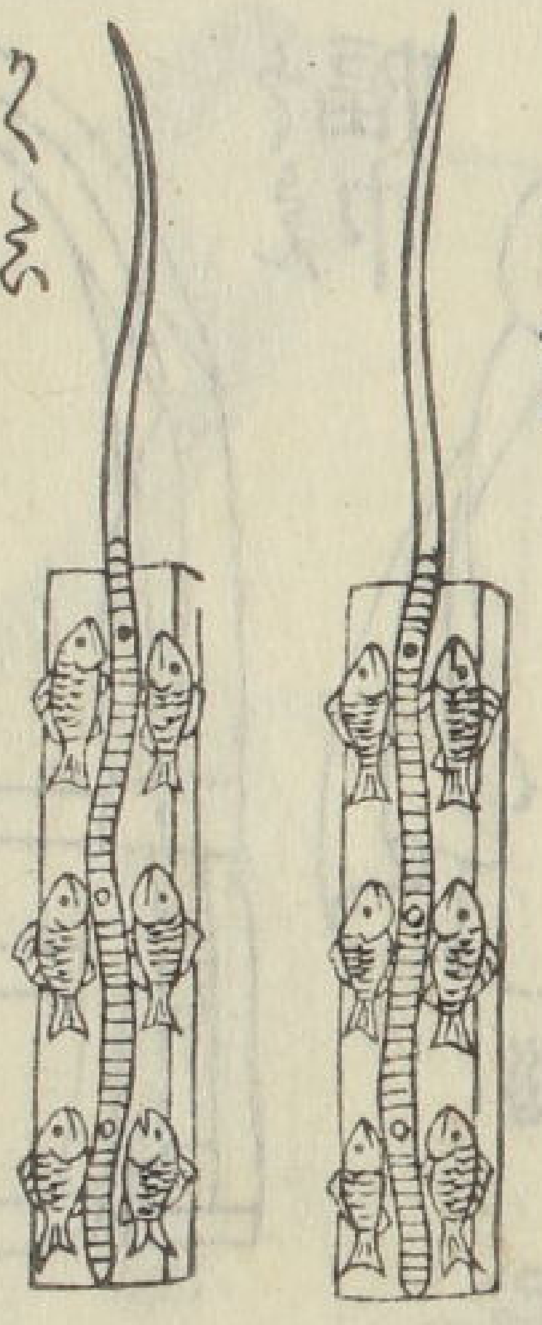
○革帯ハ公家束帯の時ふ帯る帯なり金帯玉帯石帯角帯あり

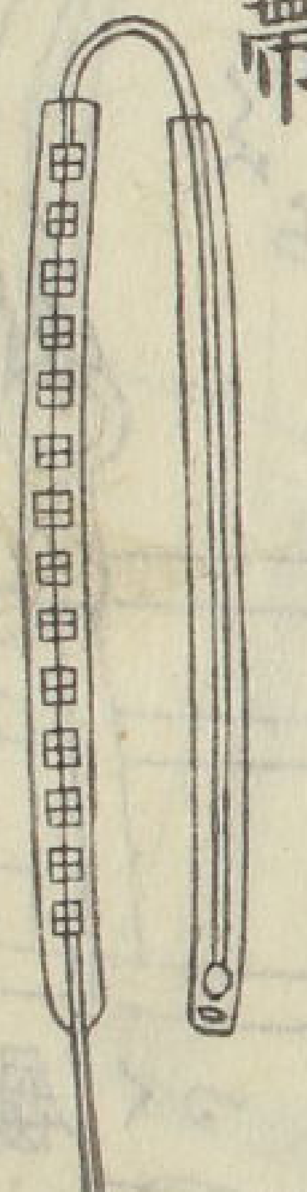
○韈ハたびなり足袋とも單皮とも書なり又韈子といふ

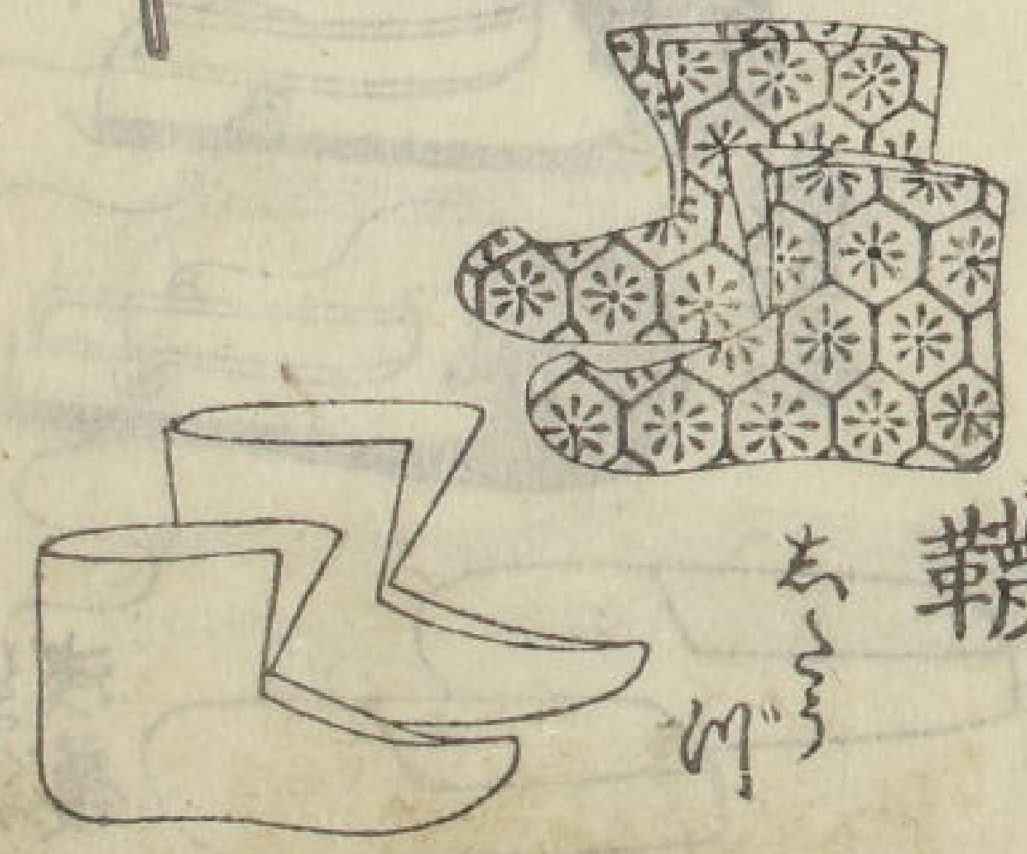
○絡子ハ又掛子とかづく又掛絡ともいふ俗あやまりて環を掛落とよぶ



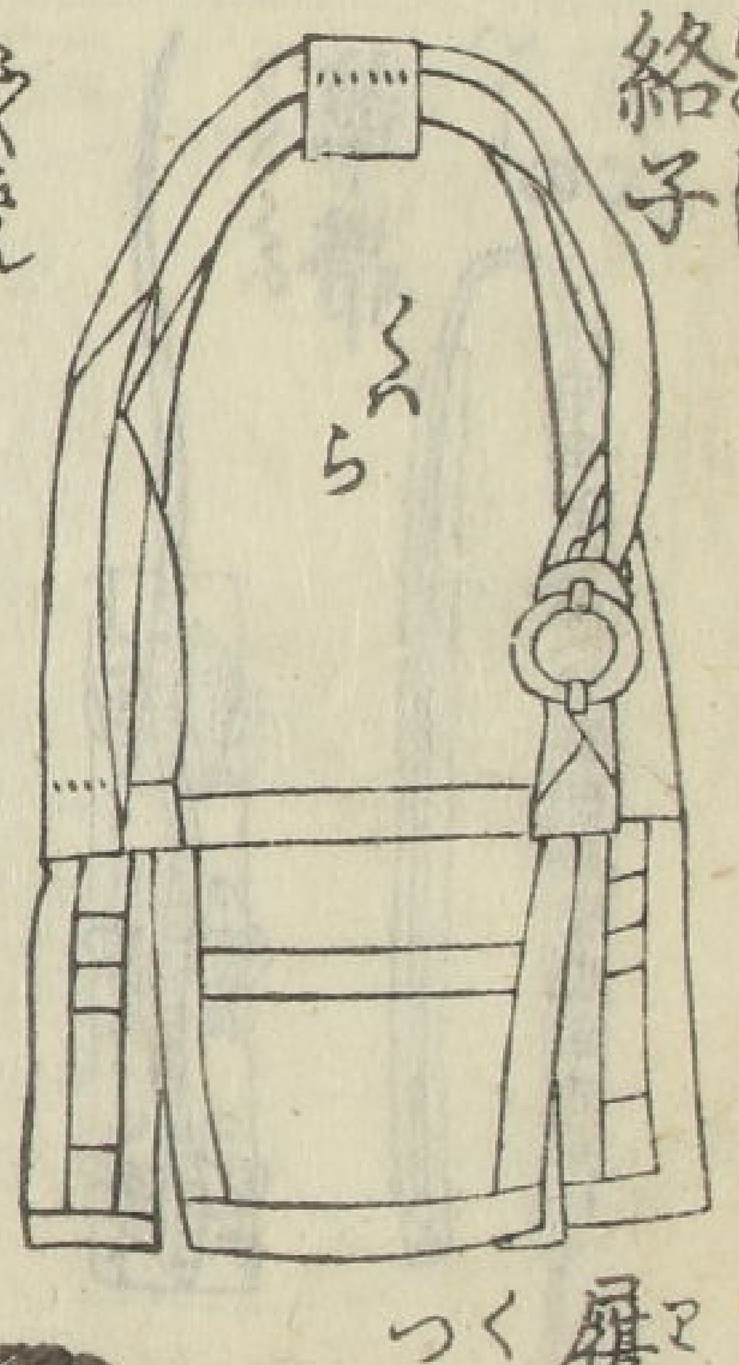


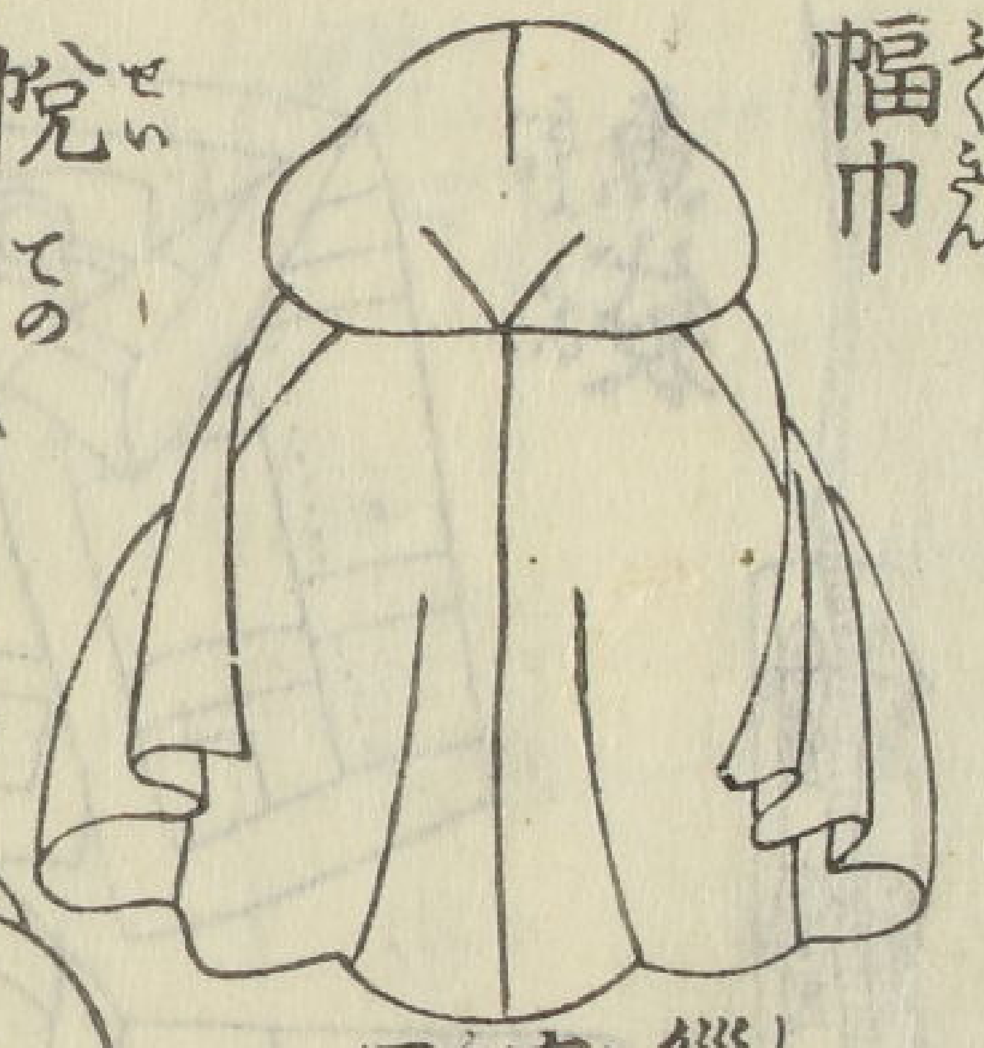


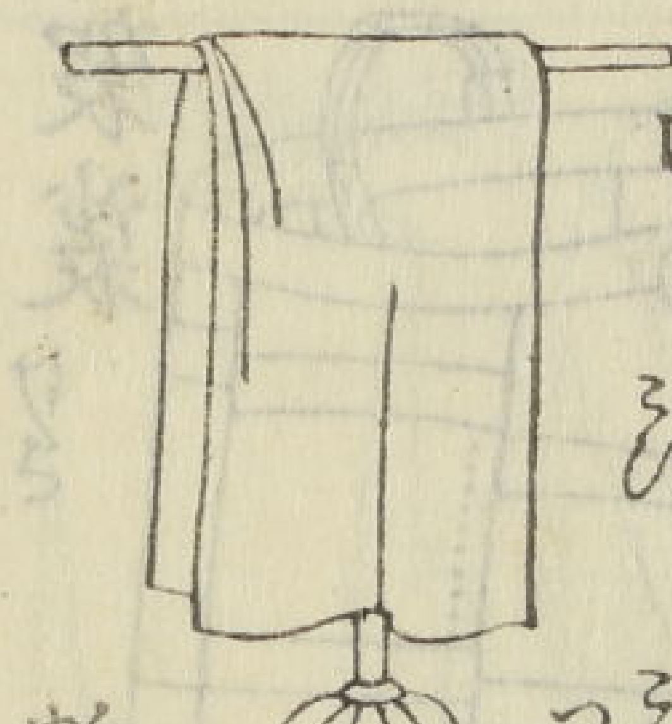


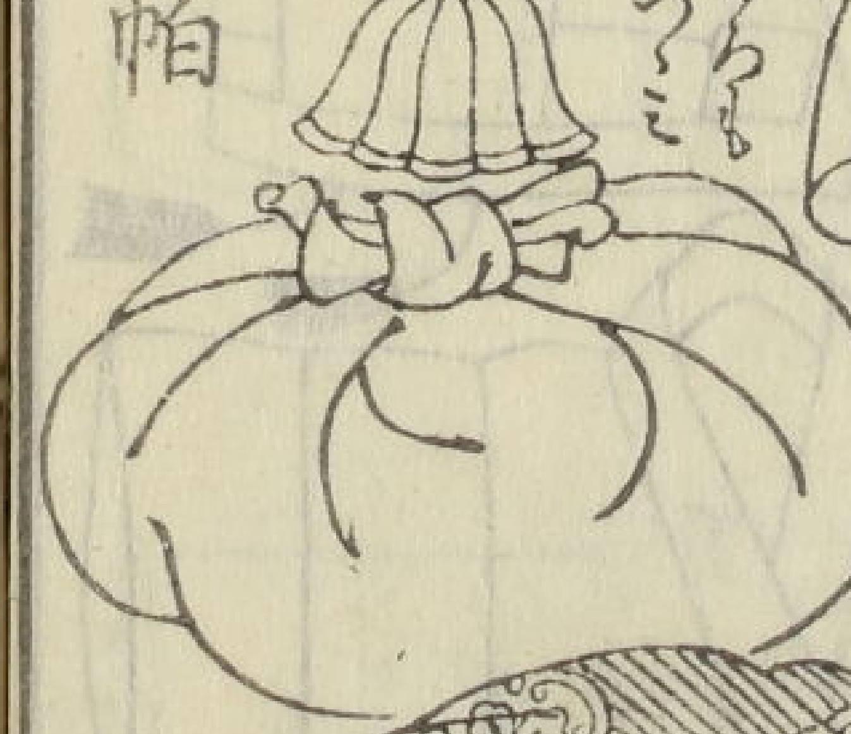


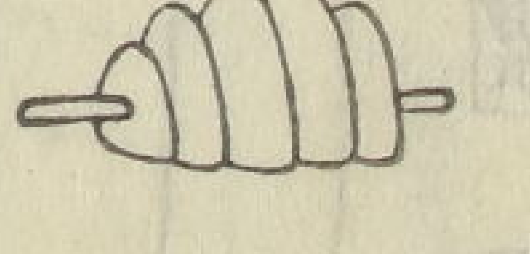
○幅巾ハ白ききぬにてふくろのごとく深衣とともに緇布冠をきて其うへにかぶる冠上につゝむなり唐人の喪ぞくに
○緇布冠ハくろききぬにて作るなり
○帨ハてのごひなり帨巾ともいふてのごひかけを帨架といふ
○帕ハ紅絹なり額を抹といふともあり帛にてつくる
帕衣　包袱並同
○履ハ草と扉といふ麻と屨といふ皮を履といふされども木にてつくる
○被ハ寝衣なり俗に夜着といふ又睡襖ともいふ
又被襖

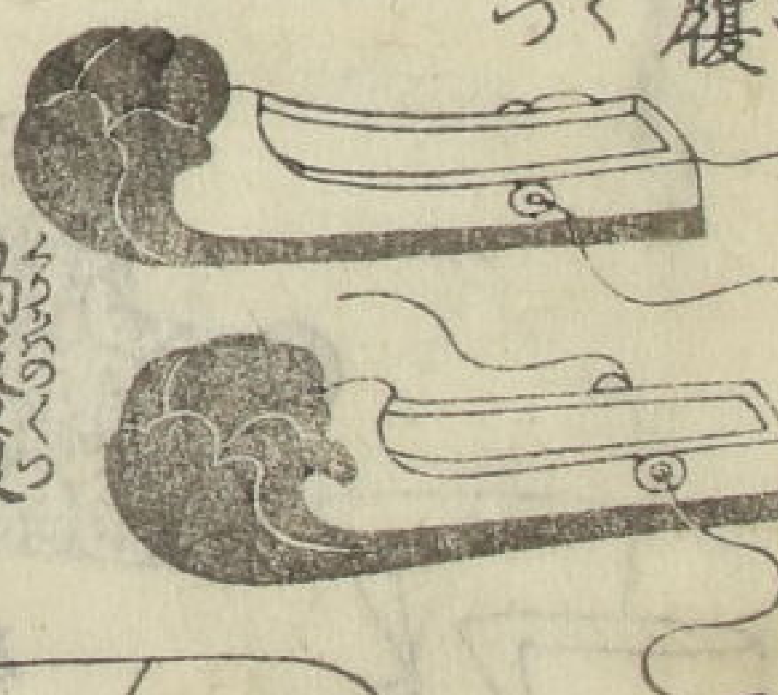


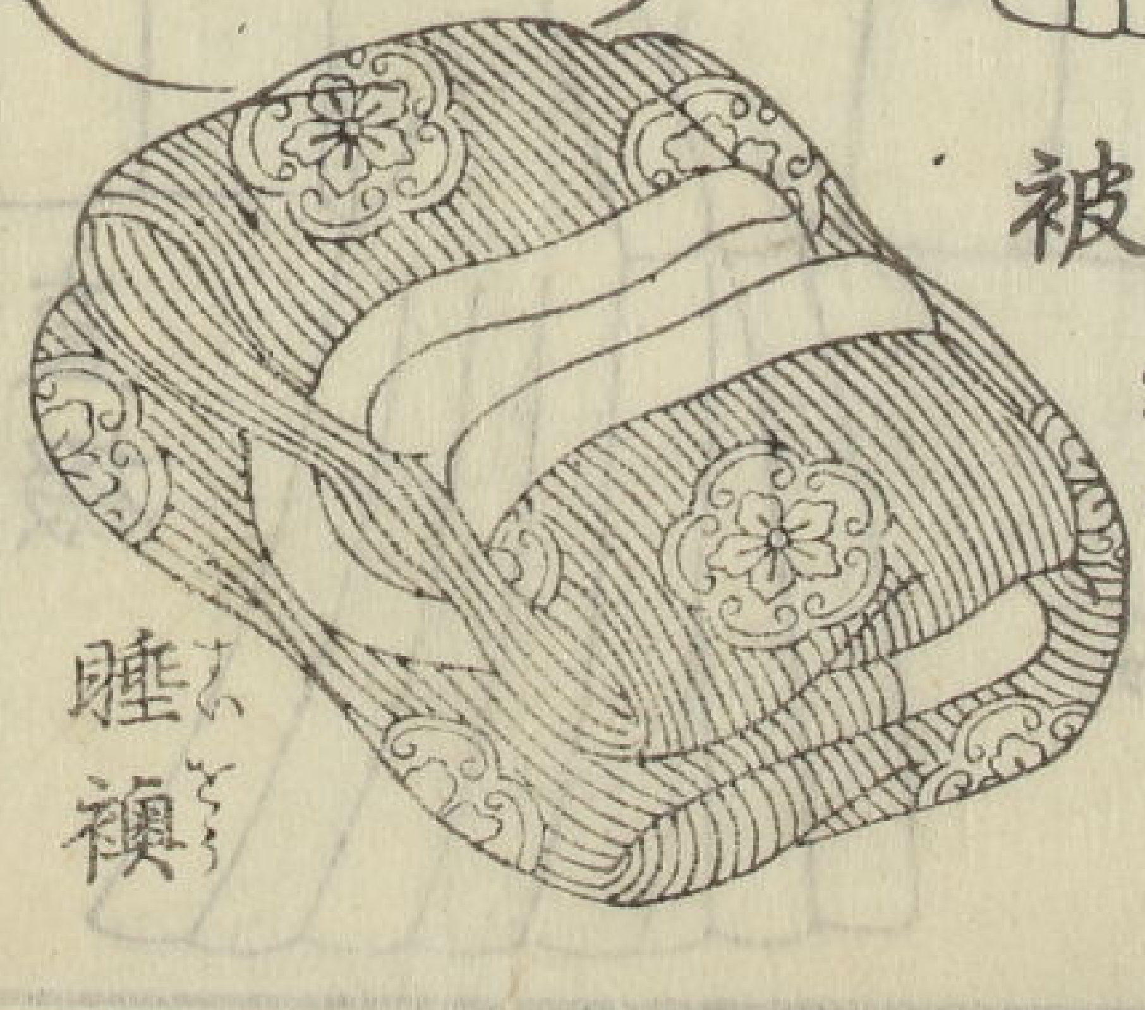


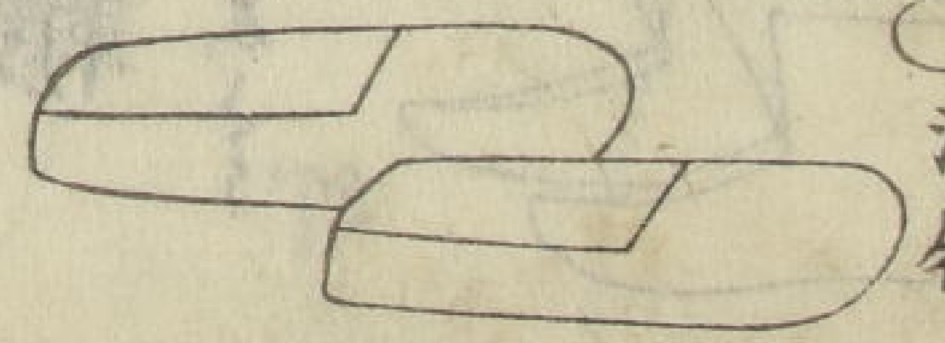




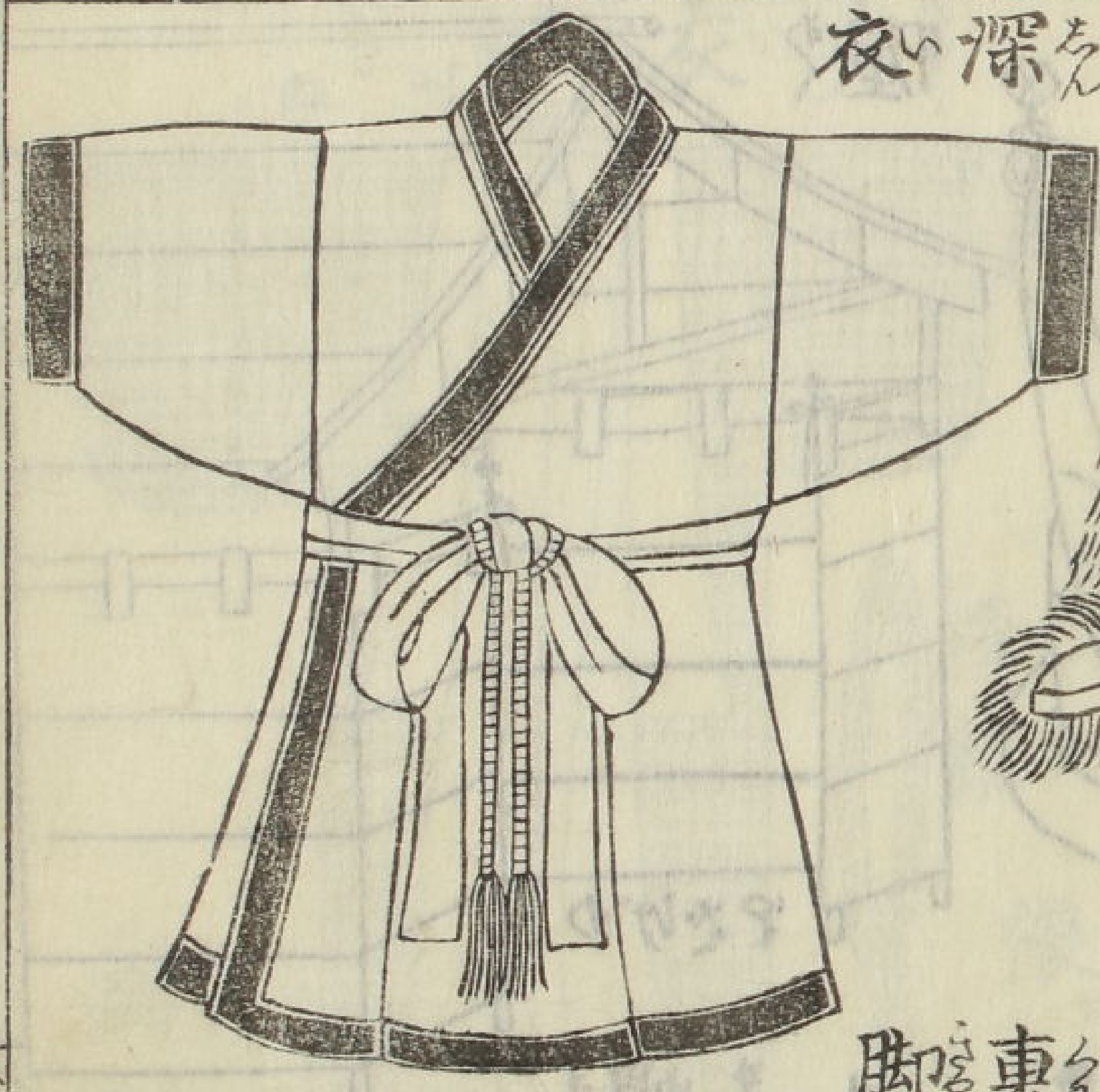


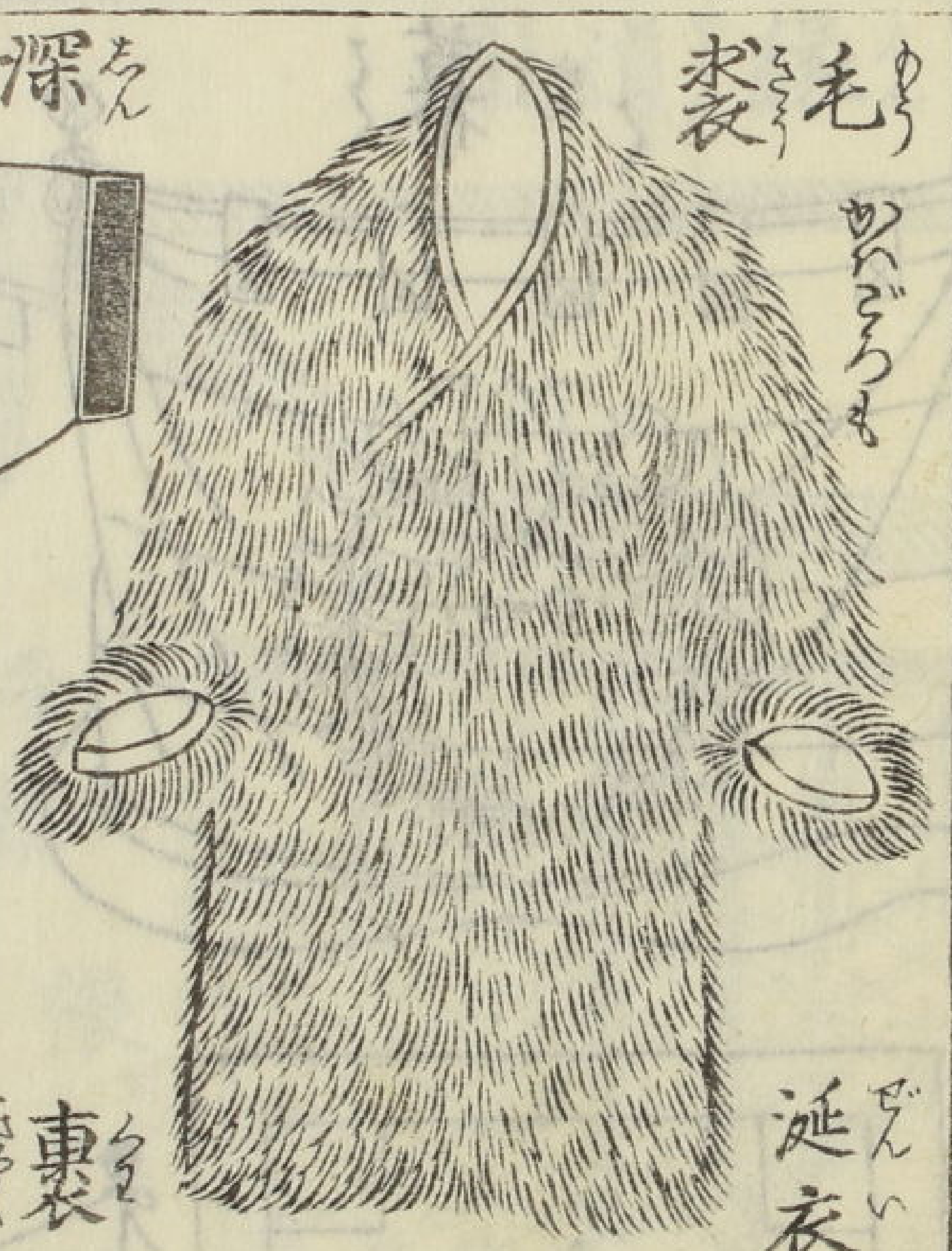


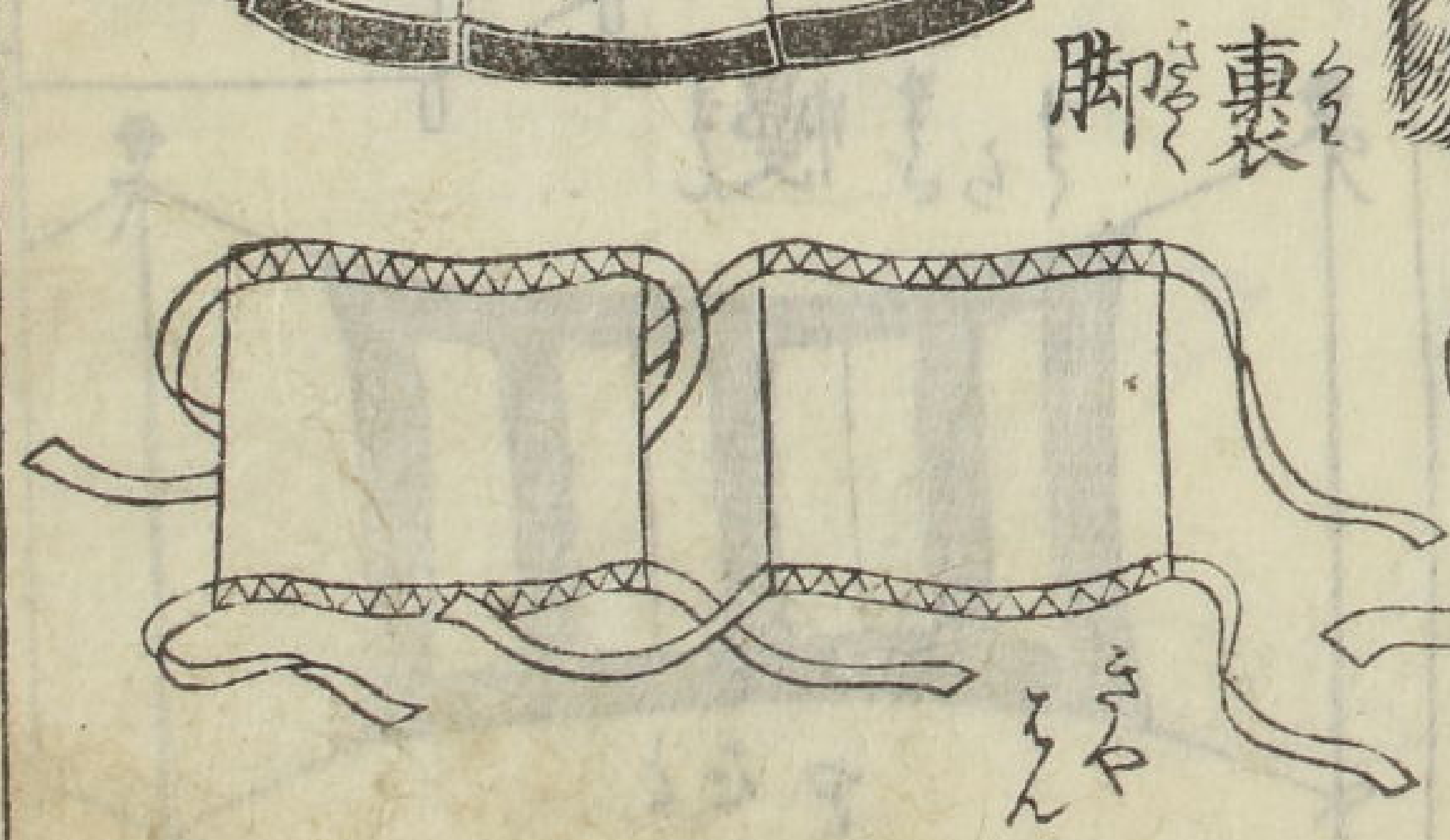


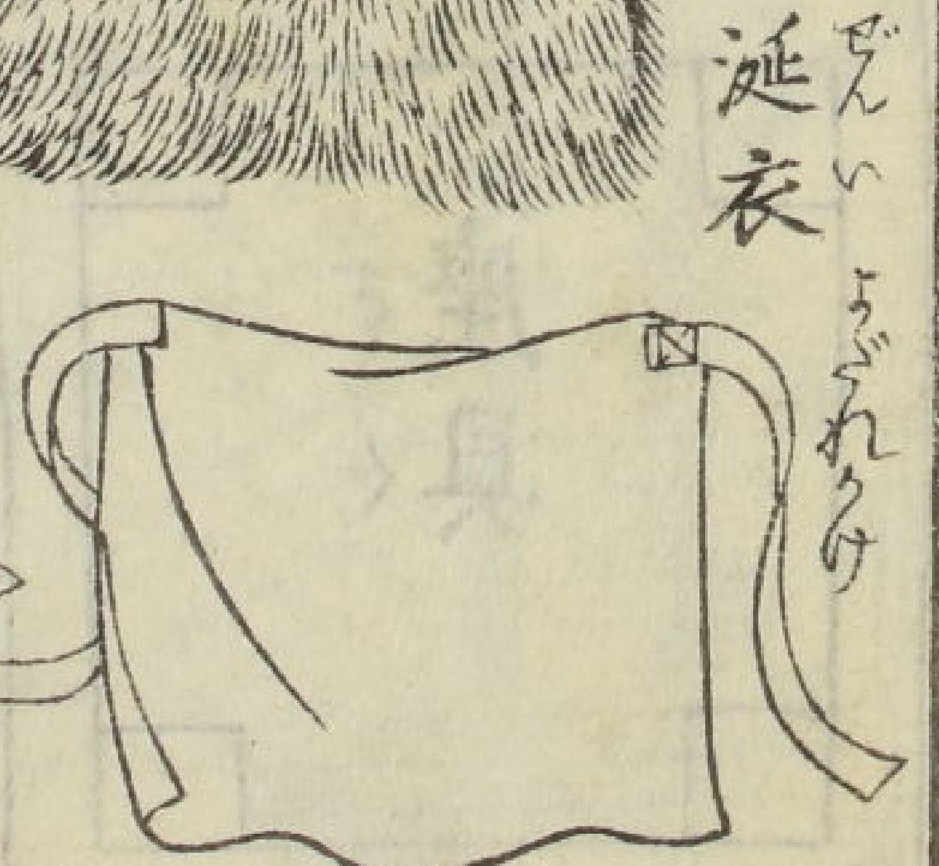


○毛裘ハ鹿又狐の皮にて作る衣服なり寒気をよくふせぐ異ハねのごとく上人冬月これをきる
○深衣ハ儒者の着する衣服なり白き布にてつくる帯も白し五采の糸をもつて帯のひもとへりを圓む又黒衣よそほひもある
○涎衣ハ小児のよだれかけなり　襜　涎同
○裹脚ハはゞきなり脚絆なり裹脚ハ裹脚ともいふ又脛巾　行纏　行縢なりしにとも用ゆ
○幄ハ上下四方をおほふ帷なりて宮にてたてるを幄といふ大ねの台









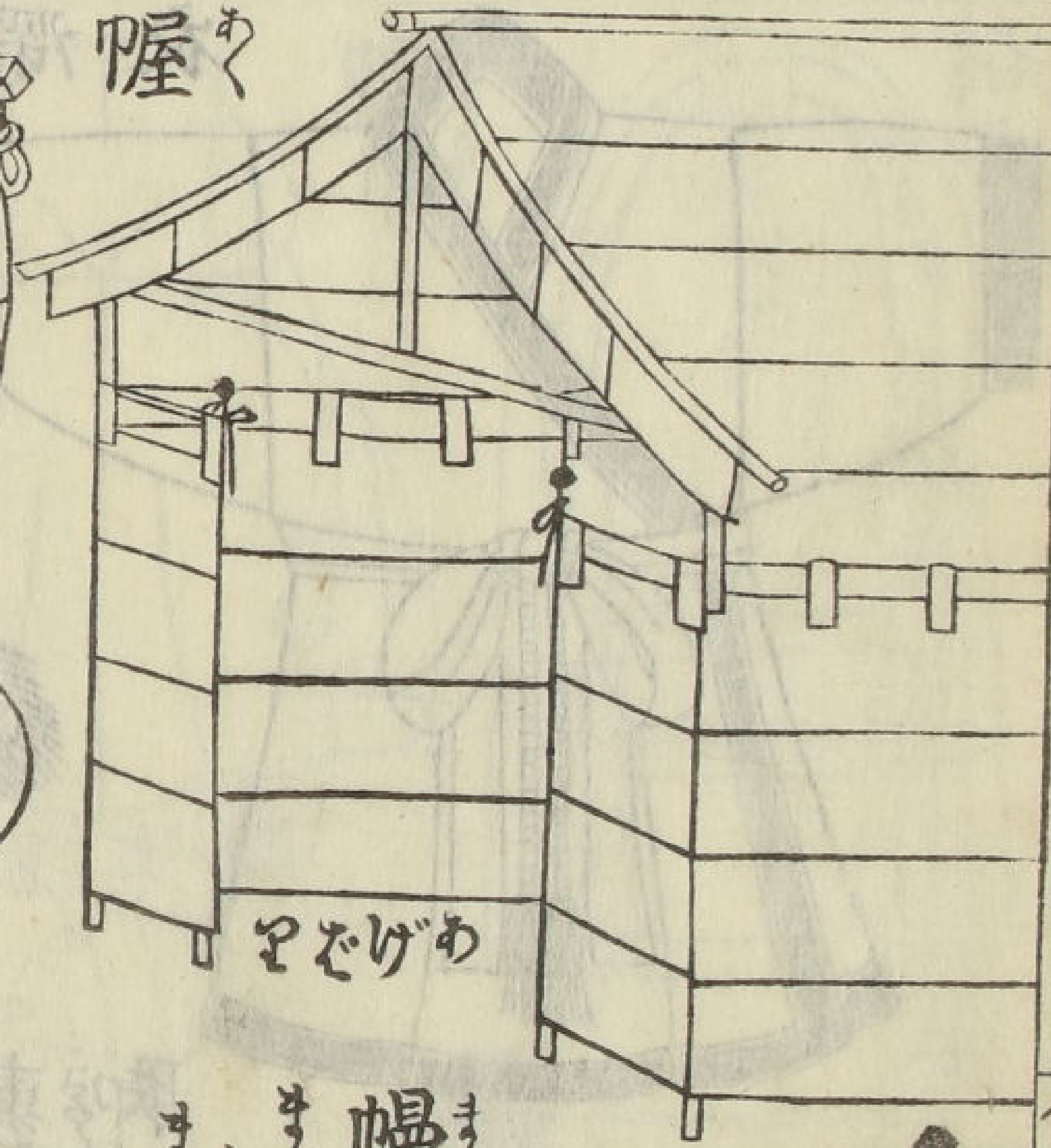
なる物見あるを幄といふ周の世よりはじまる

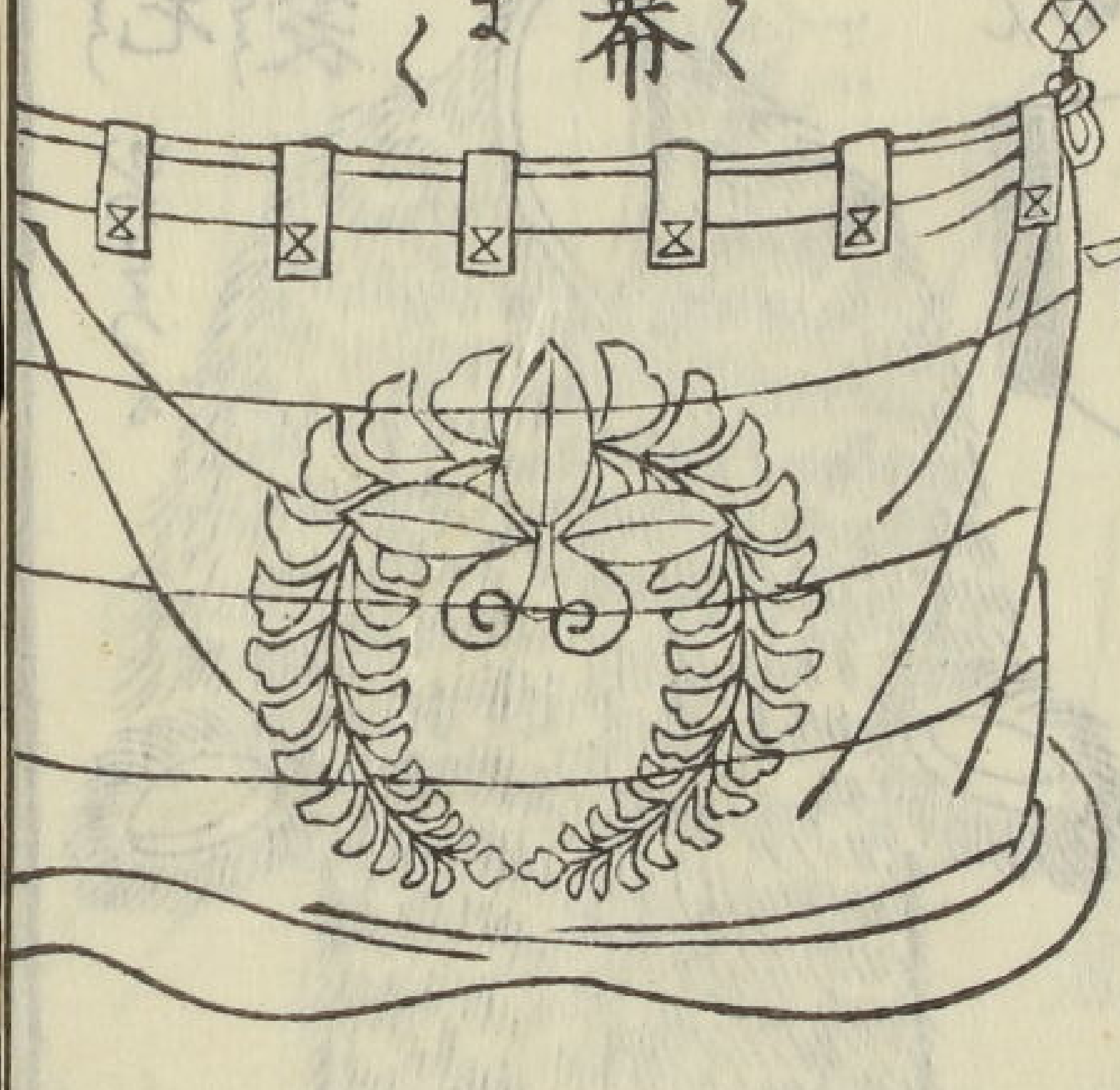
○幕ハ周の世よりはじまれりきぬ幅にて物をかこふ也幕とハ布十二端と二張をしそ十二月に象し乳数九八とは九八窮る数を表すと

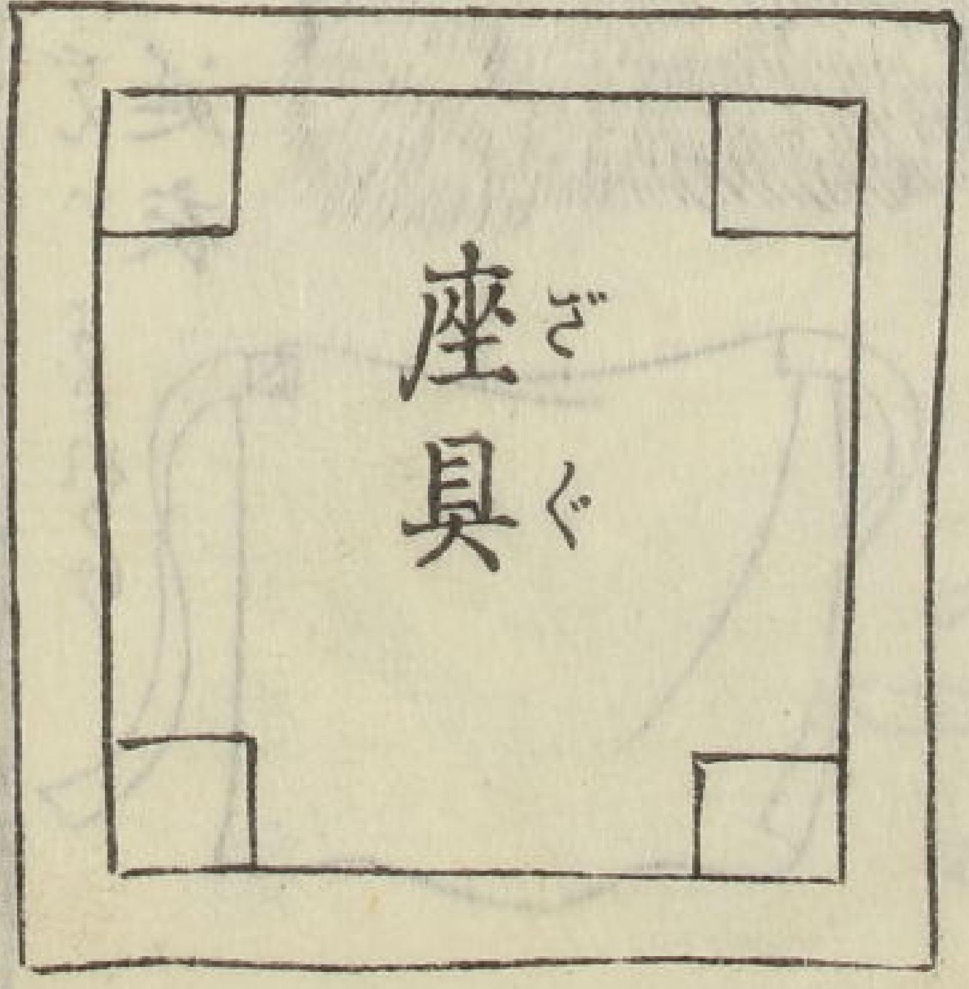
○幔ハ十二幅紋を出さず竪幅をつらねて上のよこ畠にし下のはひめぐし纈纈なし乳付又ハぬひめぐらす又もあるなり

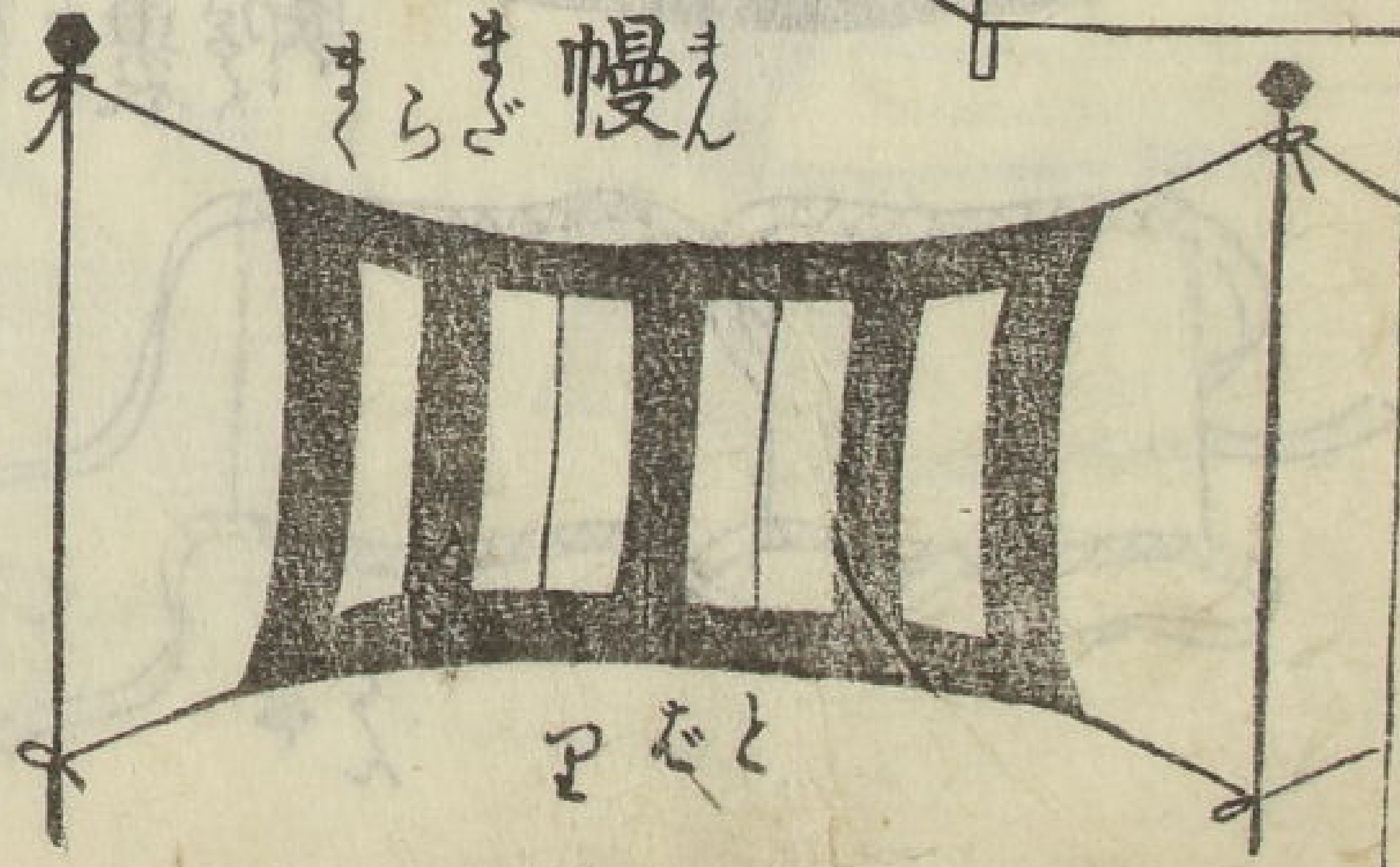
○座具ハ僧衣なり佛ハ之にをさめおかれる物也三衣一鉢座具漉水嚢これを僧の六物といふ

○縁道絹ハ法事のとき客殿より堂への間に布をしく









と云又打敷ともいふ

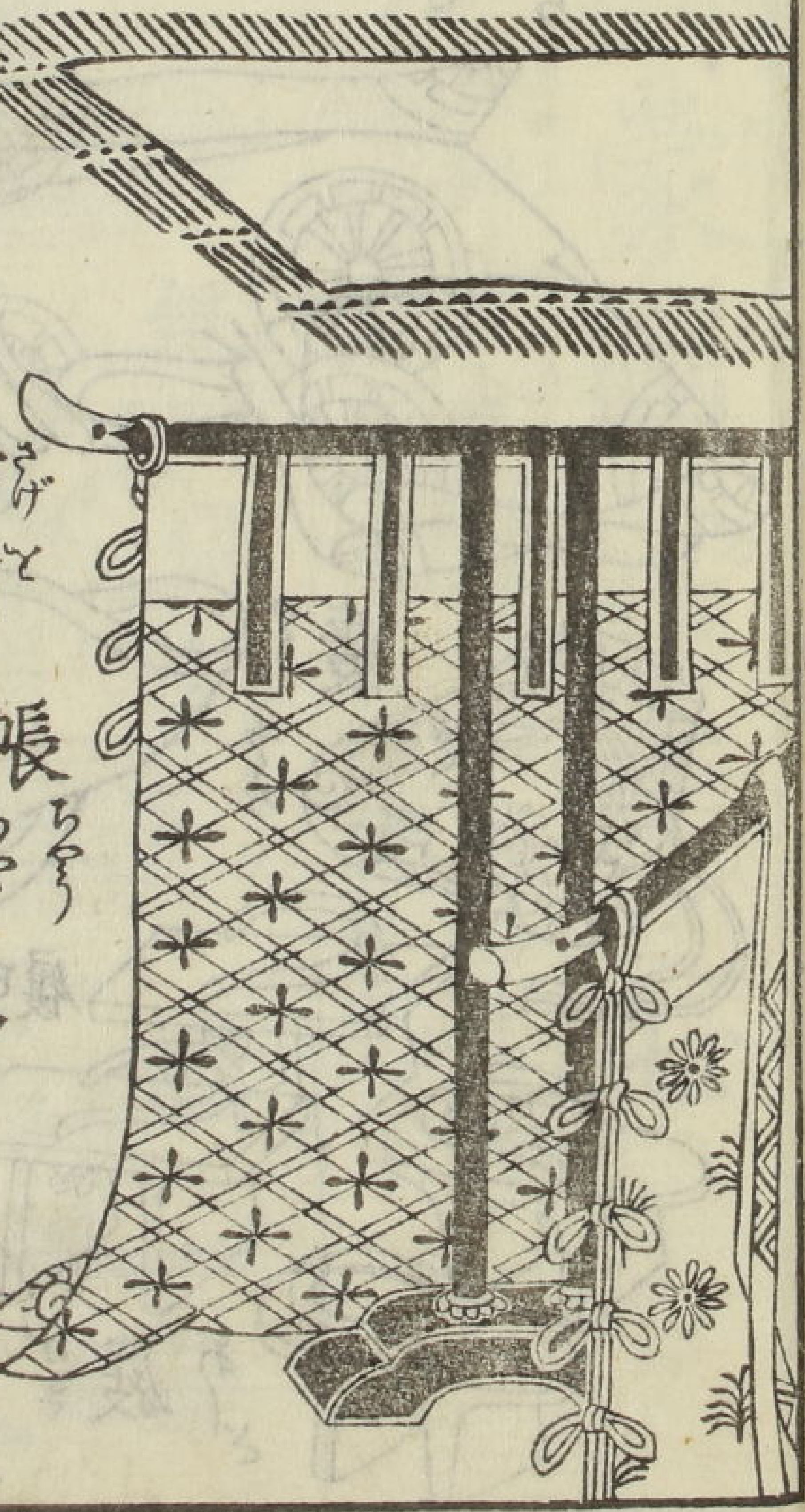
○夾衣ハ今云あはせなり裌く袷同し單衣ハひとへもの褻衣ハはだぎ也　表裏

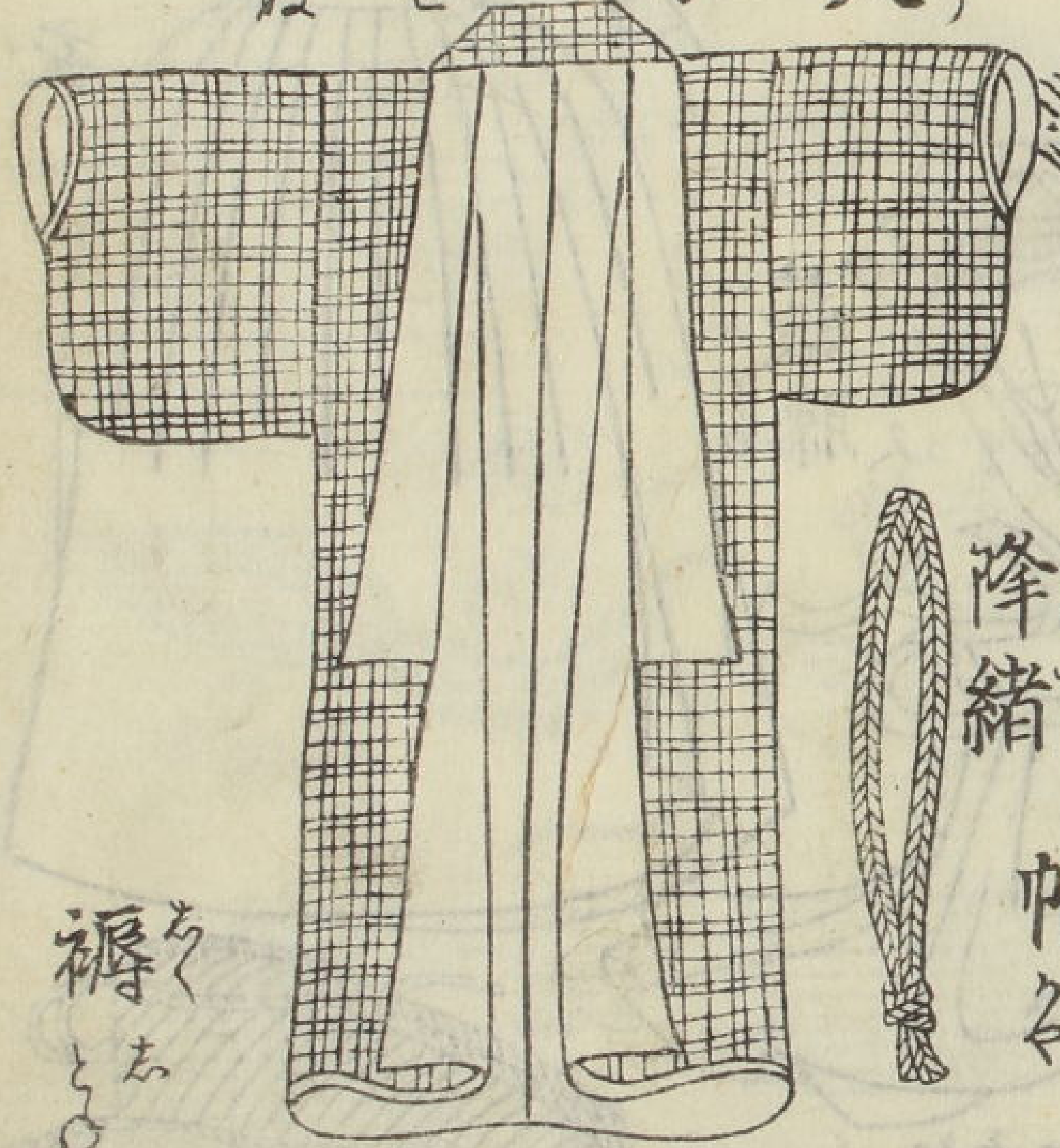
○帳ハ女のかくるゝ所也几帳帷帳あり又蚊帳班帳綿帳紙帳あり

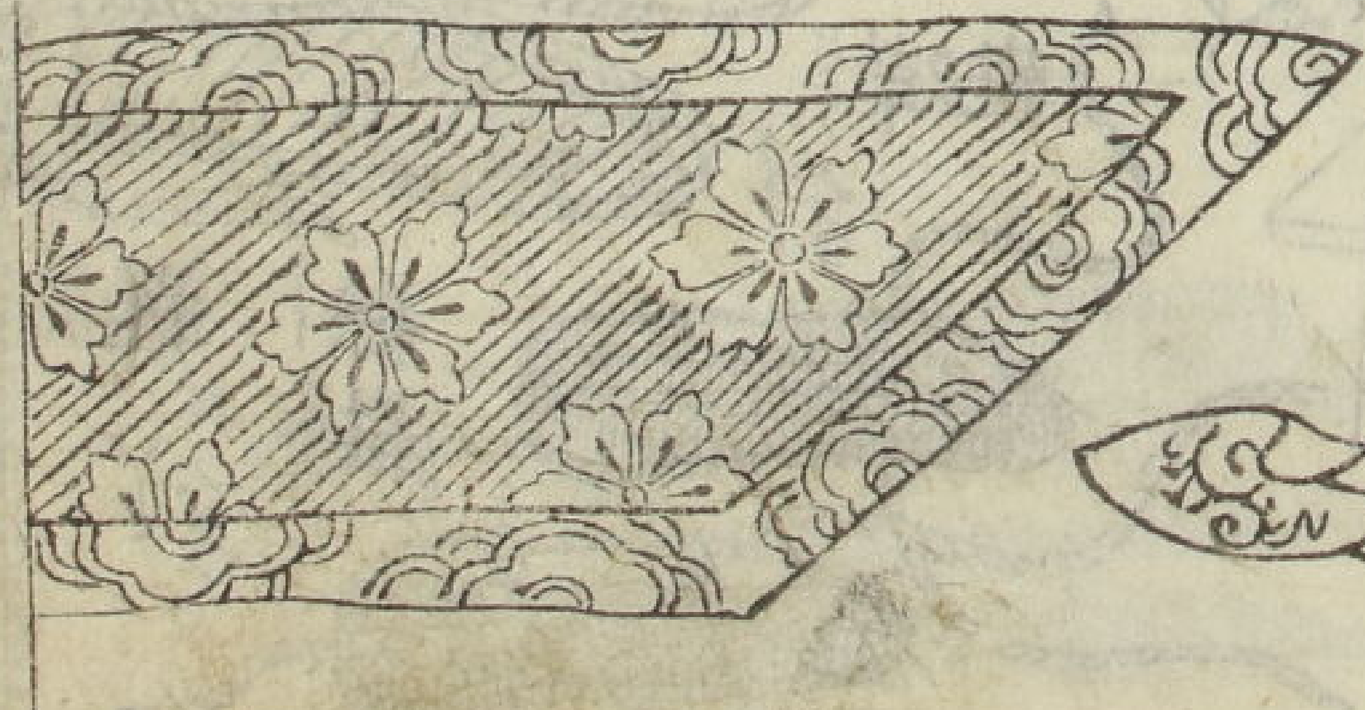
○褥ハしとね也外具なり蓐茵并同蓐茵ハ草の字しとねなり褥ハ絹の字しとねなり俗に蒲団と書ハ非なり蒲団ハ坐禅の類なり

○降緒ハ刀にわたす刀の下げ緒といふ

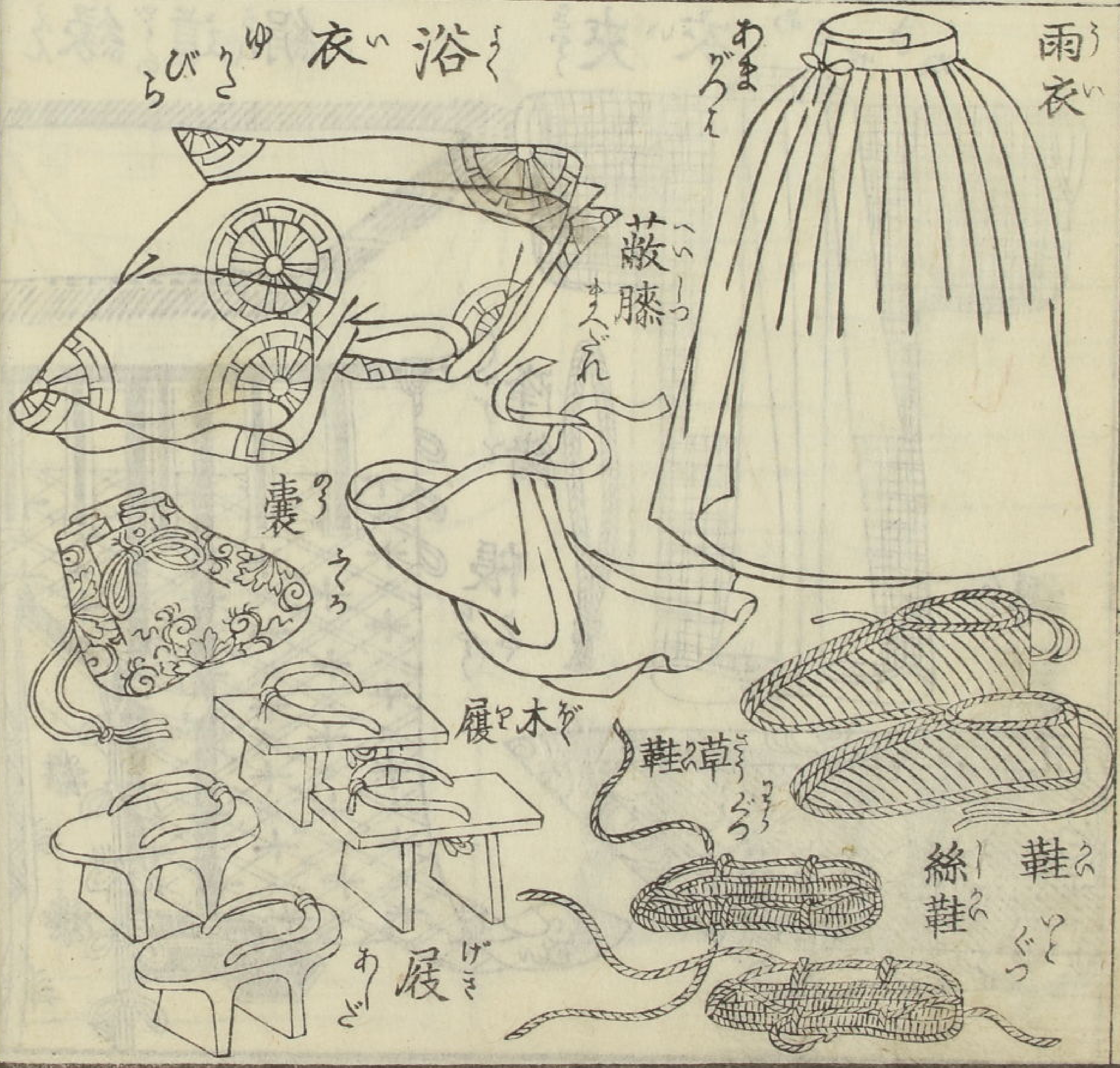
○雨衣ハあまがつぱなり縫にて云紙にてつくるを油衣といふ毛織のを羅紗にてせるを合羽と云


縁道絹
えんだうのきぬ
帳
ちやう


降緒
さげを
夾衣
わたいれ
あはせきぬ



毡衣なり
○浴衣はゆかたびらなり又明衣とも書り又ゆてのごひと浴巾ともいふ
○蔽膝ひざをおほふものなり又まへだれともあり韠同
○鞋は糸鞋麻鞋あり草鞋は蹻とも屝とも書べし
○屐は木履なり俗にあしだといふかるゆゑ屐子と云又鼻緒といふ又禅といふ雨あり雪中にはく物なり
○嚢底あるを嚢といひ底なきを橐といふなりふくろなり裰同
○道服は道者の衣服なり胴服ともかくは俗言をもちひしといふ

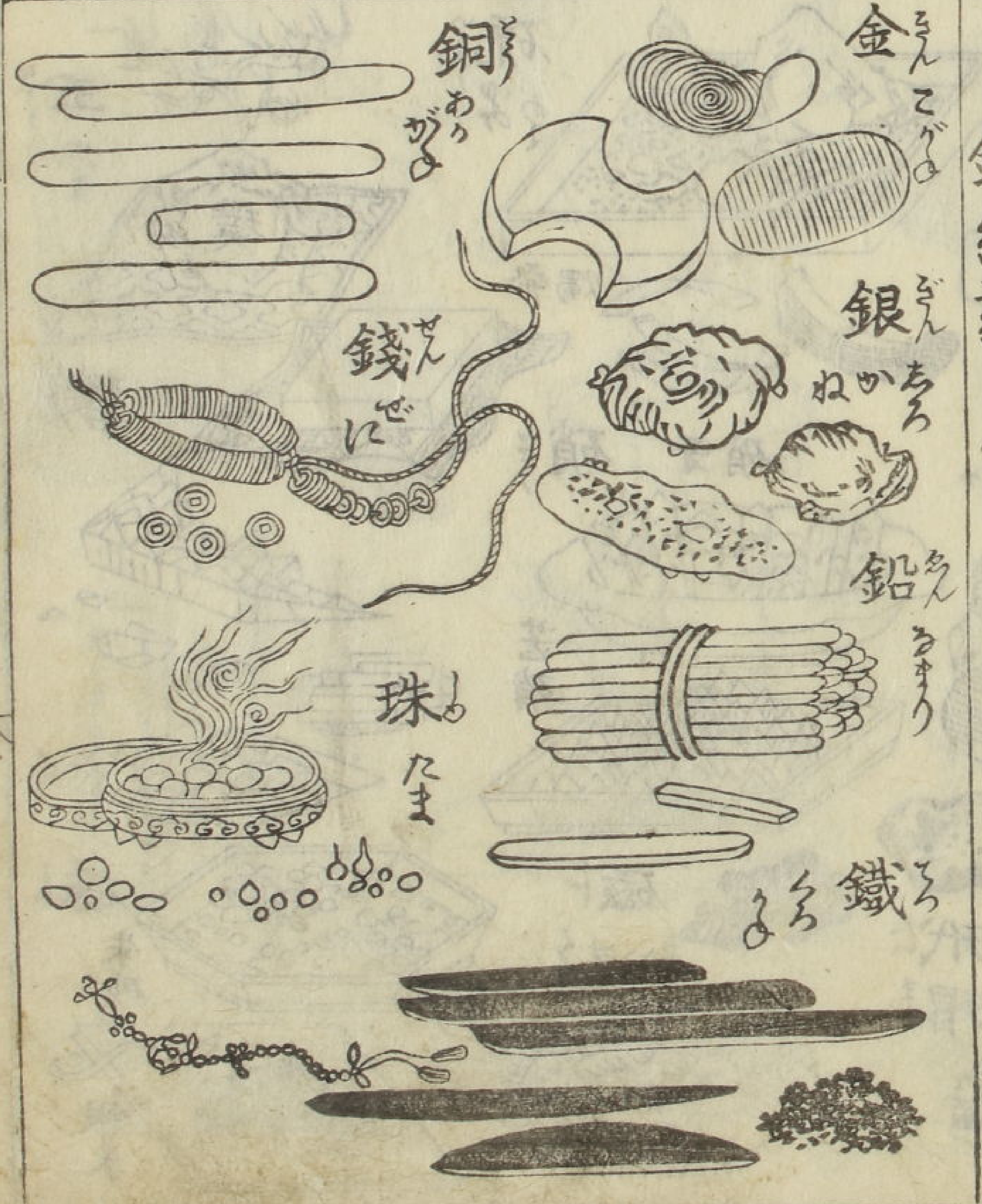

雨衣 あまごろも
浴衣 ゆかたびら
蔽膝 まへだれ
嚢 ふくろ
木履 ぼくり
草鞋 わらぐつ
鞋 くつ
絲鞋 いとぐつ
屐 あしだ

頭書増補訓蒙圖彙巻之七

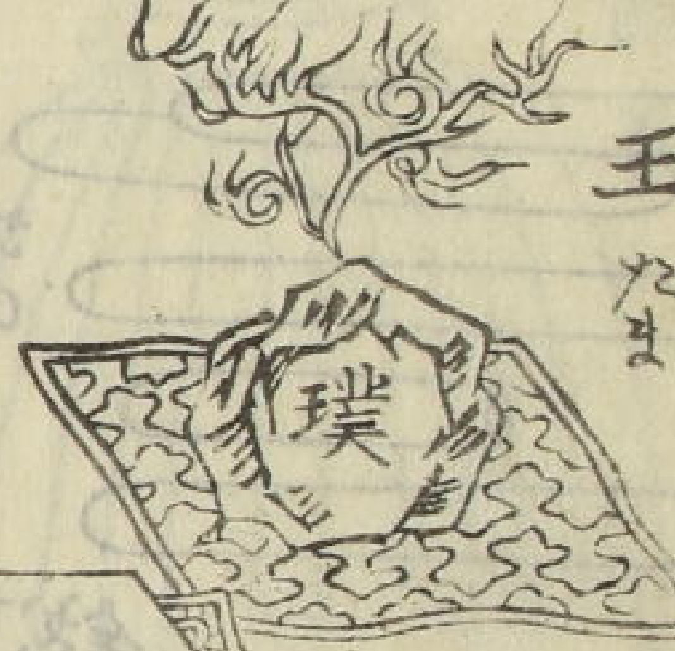
寶貨

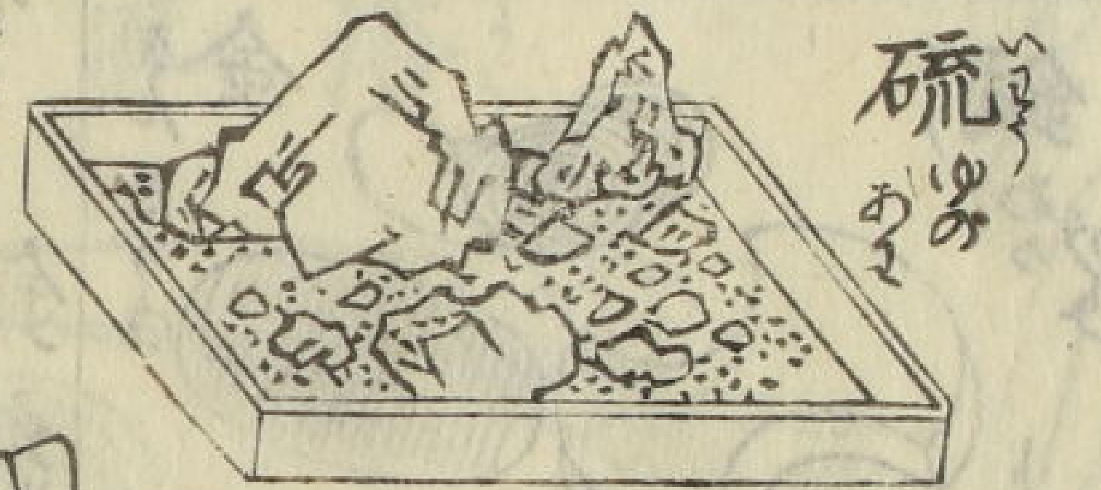
此部は金銀珠玉銅鉄石甲錦繍綾羅をすべて一さいの寶とあらはす

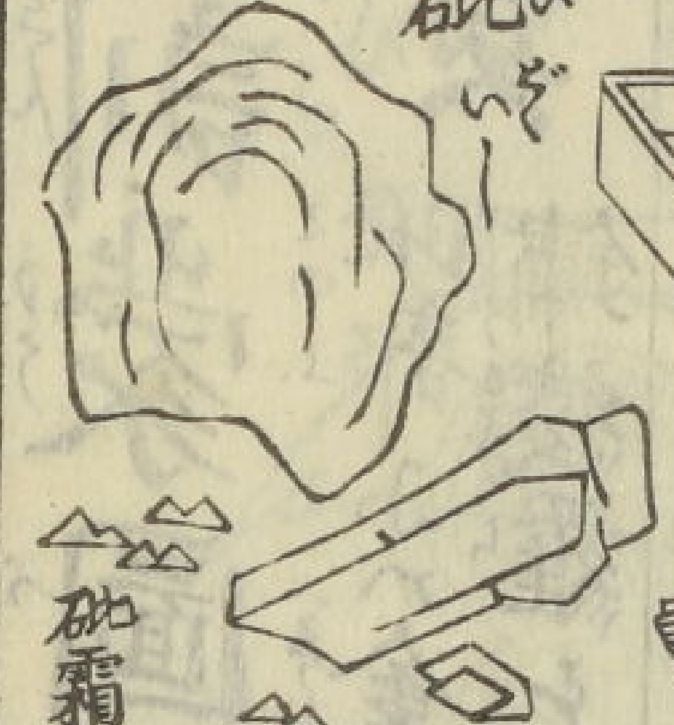
○金は紫磨黄金沙金あどあり日本にてはむかし奥州より出たり鍍金はめきなり
○銀は白銀なり南鐐銀鉼などゝ俗によぶを云又銀鈑とのべかねとあり
○鉛は青金なり錫はしろかねなり俗にすゞなりと云白鑞同鉛をやいて丹とする
○鐵は黒金なり鉄同鉎鐵はなまがね○鏢同し鋼鐵ははがね鏽はさびなり日本むかし

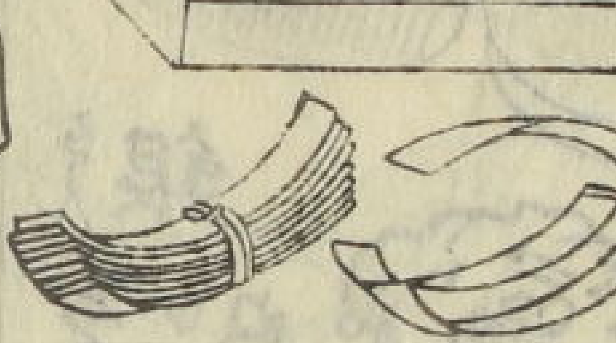

金 こがね
銀 しろかね
鉛 なまり
鐵 くろがね
銅 あかがね
銭 ぜに
珠 たま

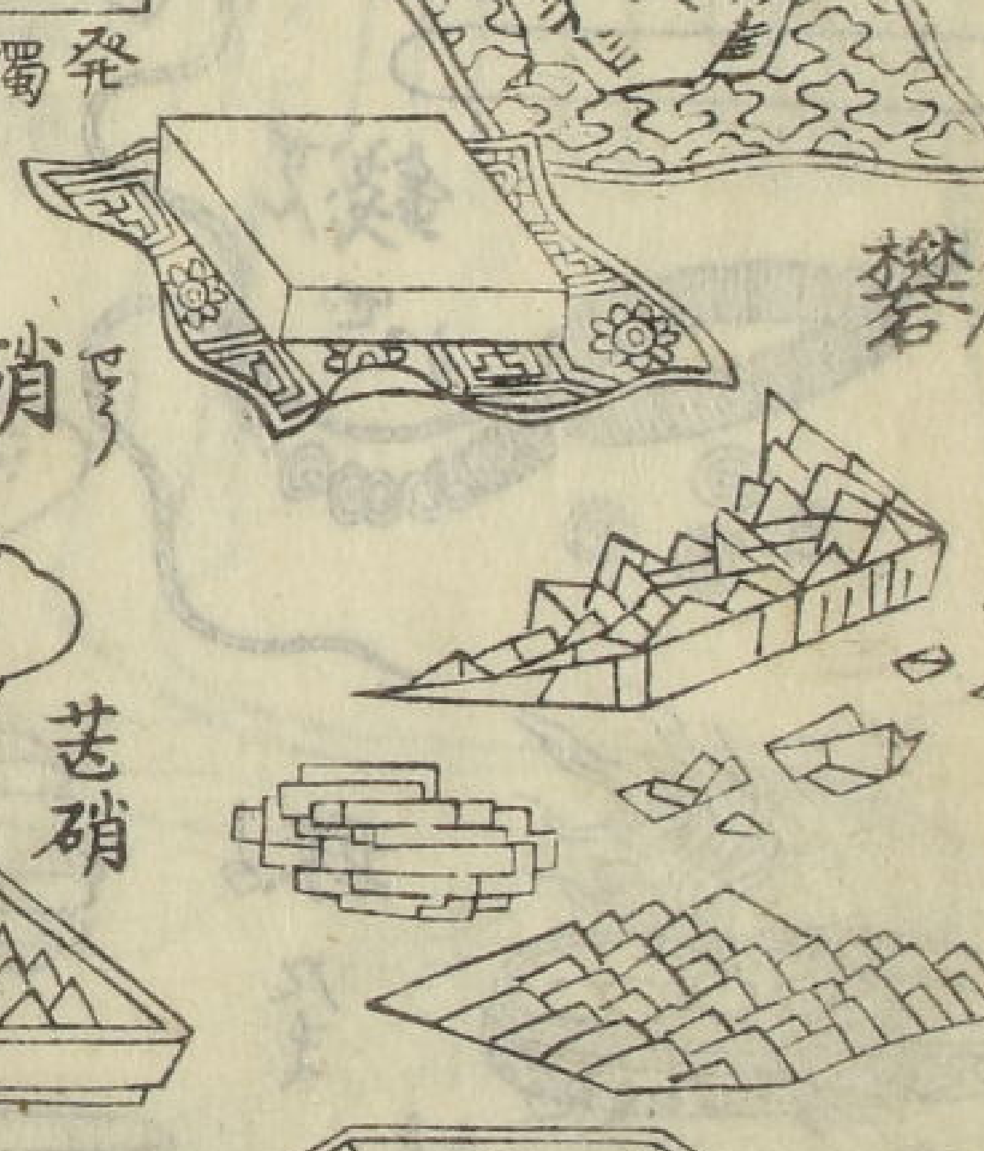
は甁中より出づる
○銅は赤金なり黄銅鍮
石眞鍮なり又紫銅はから
かねなり褐銅同じ白銅
はさはりなり○紫金はしやく
どうといふものより出る
○説文に銭の字の旁上に
一の戈字下に一の戈の字を
銭は人ところを掛ふて人
をころすといへり孔方青銅
鵝眼ともに銭の異名なり
○珠は海より出るたまと云珊
瑚珠眞珠のるひなり珍
珠蠙珠は貝の中なり蚌
魚虫蛇の腹に珠あり
○玉は山より出るものなり
石の美なるものの珠玉といふ
璞はあらたまみがゝざる
物なり唐崑崙山より
出たるなり
○礬は礬石なり和名たう
ばんといふ光明あるは明礬
といふ黒色なるを黒礬と
いふ緑色なるは緑礬と云
赤くて赤物は絳礬と云
○硃は朱砂なり辰州より出
る故辰砂といふ又水銀と化
して朱とするは銀朱と云
朱砂は服すべし心を鎮め
神をやしなふ
○硫は石硫黄土硫黄あり付
木を発燭といふ硫黄の出る
山にはかならず温湯あり
摂州有馬又加州の山中
などのごとし
○硝は硝石なり本硝にたる

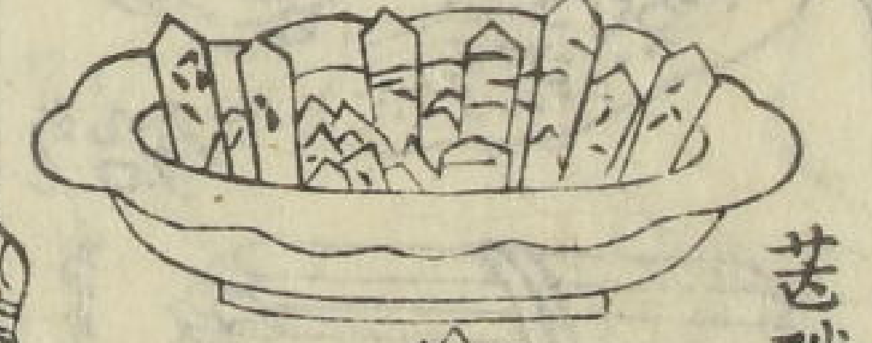


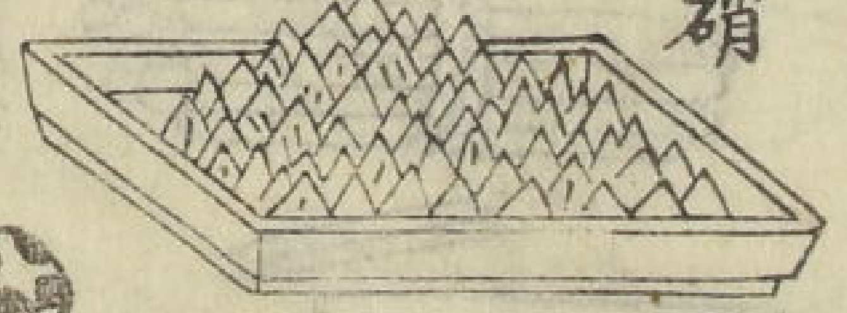


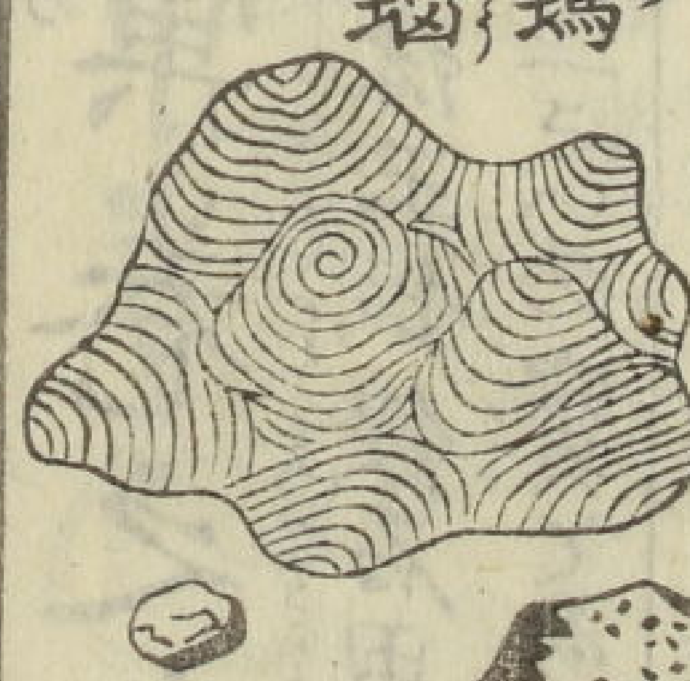


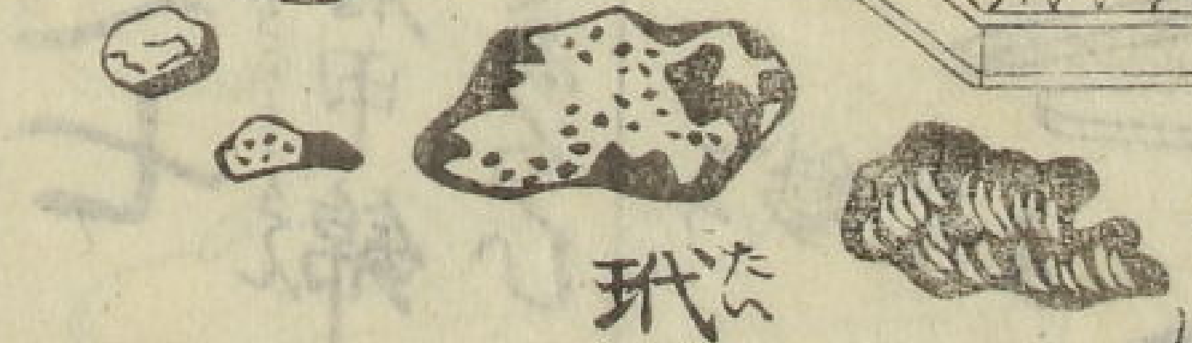


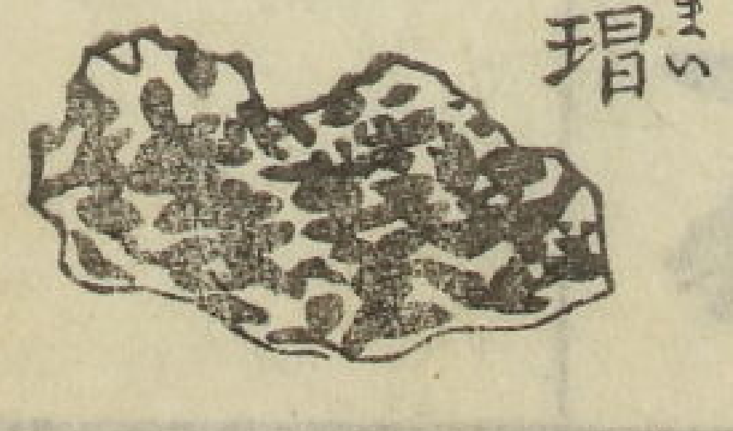


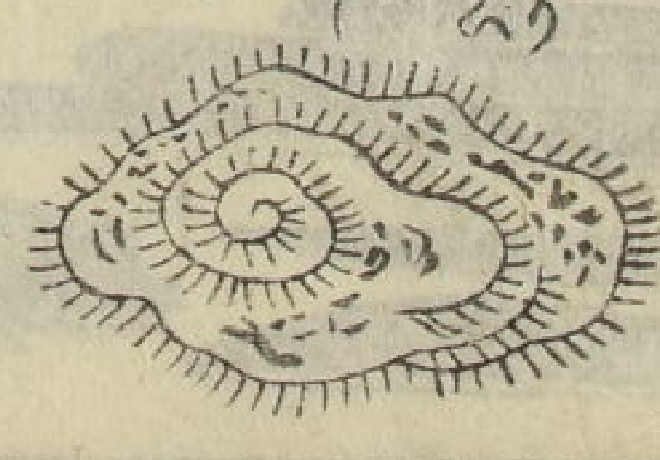


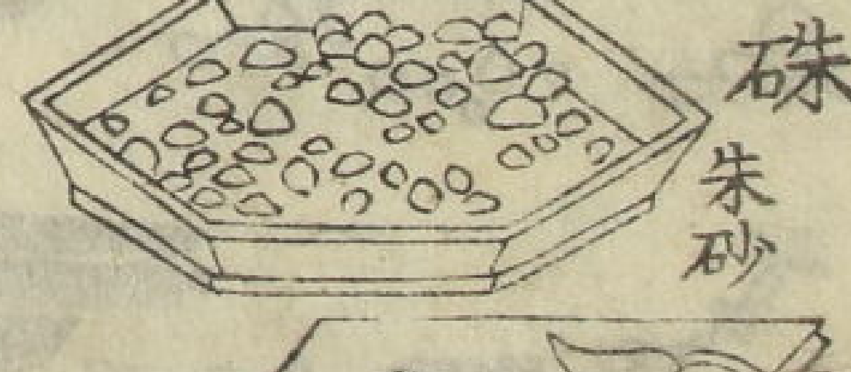


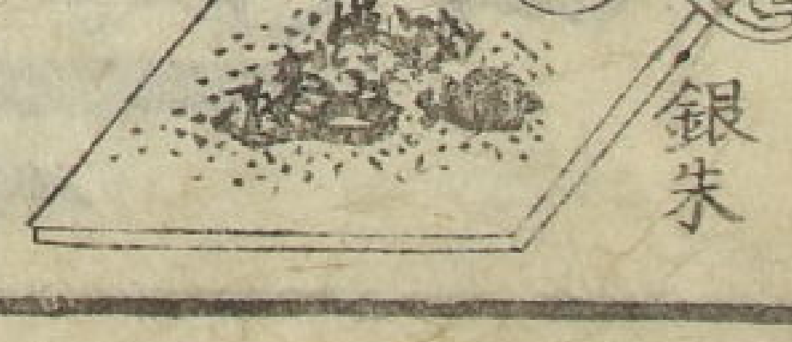


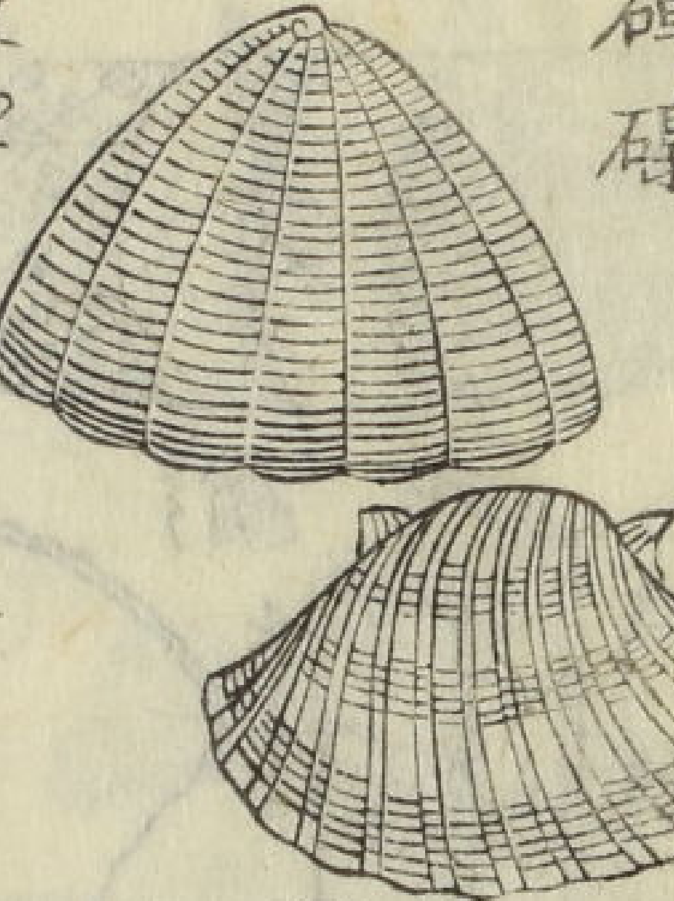


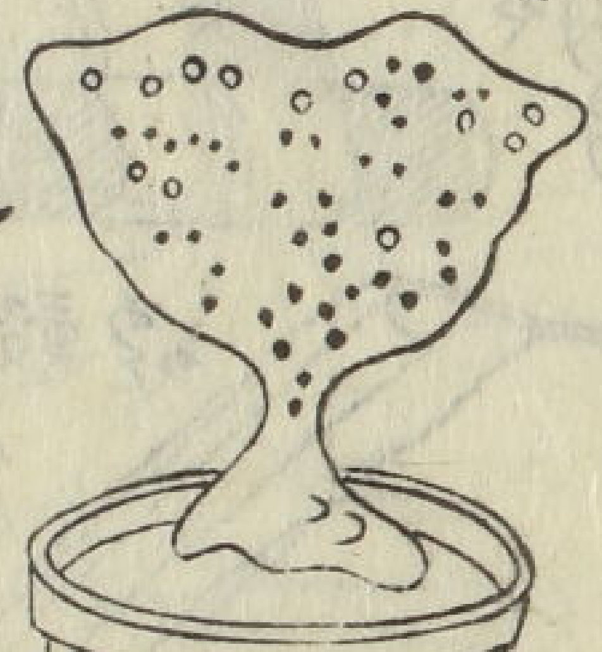


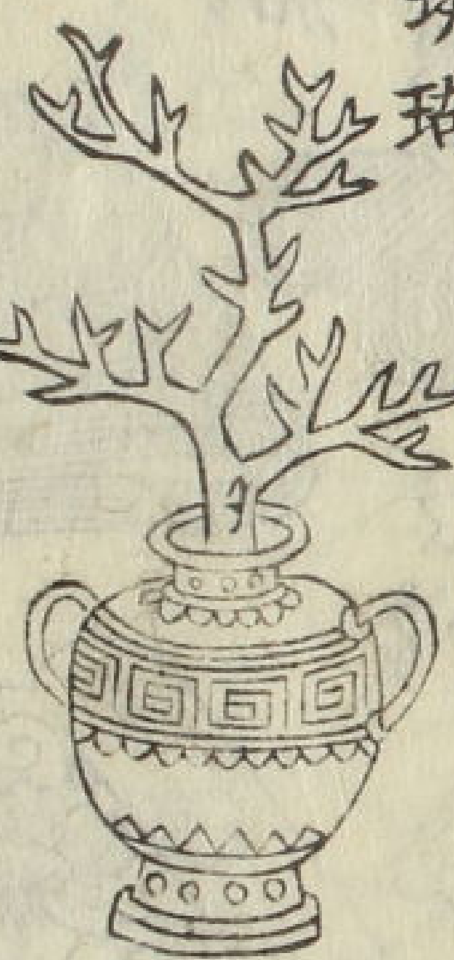


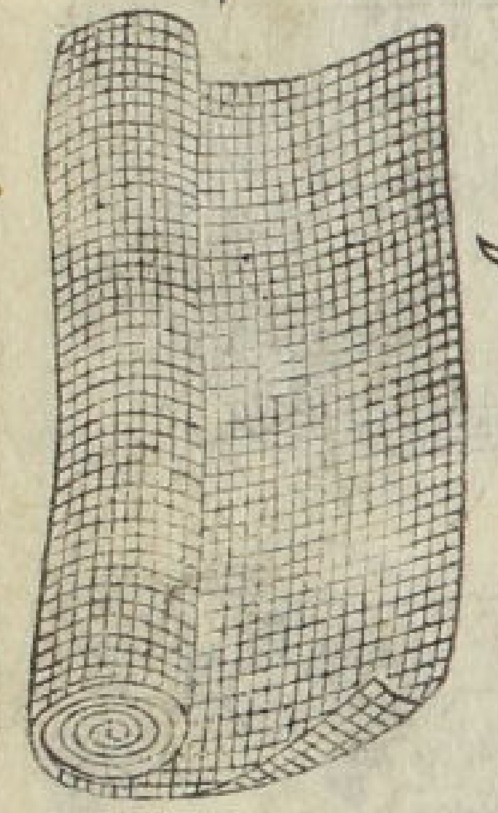


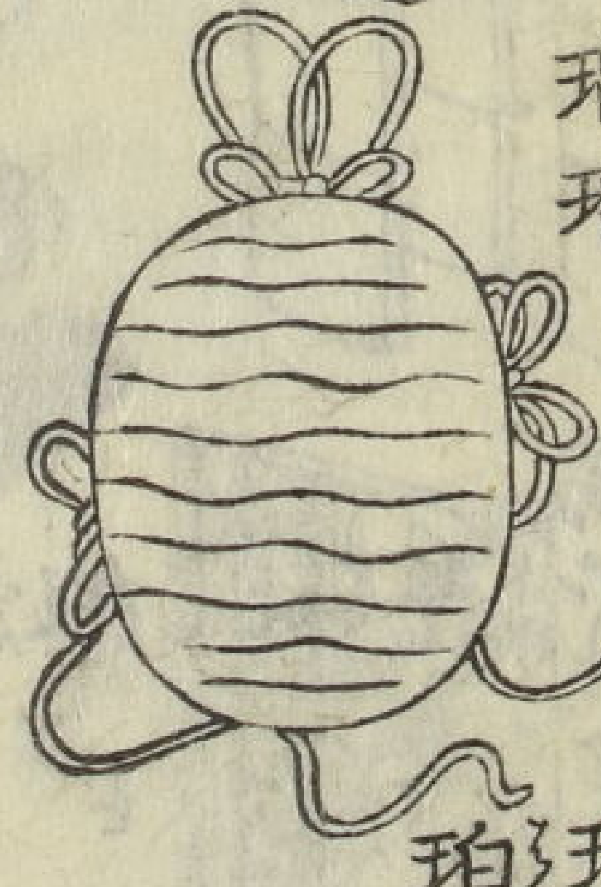


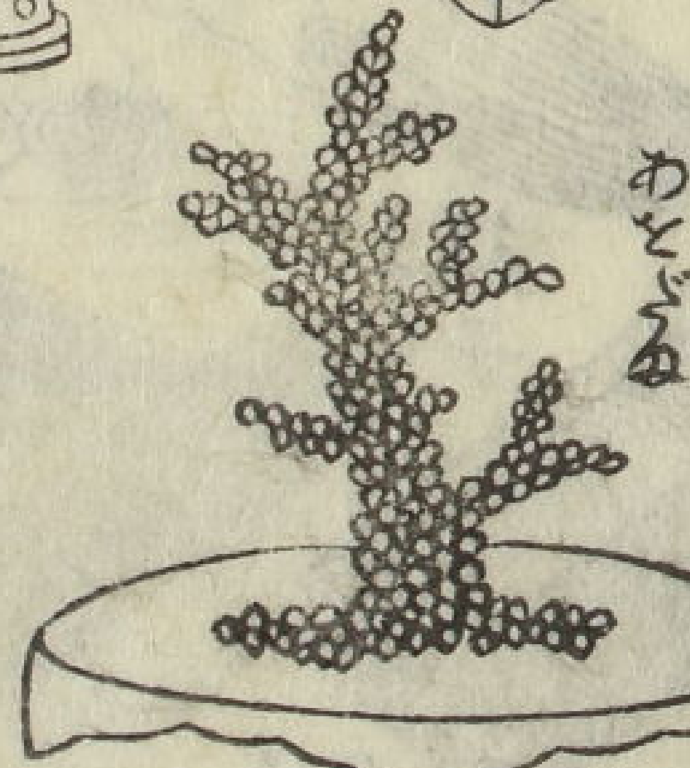


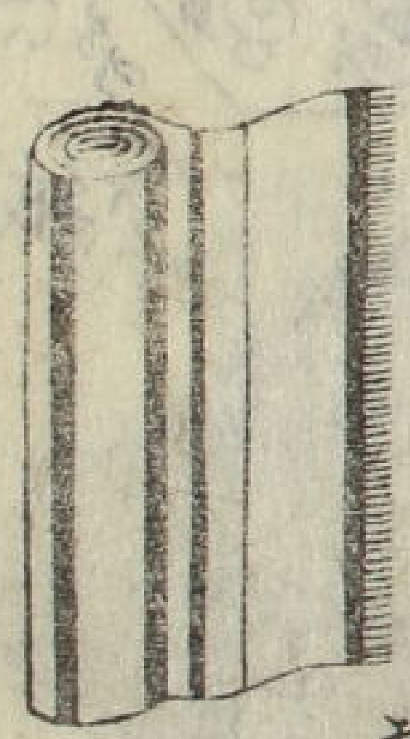


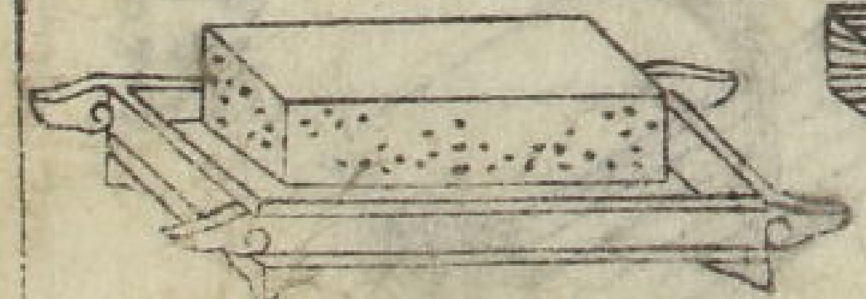


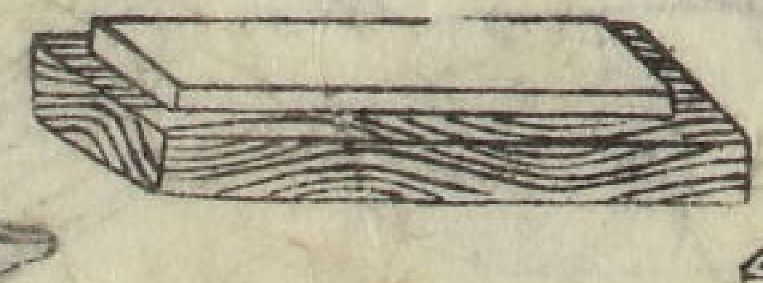


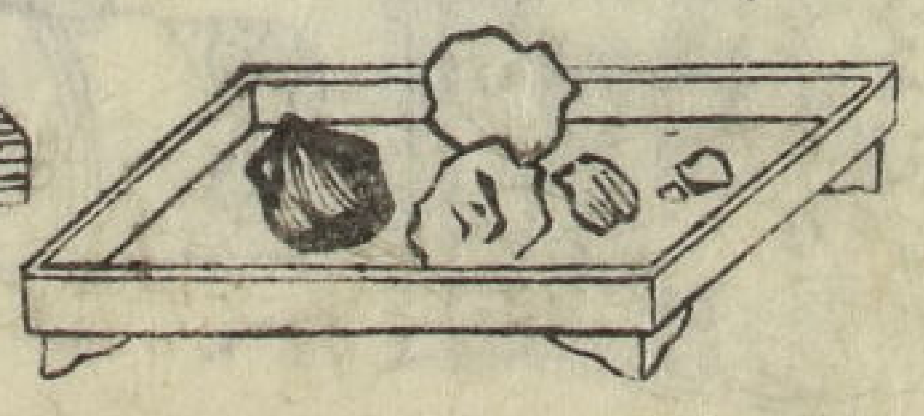




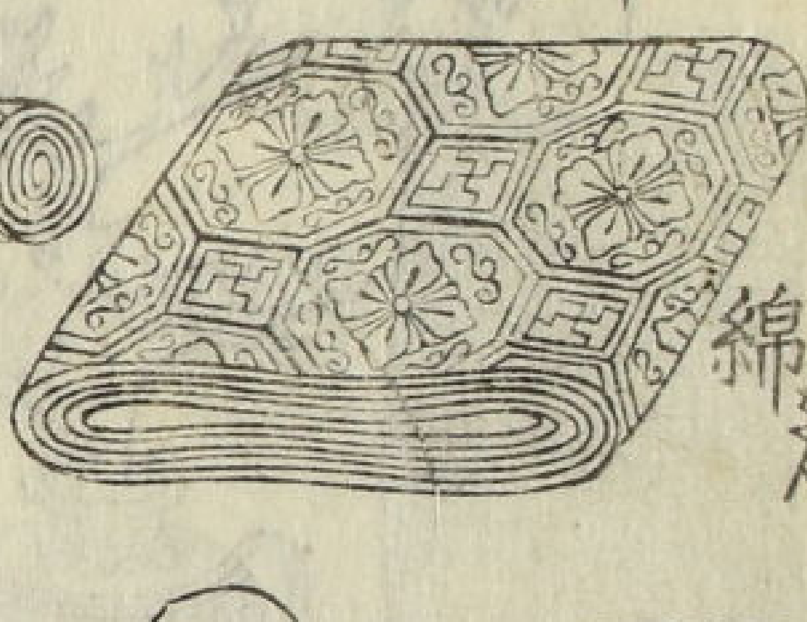


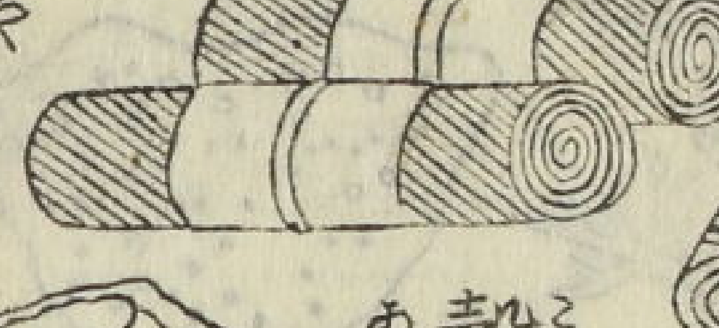


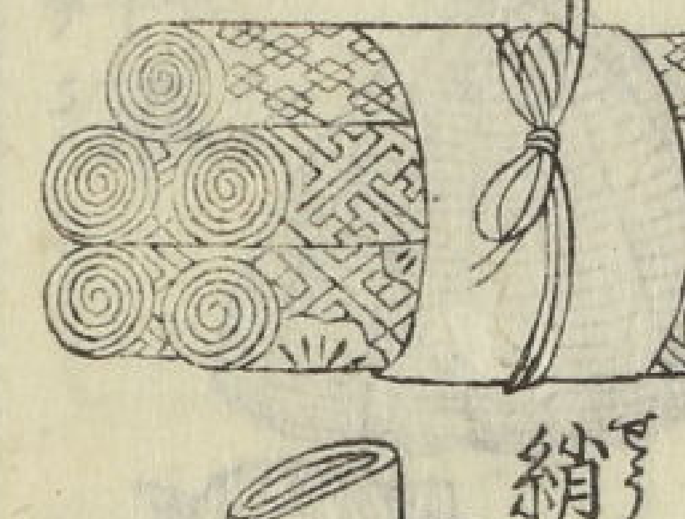


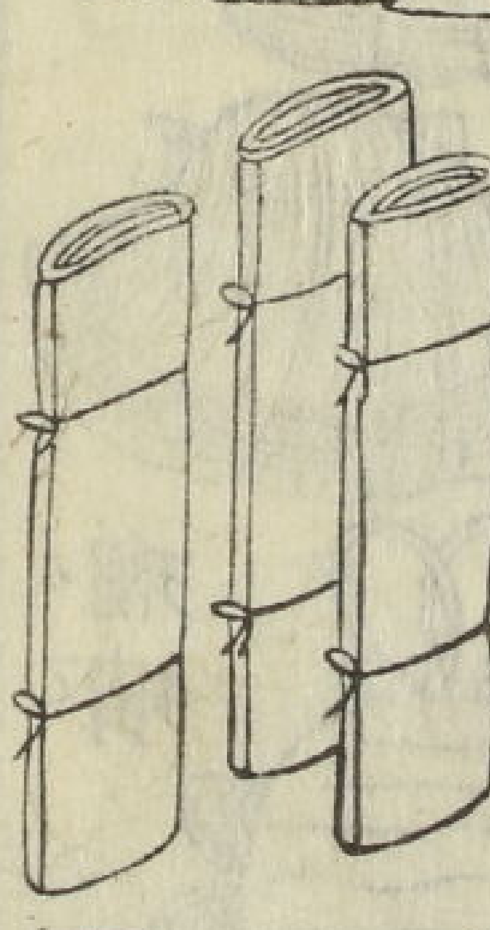


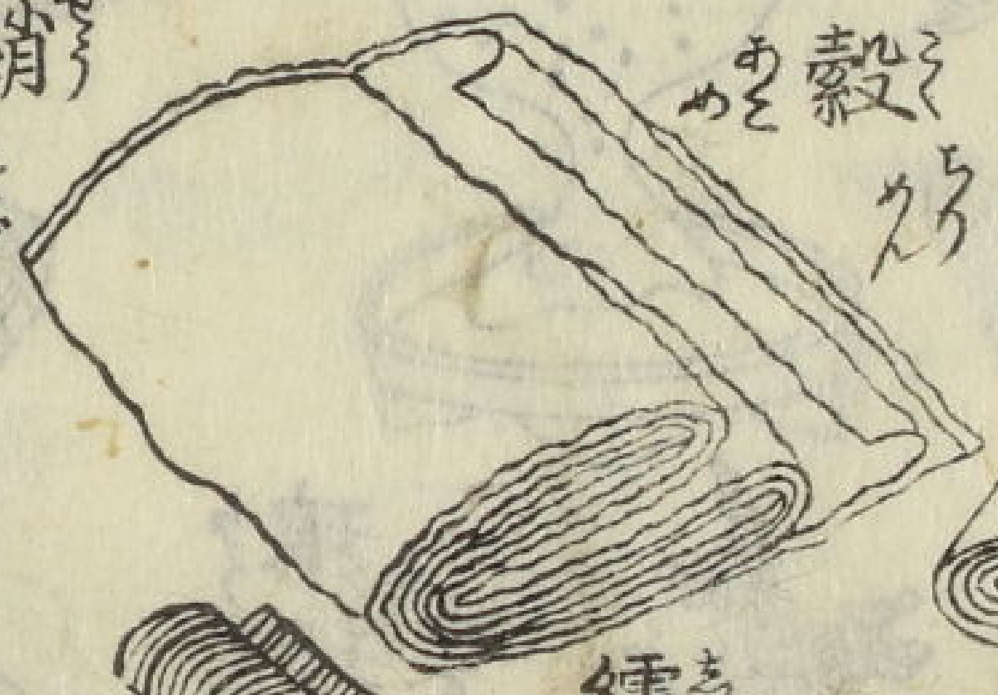
焔硝ハ火硝ともいふ同しく
火につく鉄炮にもちゆる薬
硝石ハ薬石なり瘡その
ぞれ燥とうかし小便を
通ずる能あり
○磁ハ山の陽に鉄を産ず
るものハ陰に産して磁石
あり二物同氣あるべきなるを
よく針をとるものあり
○砒ハ砒石あり大毒あり煉さ
る物ハ砒霜といふ腫物乃
毒を消し瘡とうる外科
の用ゆる所あり斑猫と同
しく毒あり
○瑪瑙ハ玉なり七宝の内
なりこの玉の色馬の脳に似たる
ゆゑとうろくる脳となづく也
黄あり

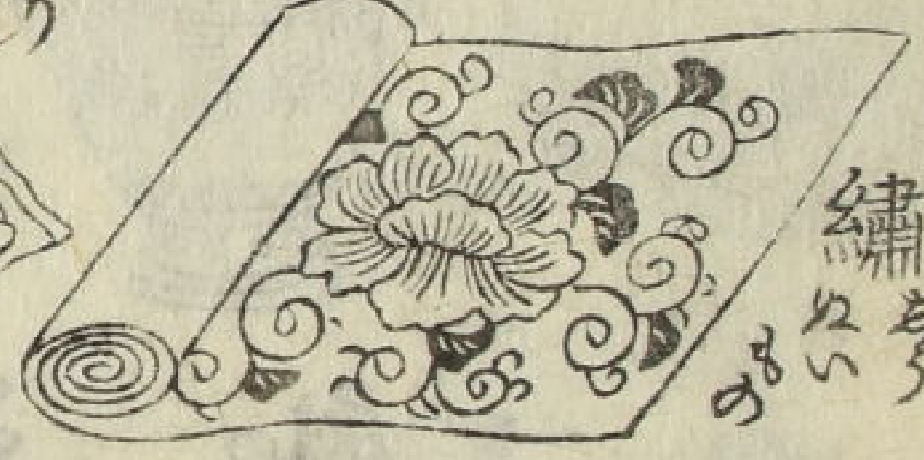


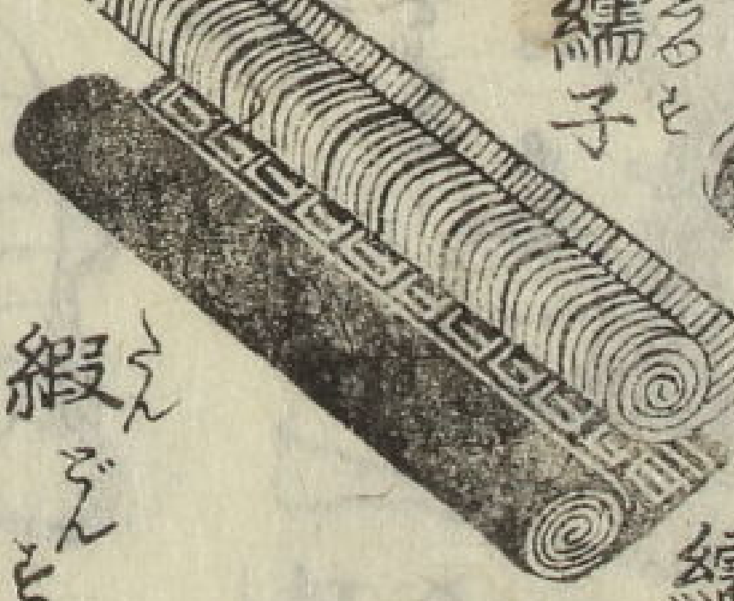


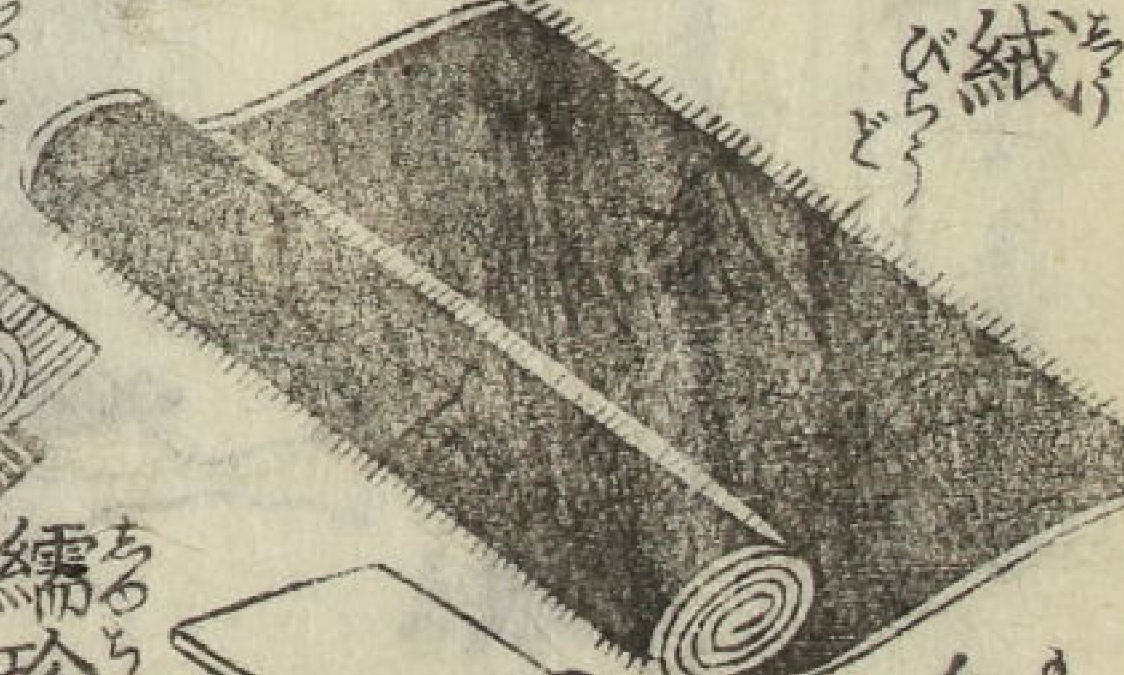


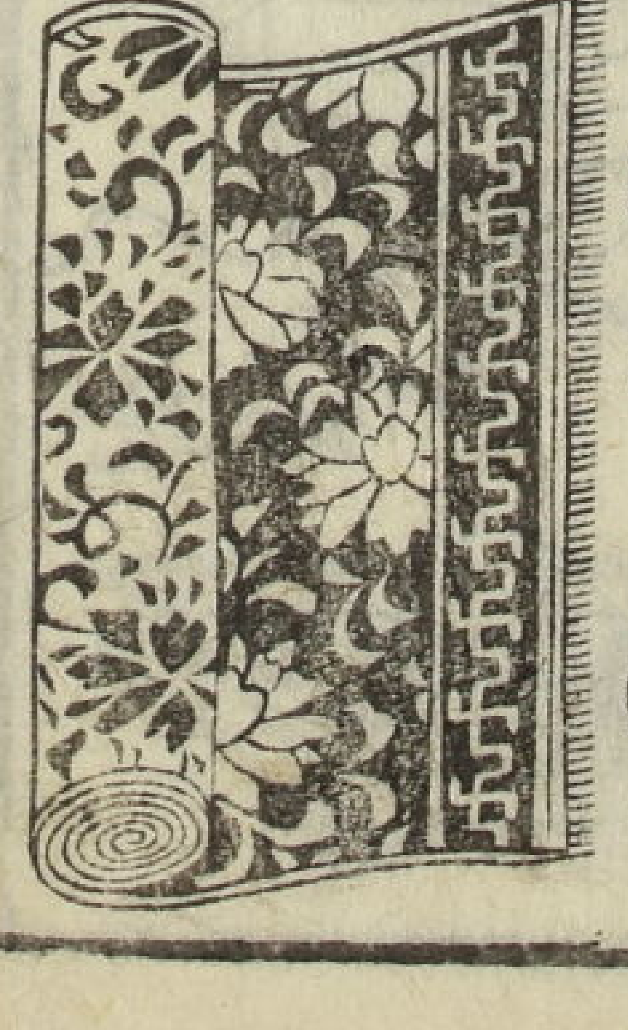


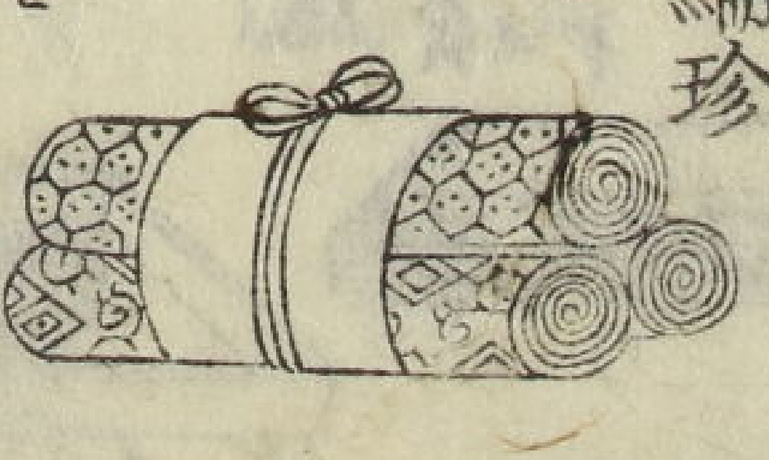


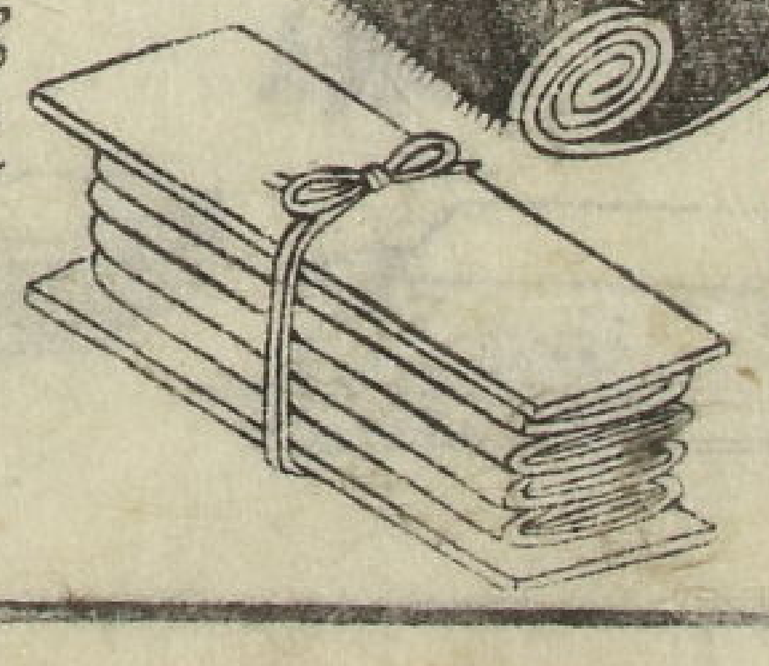




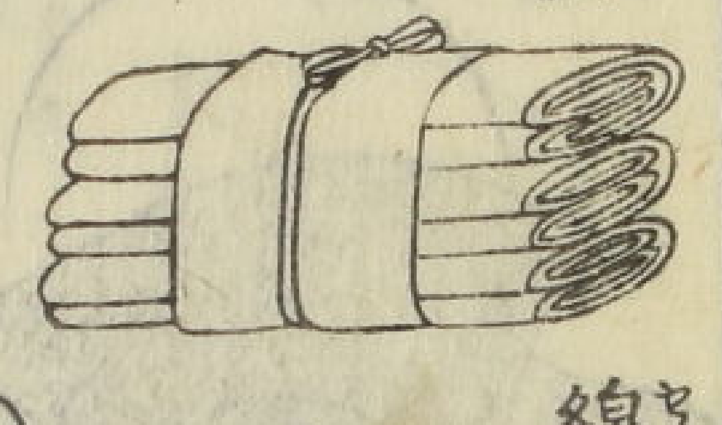


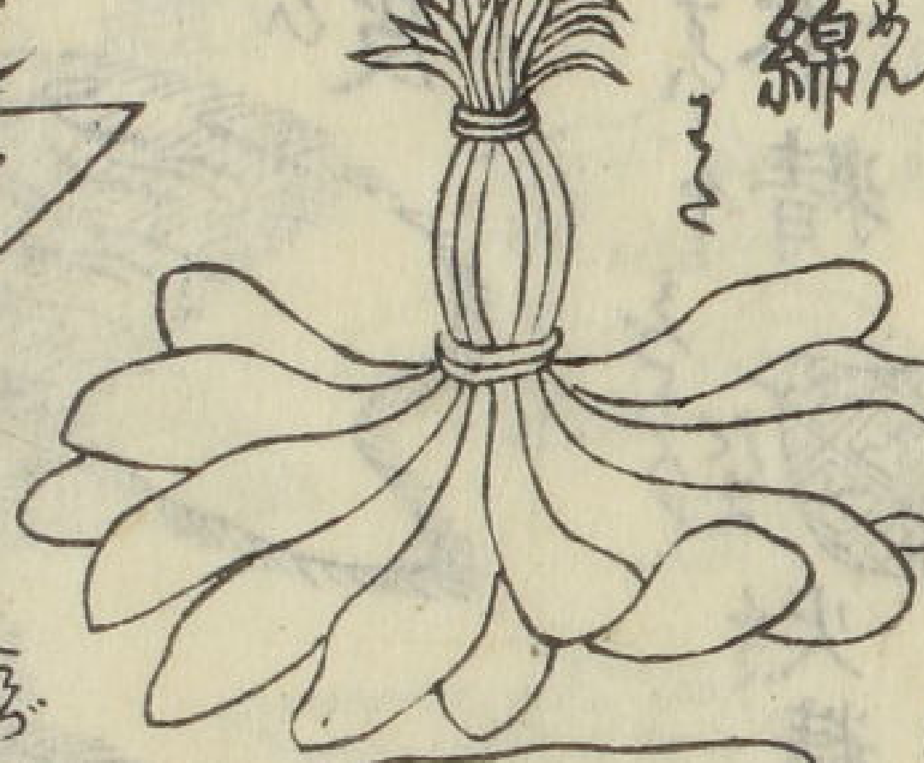


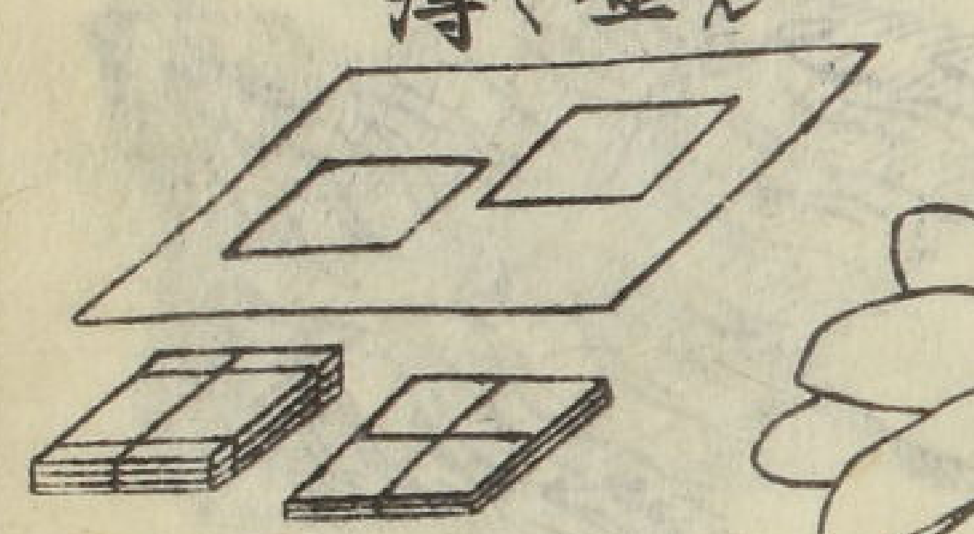


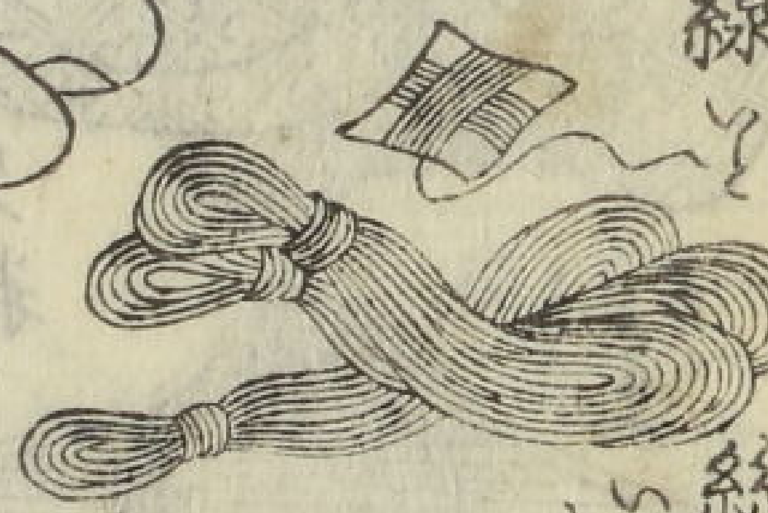


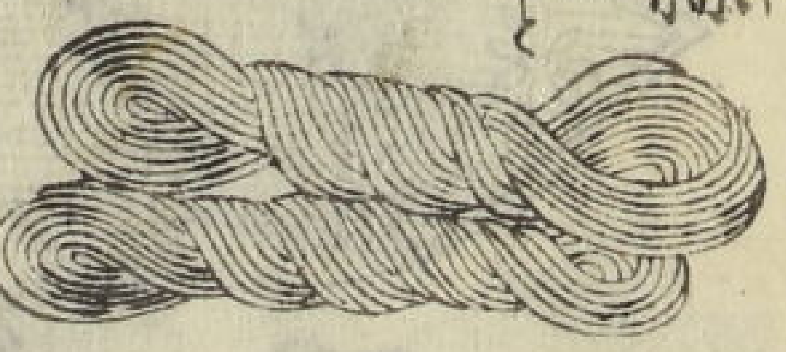
○硨磲ハ玉の名七宝の一ッ也
石の玉に似たるなり一名海
扇和名いたやがい
○玳瑁ハ亀の名甲に文あり
器にはるべし櫛笄香
合などにつくる
○瑠璃ハ玉の名石のひかり
あるものなり七宝の内なり
色あをし
○琥珀ハ松脂地におちて
千年にして琥珀となる雑
蠟といふ玉なり色黄也
○玻瓈ハ玉の名七宝の一ッ也
西國の玉なり頗梨ともい
ふ色白し
○琅玕ハ玉のひかりあるもの
なり崑崙山に琅玕樹あり
色あをし

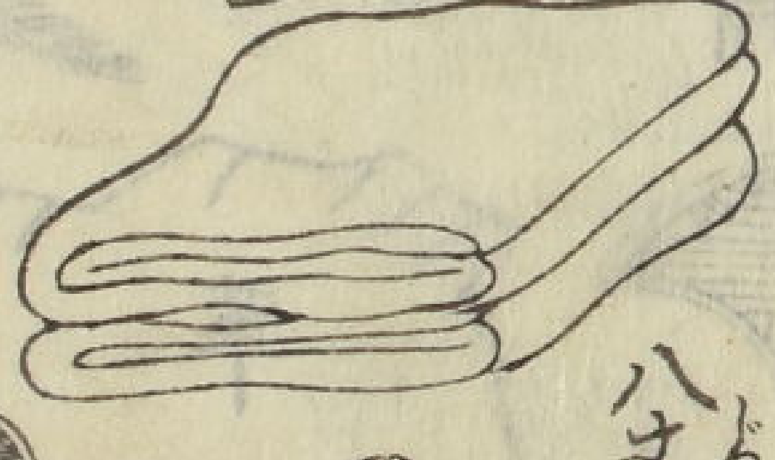


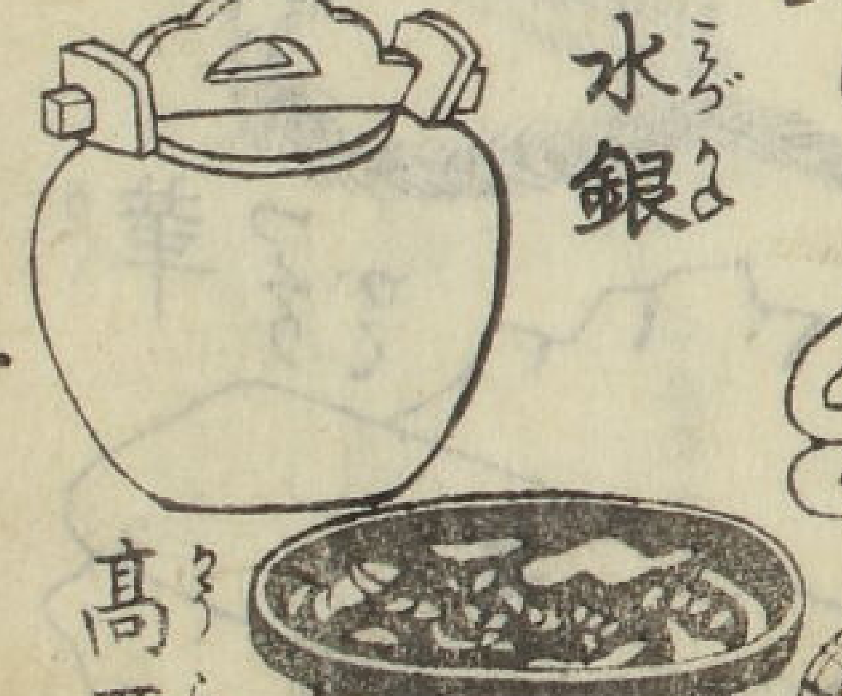


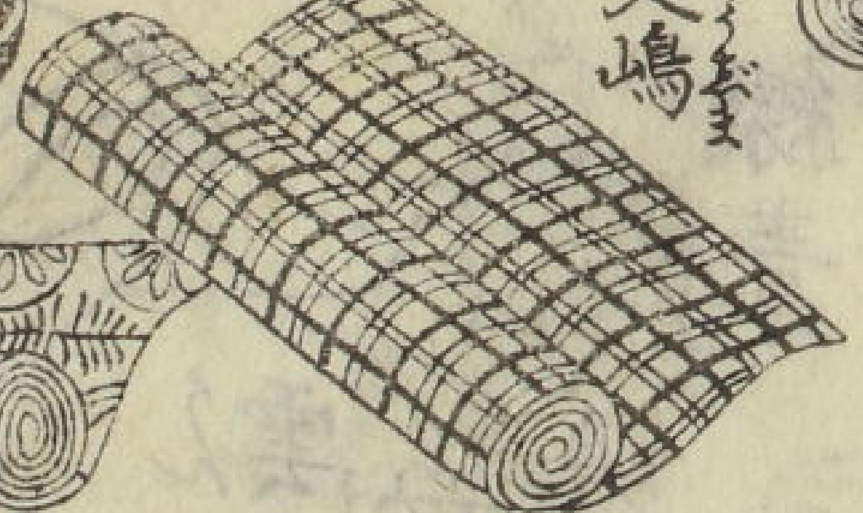


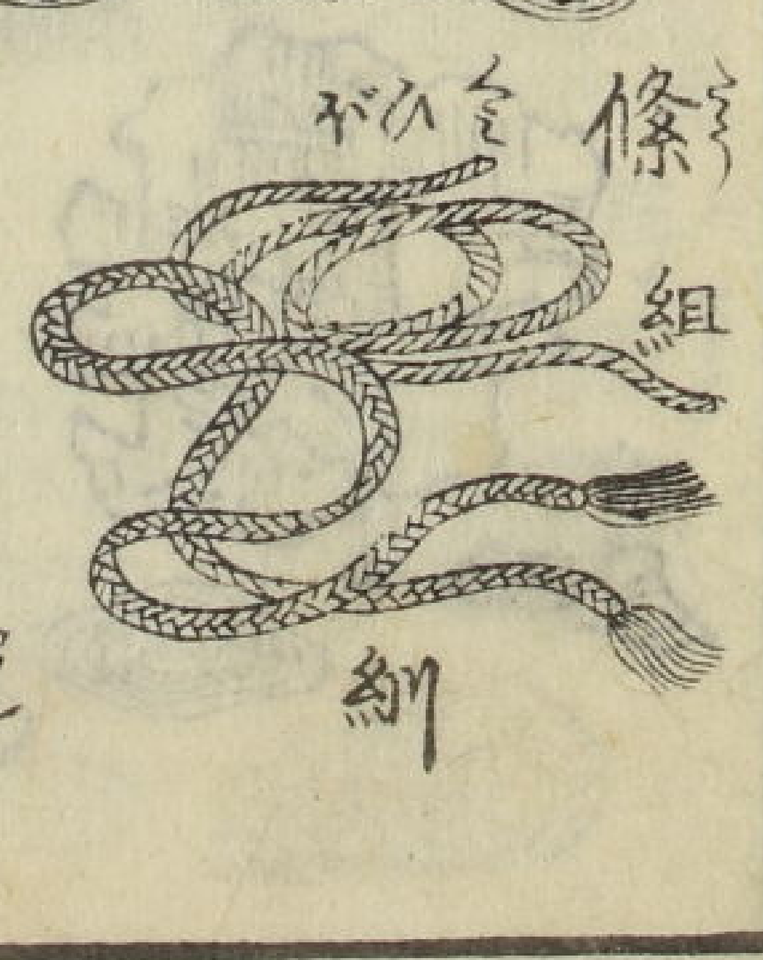


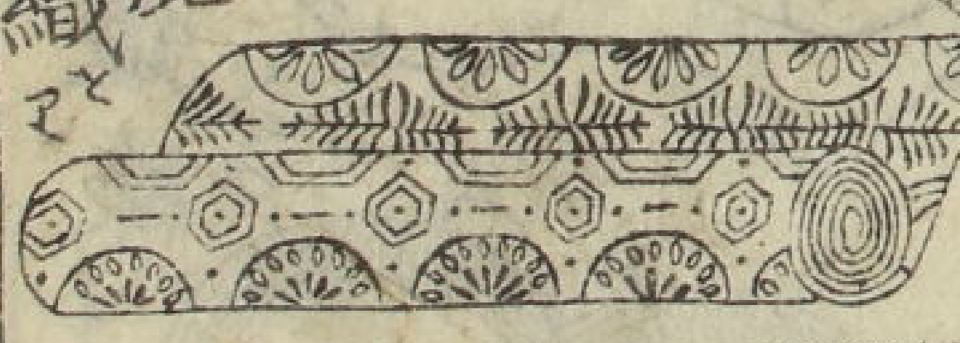


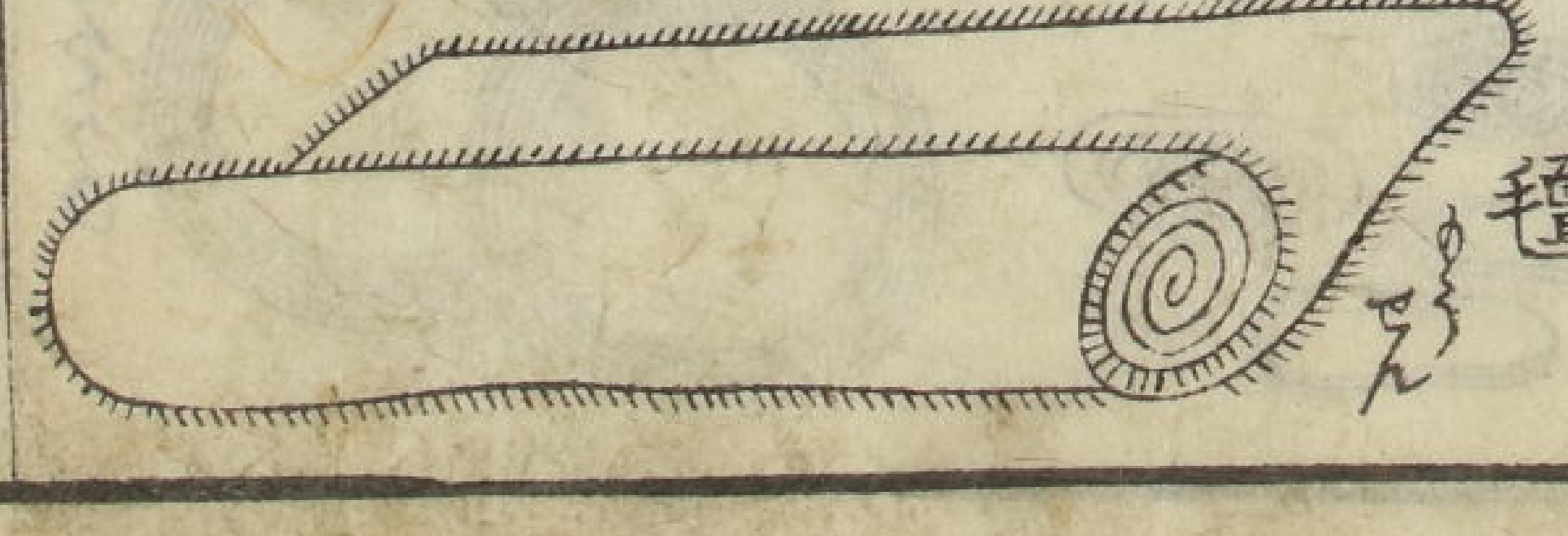












○珊瑚ハ海中の珠なりいろわし鐵網をもつて是をと七寳の一つなり

○碔ハ細砺石なり研にも書べし黄碔ハあハせどなり

○礪ハ麁砥石なりあらとなり礰とも書べし

○紗ハ金紗狠紗紋紗等ありうすものなり又法螺漏などいふ又戻子といふも是

○熨斗目ハ筋ある織物之紗綾て侍のきる服なり又紗綾似着などにもきるなり

○錦ハ五色の糸を織て錦とも俗にいふ金襴の類也

○繍ハ五采の刺文なるとぬいもの

○絨ハ細毛布なりその美なるろお紗天鵞絨といふ褐子氆氌兜羅綿みな毛布なり

○紅染ハ紅なり紅梅緋桃色中紅茜などあり是れわかる色あり

○加賀絹ハ加州小松よりおるてを絹なり

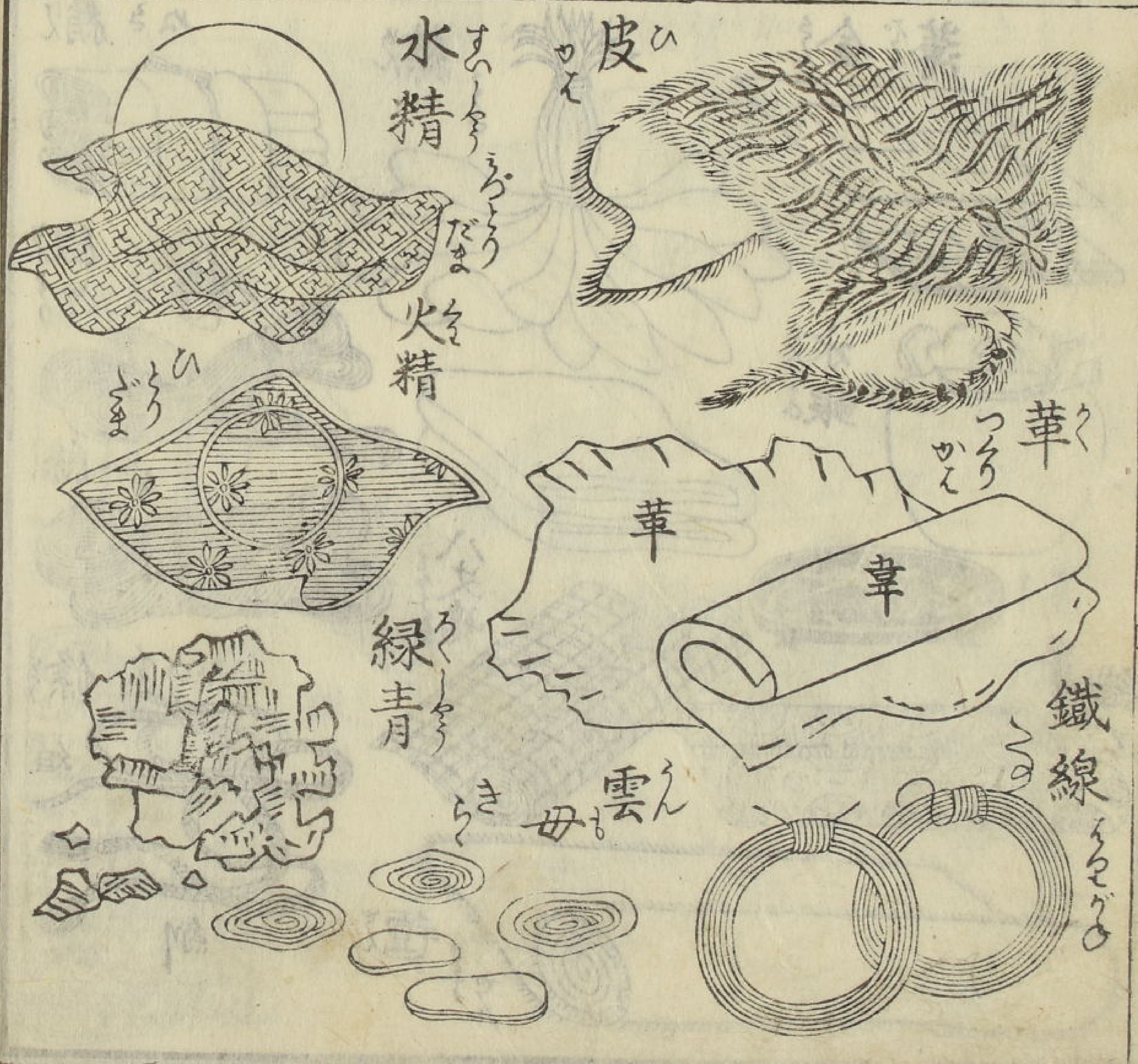
○縠ハ縐紗なり今いふちりめんなり俗に縮緬とかく

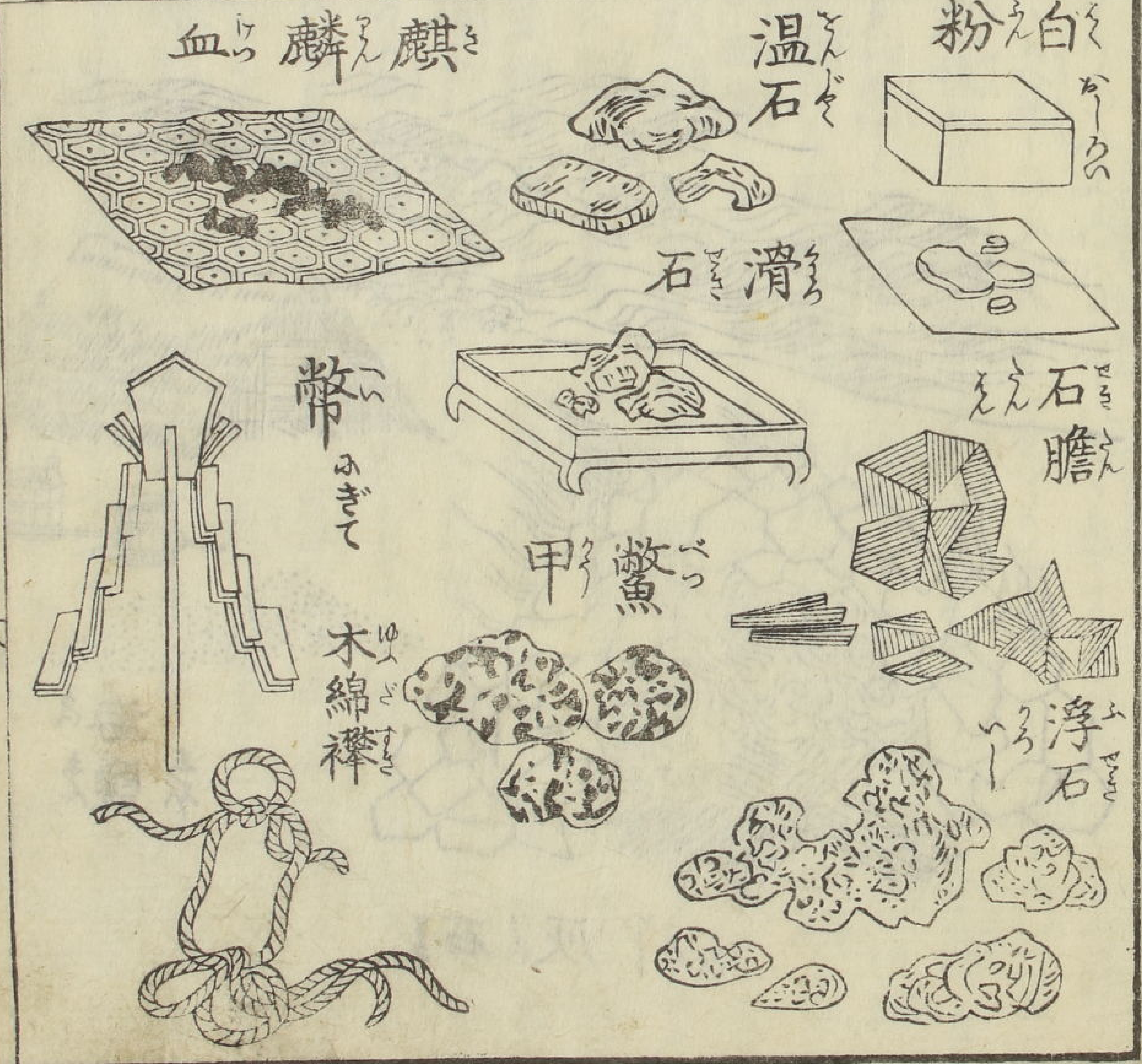
○繻子ハ五色五綵もあり

○繻珍ハ五色あり縐紗りつく織なり

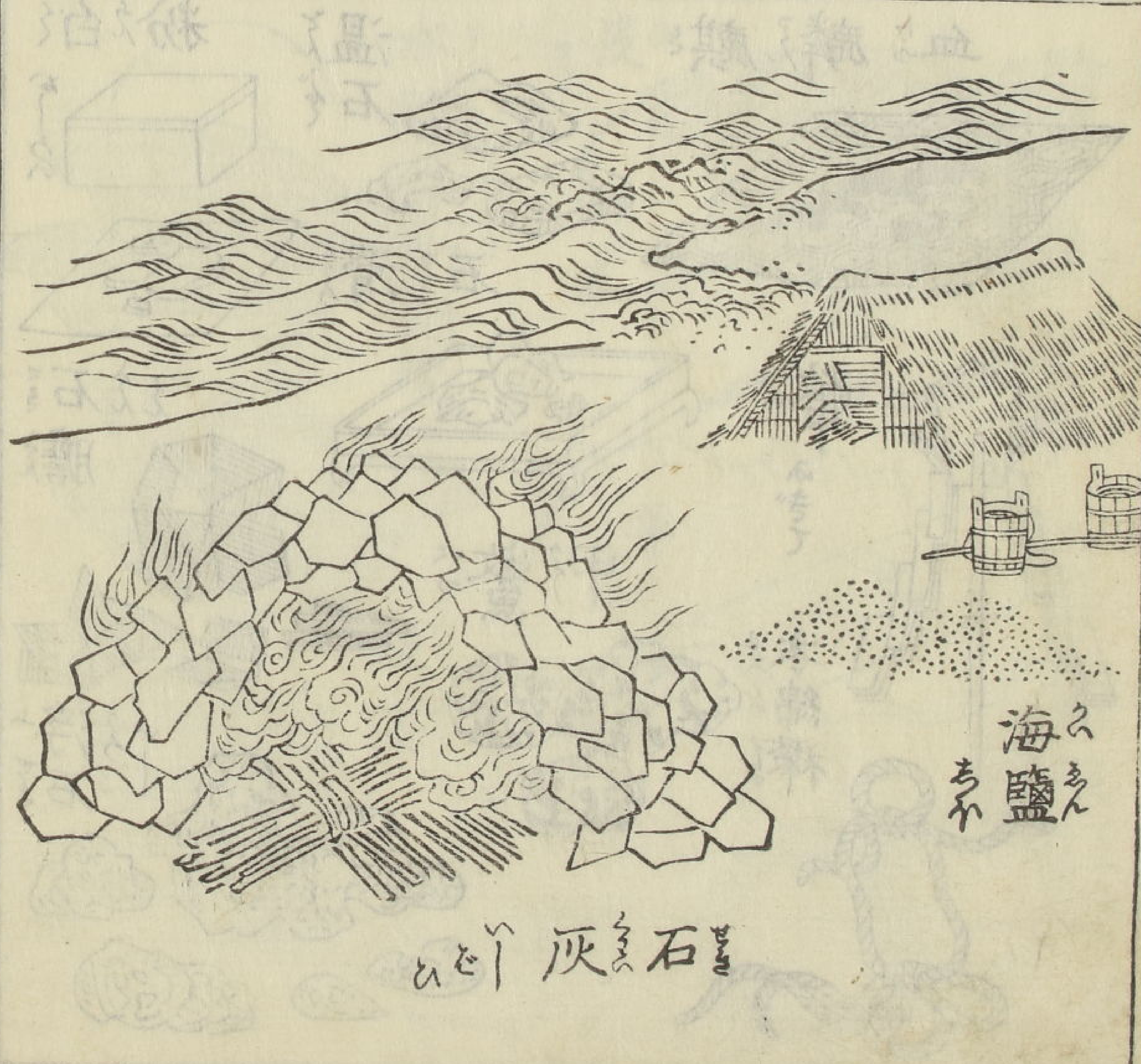
○綾ハあやなり又綾子之花綾ハ紋綾子なり光綾ハぬめ綾子なり

○綃ハきぬしなり生絹と書べし熟絹ハねりぎぬ


皮
ひ
かわ
水精
すいしやう
すいしやうだま
火精
ひとりだま
革
つくりかわ
華
韋
緑青
ろくしやう
雲母
うんも
きら
鐵線
はりがね


白粉
おしろい
温石
をんじやく
麒麟血
きりんけつ
滑石
くわつせき
石膽
幣
ぬさ
鼈甲
べつかう
木綿襷
ゆふだすき
浮石
かるいし

○緞は段子なり花段錦段毛段金段あり
○絹は加州より出丹後より出る縑はかとりぎぬなりまかゝるもあり
○線は補いとなりいとすじともいふ綫同漢の宮女冬至の日より日かげくありて一線のながきをそへるとぞ
○絲はいとなり蠶のはく所なり緒はいとぐち纇はいとふし縷はいとすぢ經はたて緯はぬき麻苧紵まを纑とて
○絛はさなだひもなり褊を組といふ圓を紃といふ
○綿は蠶よりとる精を綿といひ麁を絮と云



綿はまわた絮は本まわたなり○八丈縞は日本八丈の島よりいづるをもつて公方様へ貢にそなゆるなり外に八丈縞といふはみなにせものなるべし○氈はむしろなり毛氈あり綿氈あり花氈あり毛氈のそめたるは山水といふ○金薄を金をうすくのべたる物なれば箔といふあり箔はうすしとよむ銀銅の箔は箔ほど○水銀は性寒なり毒あり馬歯莧よりも水銀あるゆへ又汞とも書丹砂よりいづるなり○高麗織は京西陣よりいづるを○皮はけがはの皮に毛あるときの名なり虎皮豹皮熊皮狐皮麛皮かのこなり○革はけがはの皮なり毛をさると革といふ生なりわるは熟するは韋といふなめし皮なり○鐵線ははりがねなり銅線はあかがねのはりがね又銅絲ともいふなり○水精はすいしやうなり水中の石乃美なる物をいふ水晶同し又硝子もみづとだまなりびいどろなり○緑青は石緑ともいふ銅のさびなり銅緑ともいふ水飛して畫工采の具とするを○火精ひとりだまなり火齊同この火をとりて灸をともすは虚熱をさる也○雲母はきらゝ也盧山の中よりいづる五色あり白色のもの服する事十年もすれば雲氣つねにその上におほふ○膏薬に付る又地紙よろし○白粉おしろいは鉛粉なり鉛をむさせて化るをとうのつちといふ又銀粉はそうや粉霜はやさうし白粉は蕭史といふ人つくりはじめて秦穆公のむすめ弄玉にぬらしむなり○石膽たんばんは銅ある所より出煎し煉てなる石中

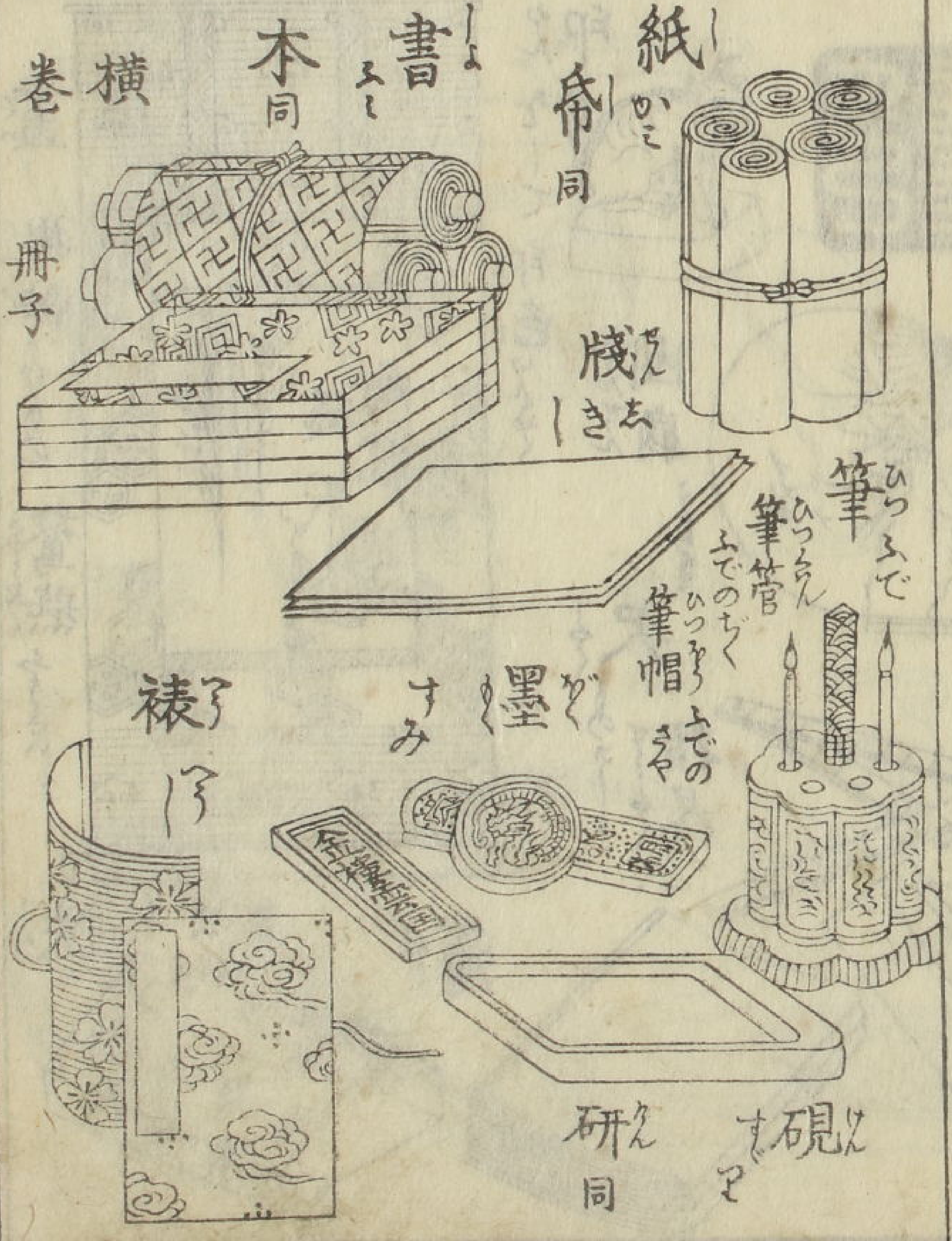
のけなり膽礬なり○浮石かるいしハ水花ともいふ水のあわ化して浮石となる西國よりいづる○温石ハ一名烏滑石といふ和漢ともにあり硫黄のある山より出る正眞ものなり火にあたゝめて熨とさればよく痼疾をいやし瘀血を散ず○滑石ハうるしをとめになんとつけし油のりのにごれるに滑石をふりかくれバ油けとれて白色なるものよし○鼈甲たいまい也鼈魚ハ海中の大なるかめの甲をもつてうろこをはげ斑文いづるこれをもつて櫛笄香盒等のるいハ物につくる玳瑁といふも同じ又薬に用也○麒麟血ハ麒麟の血なりといへども麒麟といふけだものゝ血にハあらず馬血なり血とおなじ○幣帛ぬさて贄ともに書策にてをる紙白和幣といふ麻にてをる紙青和幣といふ帛とおなじくたむけ神前禄の具なり手にとるといふ義訓なり○木綿襷ハ幣をとる時にかくるくさきとあり木綿のをひげなりむかしハ楮の皮にてつくる幣を白木綿といふ○海鹽しほハ食鹽なり海中の潮をくんで竈にて鹽をと賢に入て歯をみがくを鹵わしほ鹵坵ハしほが丘也○石灰ハ火にやきて石をやきて灰となす毒ある物一切の腫物を治す又白堊にして壁をぬる

頭書增補訓蒙圖彙巻之八

器用

此部ハ武具農具そのほか日用のうつハものをしるす

○紙ハ楮の木にてつくる後漢の蔡敬仲といふ人始てこれをつくりむかしハ帛に物かきしゆへに紙といふ字糸偏をつける○筆ハ秦の蒙恬といふ人つくりそめしとあり蒙恬此功によつて管城といふ所に封ぜらるよつて筆の異名を管城子といふ○硯ハ黄帝玉をもつて


紙 し
帋 かみ 同
書 しよ
本 ふみ 同
横巻
冊子
牋 せん しき
筆 ひつ ふで
筆管 ひつくわん ふでのぢく
筆帽 ひつぼう ふでのさや
墨 ぼく すみ
裱 へう
硯 けん すゞり
研 けん 同

はじめてはじまりあふといへ

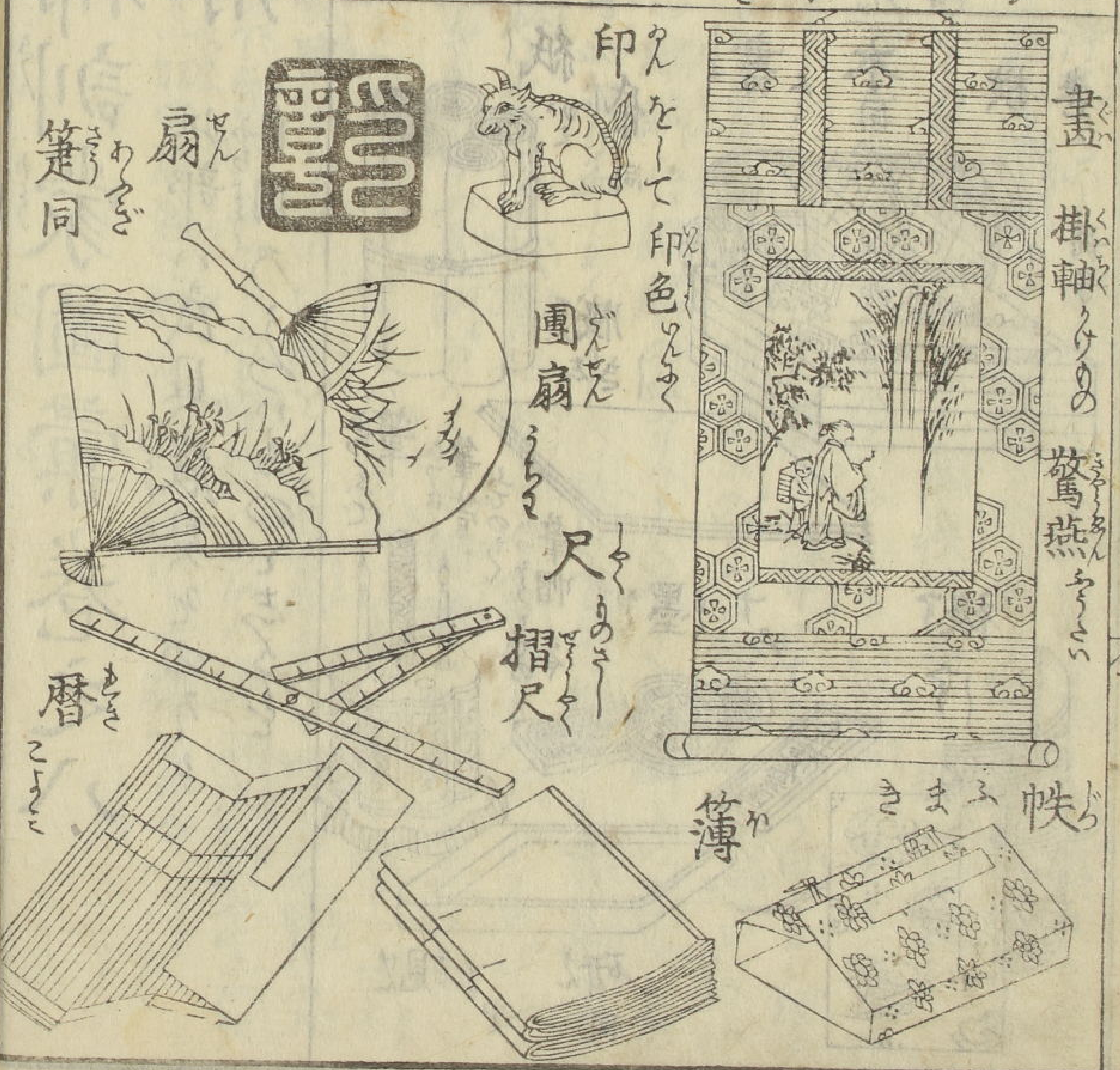
○墨は煤に膠を合てつくる油煙松煙あり子路といふ人つくりそむといふ

○書はむかしは竹をわりに小刀にて彫付てこれを書と をようて巻とも冊とも云

○褾は褾紙なり書のうは紙なり褾同 簽は外題也

○畫は繪なり采るを繪といふ唐にては舜擧日本にては雪舟今は狩野家其外名人あり

○帙は書のうは包なり袠同じ又文巻文匣あり又書どもをべて帙ともいふ

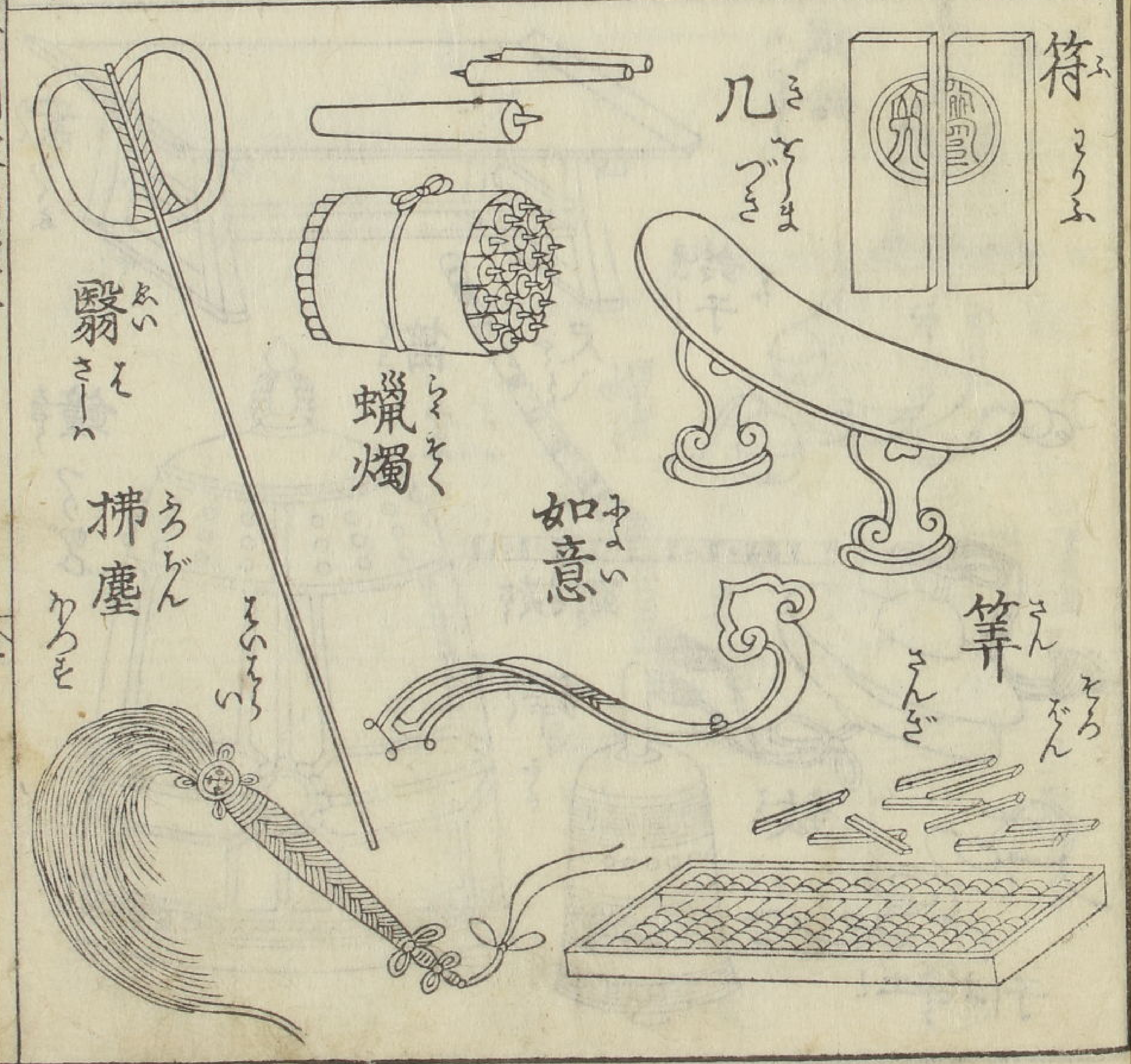

畫 ぐわ
掛軸 くわぢく かけもの
驚燕 きやうゑん ふうさい
印 いん をして
印色 いんしよく いんにく
扇 せん あふぎ
箑 さう 同
團扇 だんせん うちは
尺 しやく ものさし
摺尺 せうしやく
暦 れき こよみ
簿 ほ
帙 ぢつ
ふまき

○璽は王者の印なり玉をもつてつくる庶人は金石にてつくる

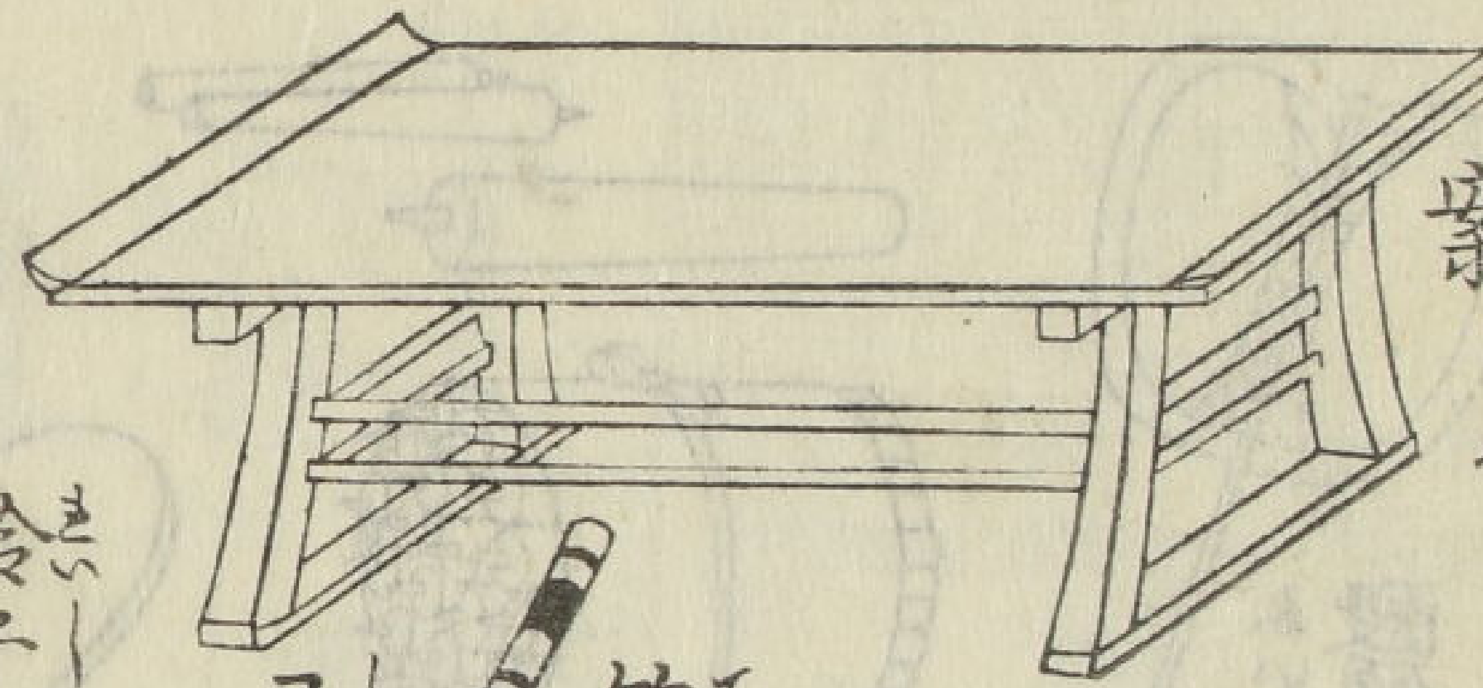
○扇は舜つくりはじめたまふ武王つくりたまふともいふ日本にては神功皇后三韓征伐のとき蝙蝠の羽に見てつくりたまふ

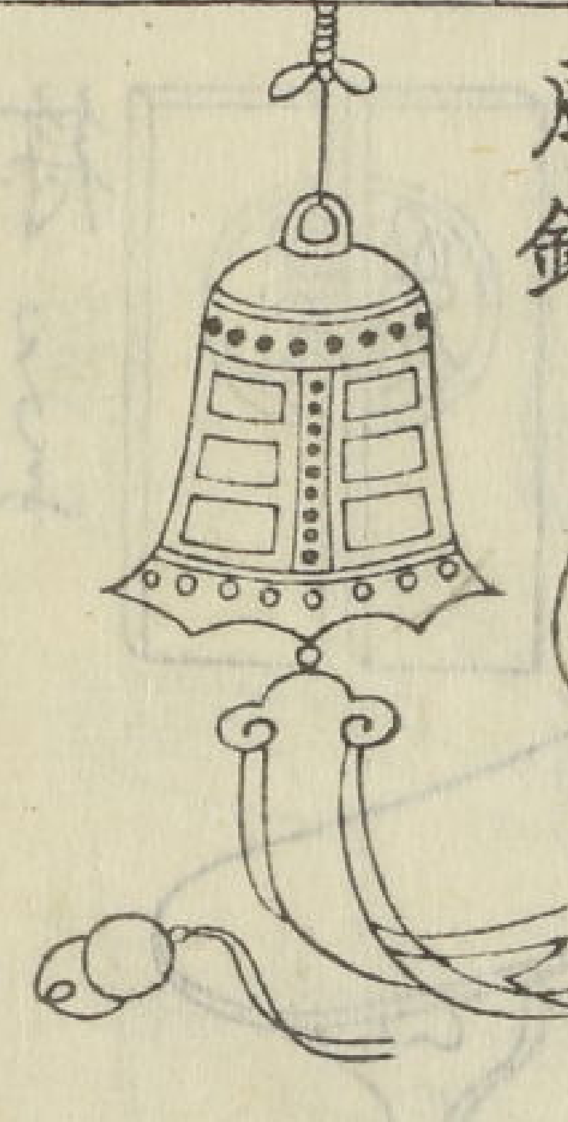
○尺は粟より生ず十粟を分とし十分を寸とし十寸を尺とす尺は人の躰をもつてさだむる指は布て尺を知り肱とのべて尋を知る尋は八尺なり

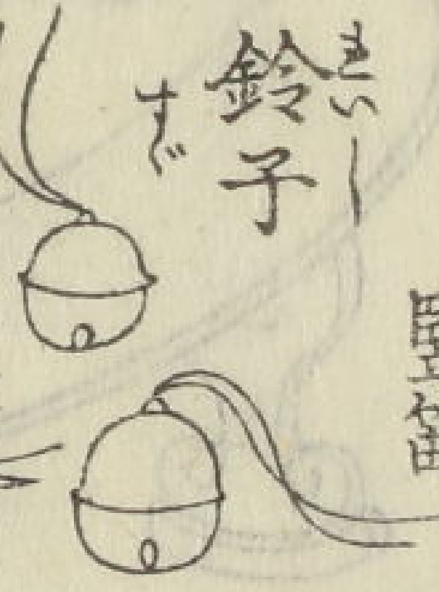
○簿は手板なる事を云ちやうとものなり竹簿書簿

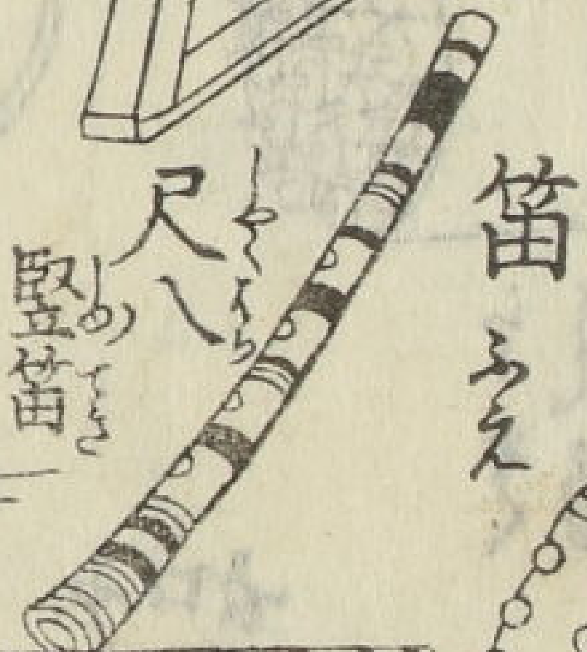

符 ふ わりふ
几 き をしまづき
蠟燭 らうそく
如意 によい
筭 さん さんぎ そろばん
翳 えい さしは
拂塵 ふつぢん ほつす

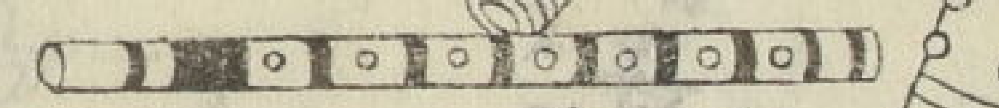
籍と云今いふ帳なり
○暦ハ黄帝つくりたまふともいふ又容成つくるとも又羲和作るともいへり
○符ハ符契符信といふまもりなり竹長さ六寸にして分て相合せ信とする又木にてもつくるなり
○几ハ今いふ作ゑなりまた脇息なり憑几なり又机ともかく
○筭ハ長さ六寸暦数をはかるものなり黄帝の臣隷首算数を作る筭ハやすなり算につくる也
○蠟燭ハ蠟に油をまぜて練

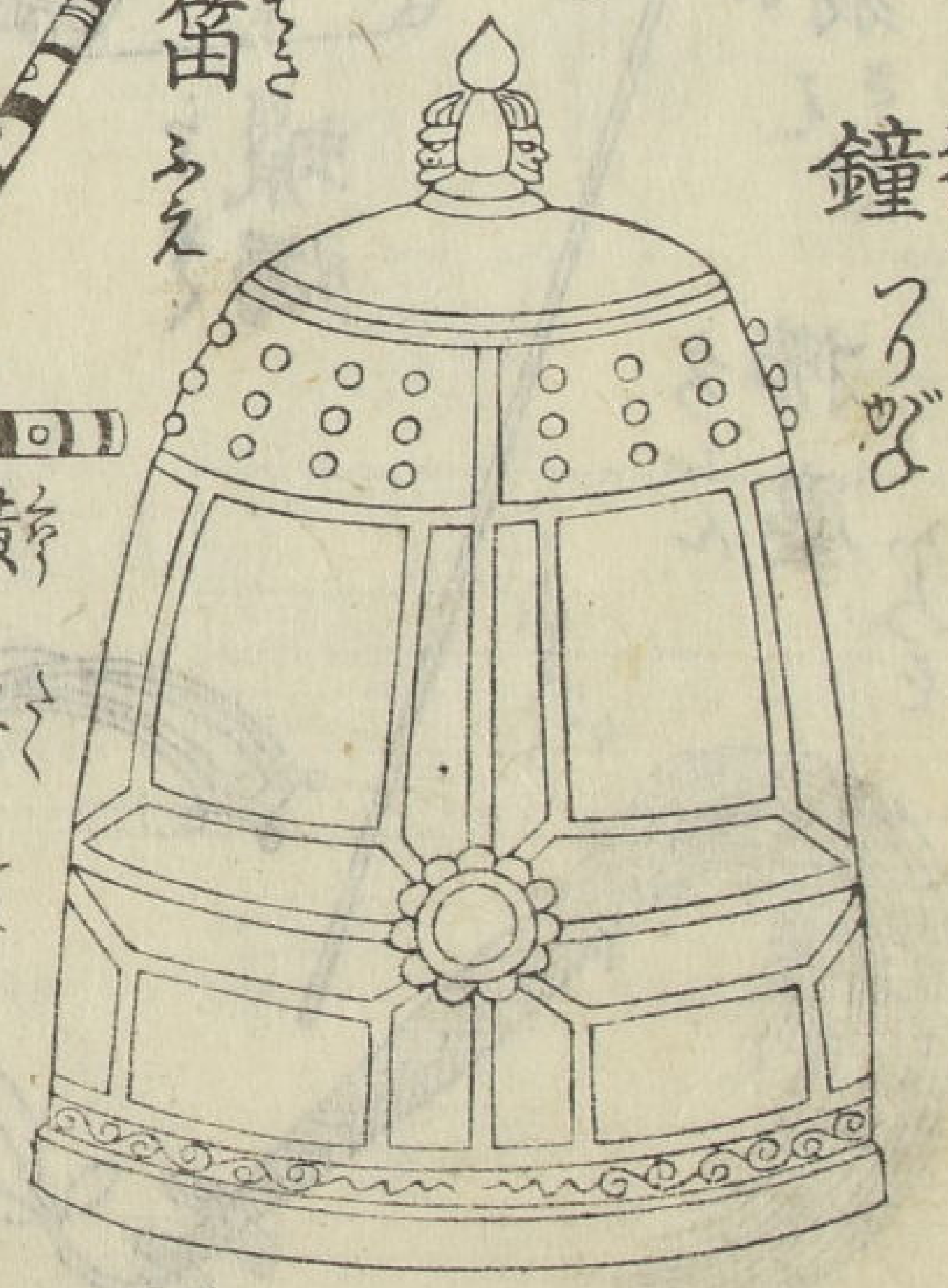


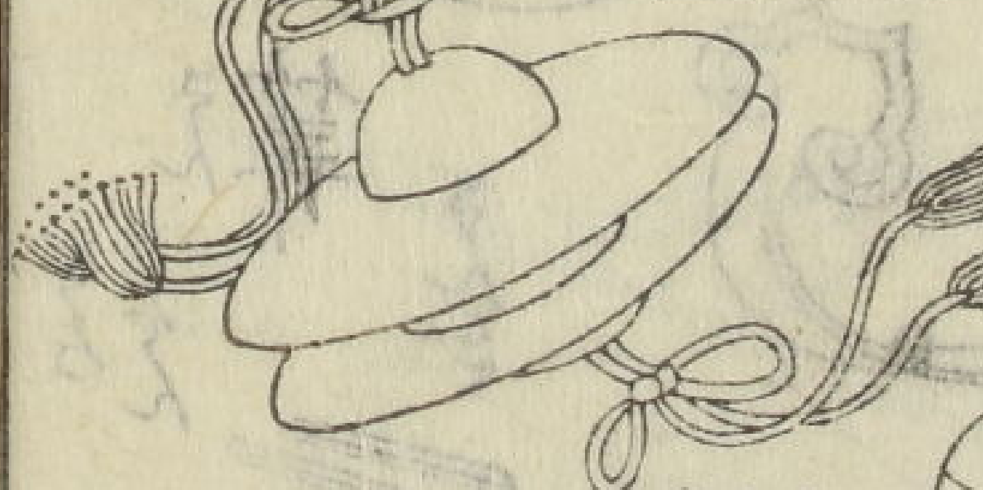


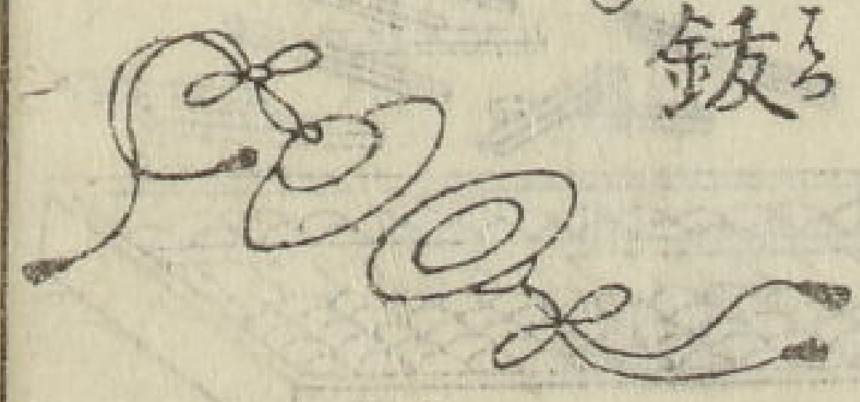


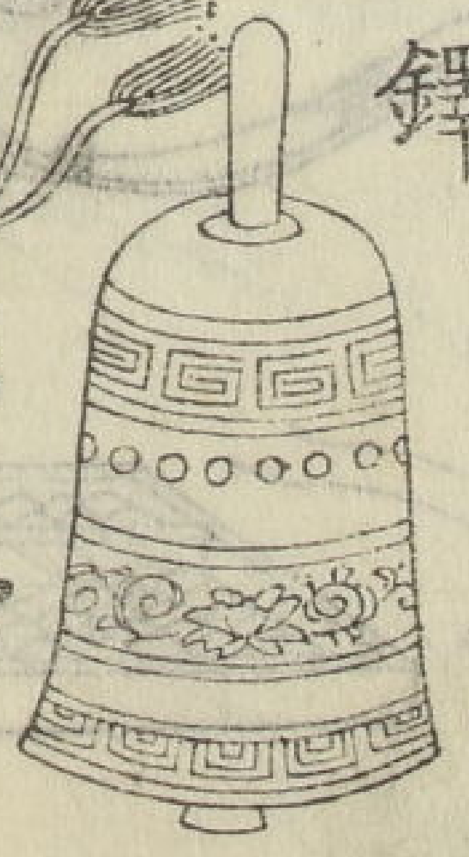

笛 ふえ
尺八 しやくはち
竪笛 たてぶえ



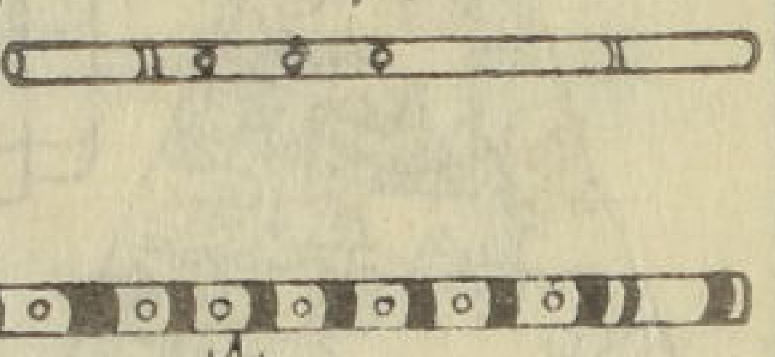


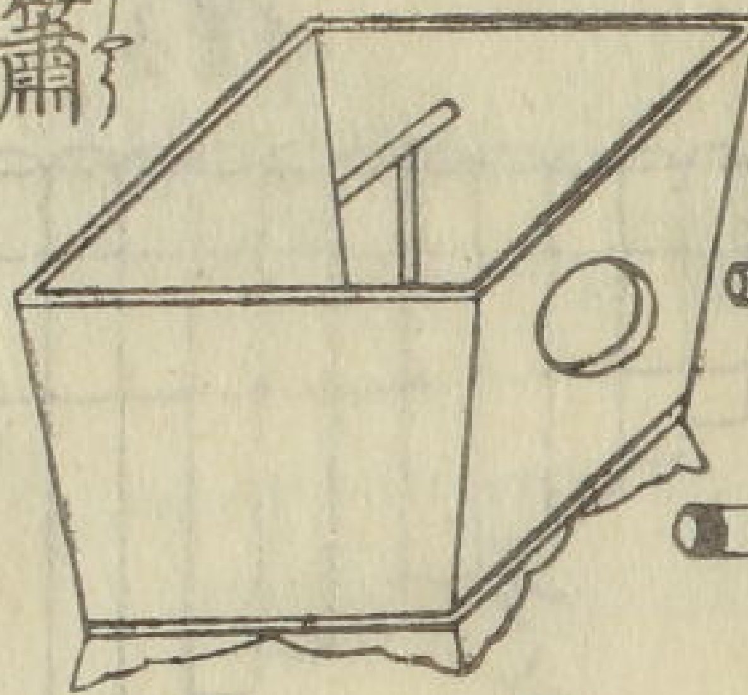


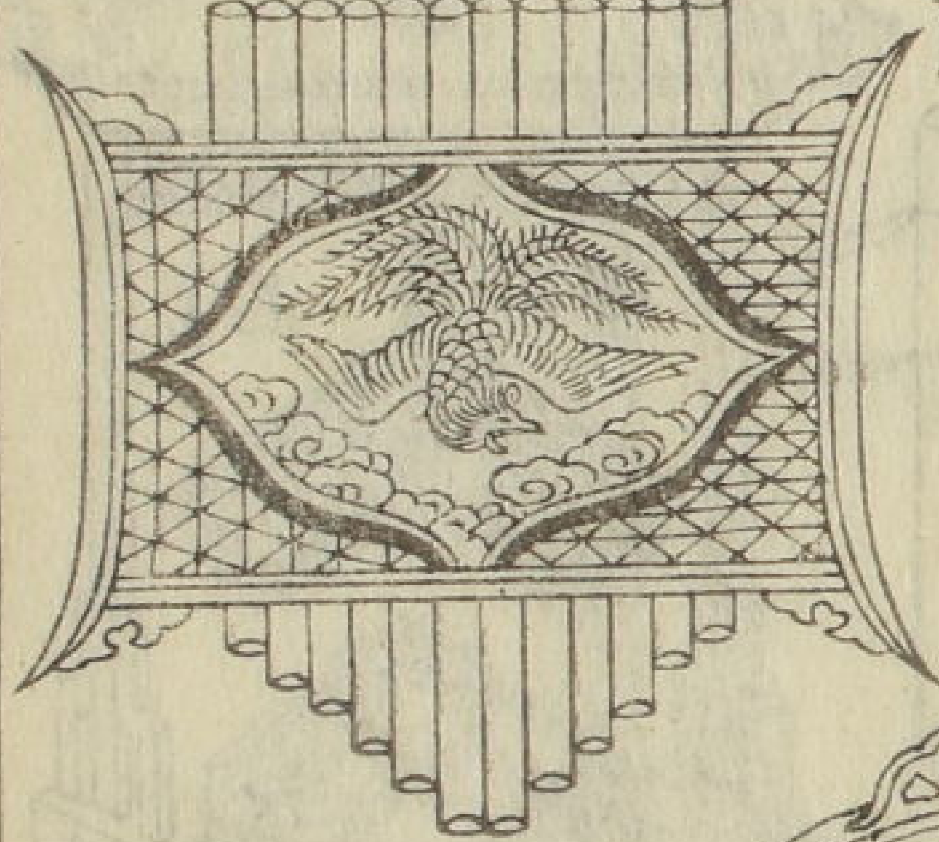


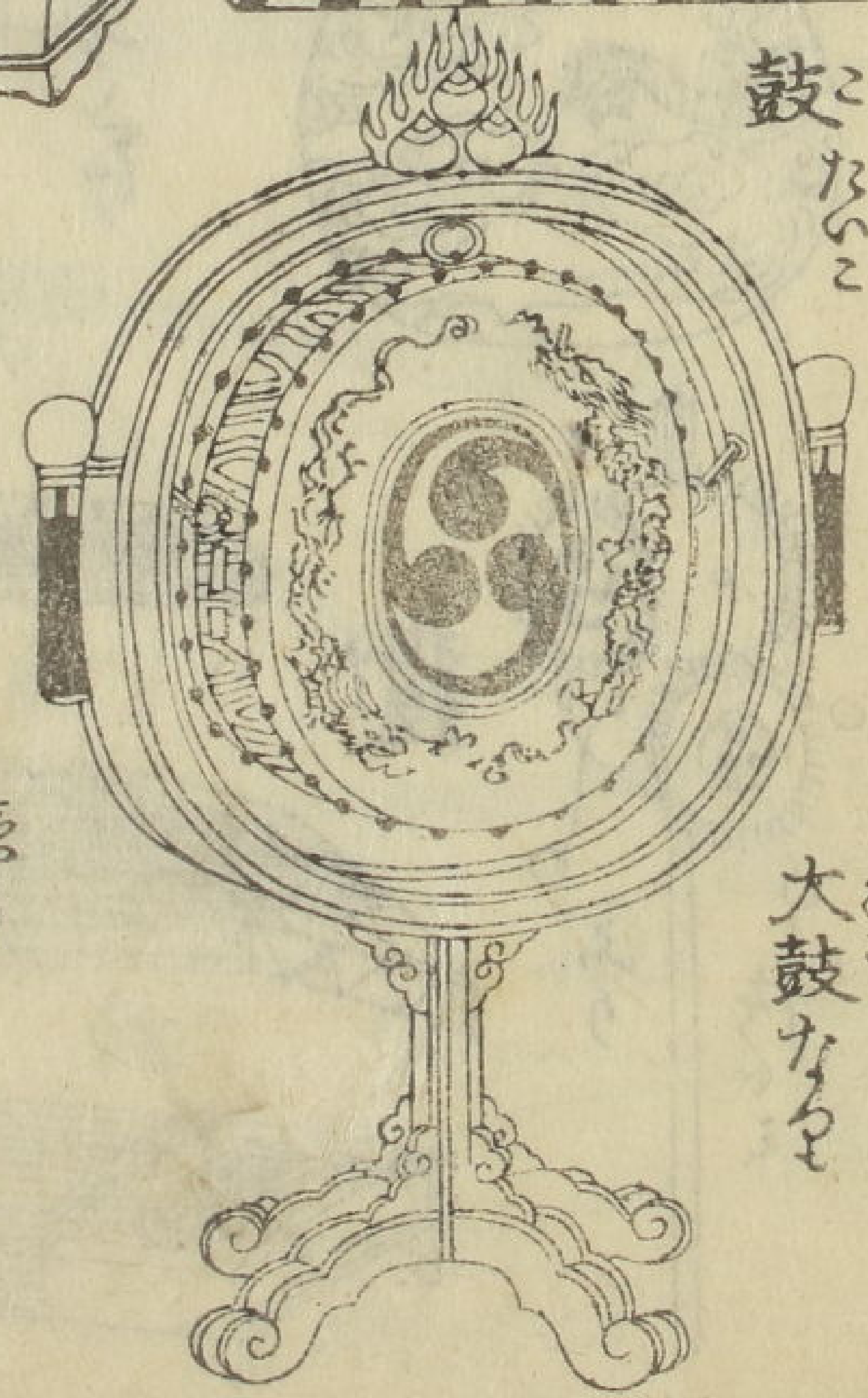


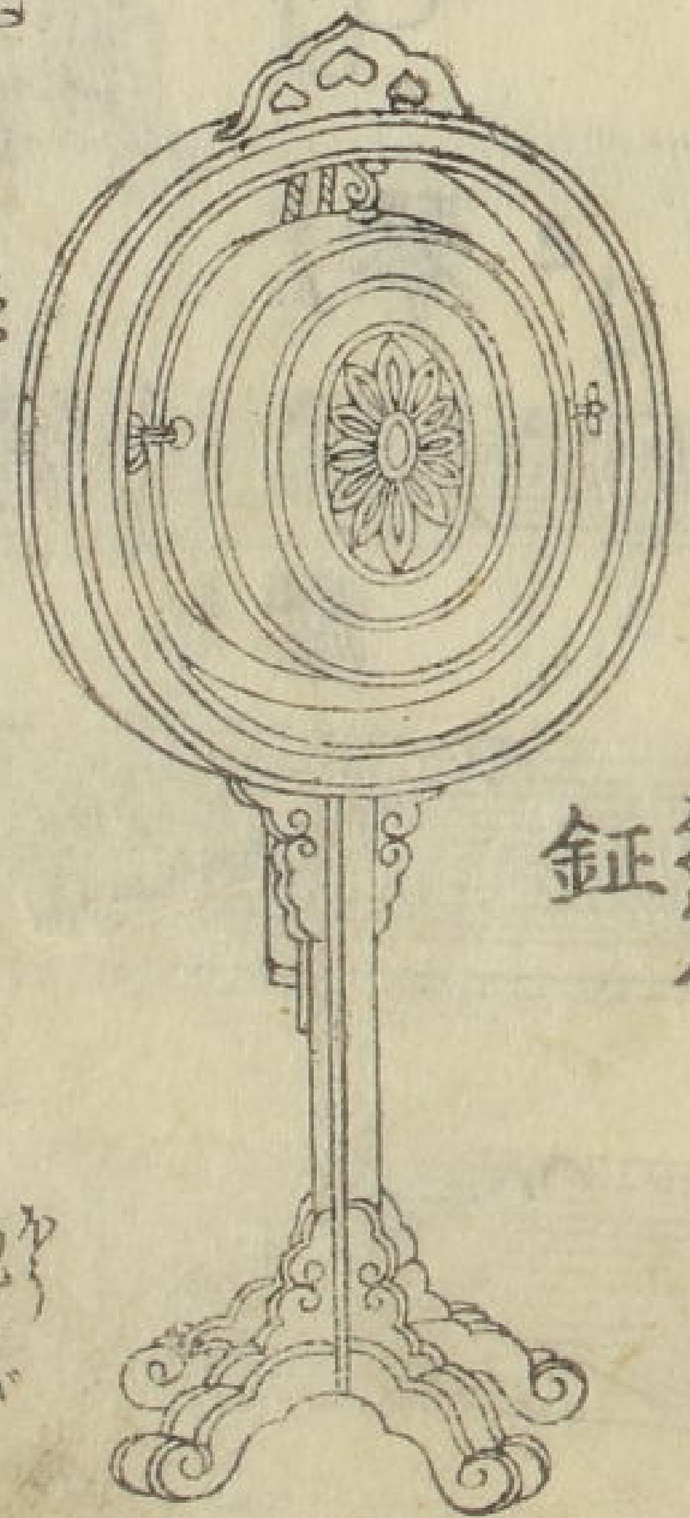
て竹の筒に入てともす燭なり銀蠟燭あり朱蠟燭あり
○如意ハ木竹又象牙玳瑁などにてつくる物なり事をわすれじとて書付て手に持物なり文殊の持物なり
○翳ハ天子のうしろにかざす物なり女嬬の役なり
○拂塵ハちりはらひなり禅家にハ拂子といふ揮指をする具なり麈の尾白熊にて作る
○案ハ今いふ几なりつくゑ又卓ともいふ几案ともいふ
○鐘つりかねハ十二調子の中黄鐘の調子をうしとるによつて鐘といふ

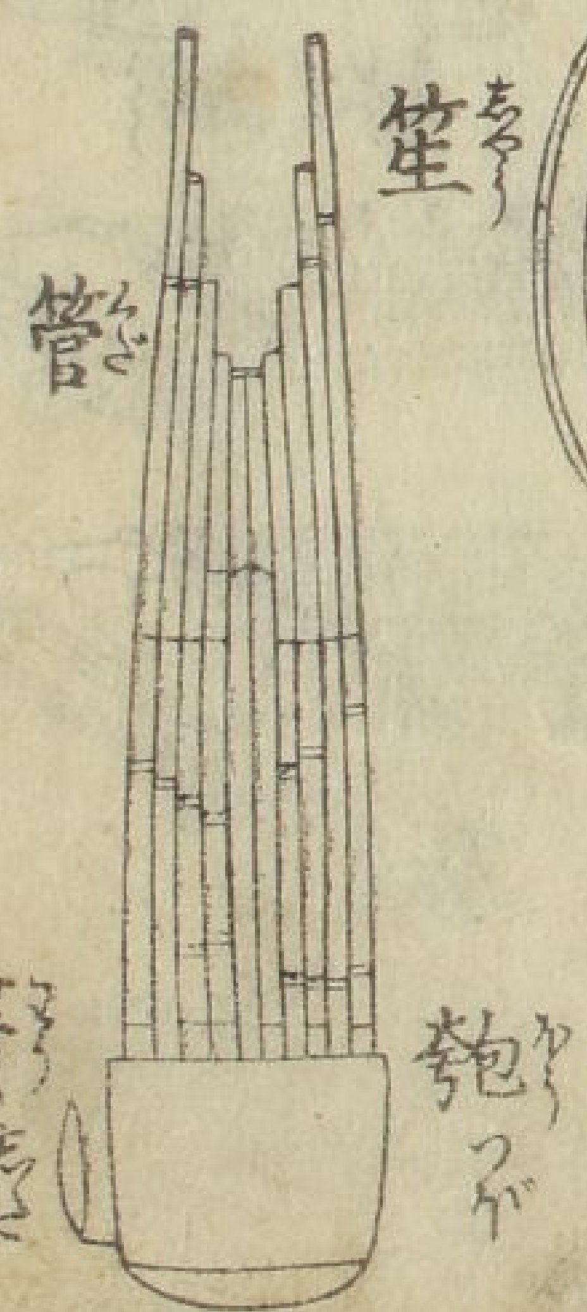












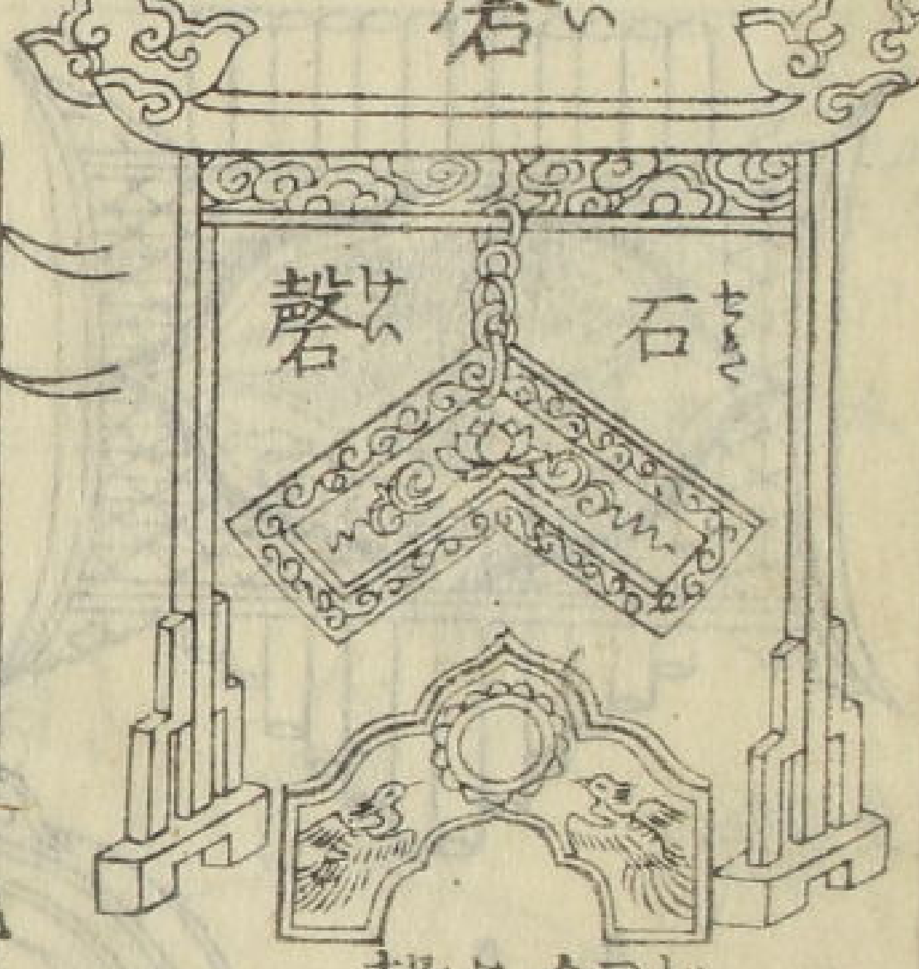
○笛ハ篴同漢武帝の時丘仲といふものつくれりと云日本ふくハ天の香久山の竹にてつくる

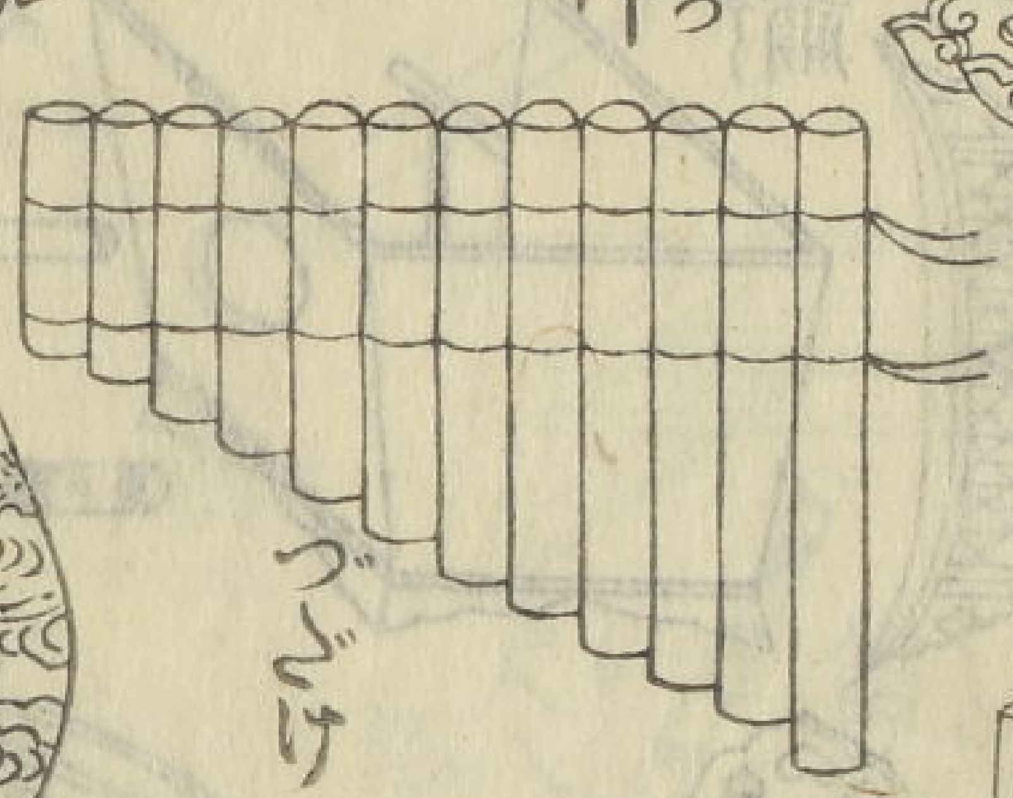
○鐸ハ金鐸ハ金鈴金舌也軍法にこれを用ゆ木鐸ハ金鈴木舌なり文教ニ用ゆ

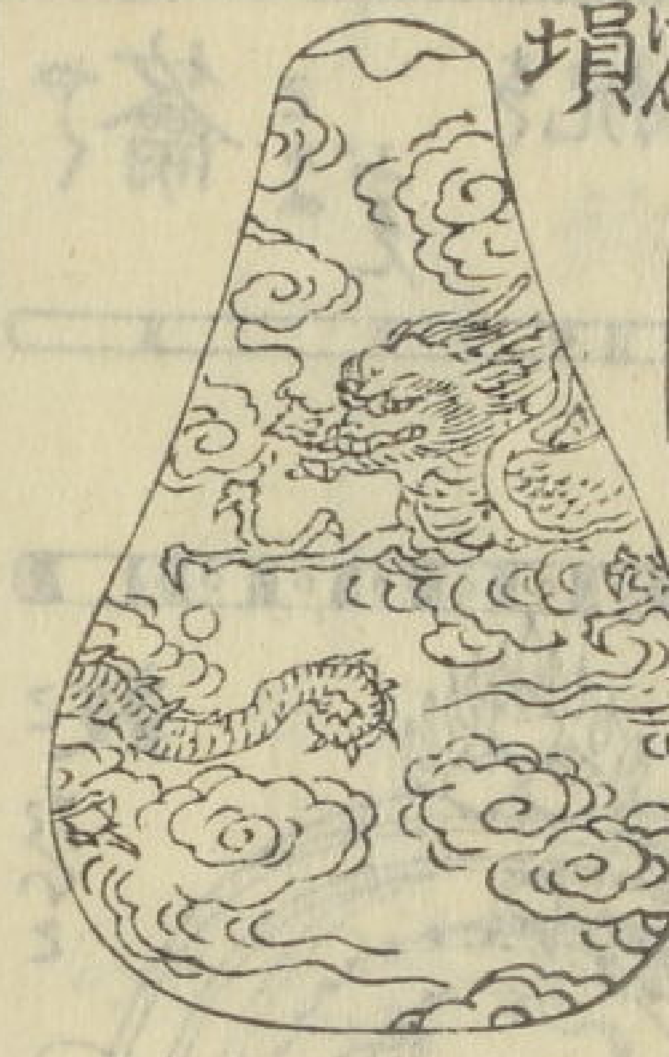
○鈴ハ風鈴なり一名簷鈴といふ○鈴子ハすゞなり一名を圓鈴といふ

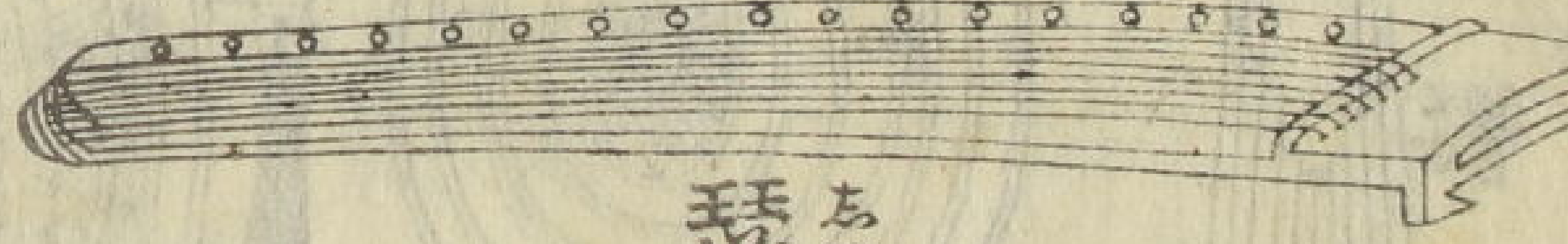
○鈸ハ僧具なり銅鈸子ハ土柏子なり南齊の穆七素といふ人はじまり

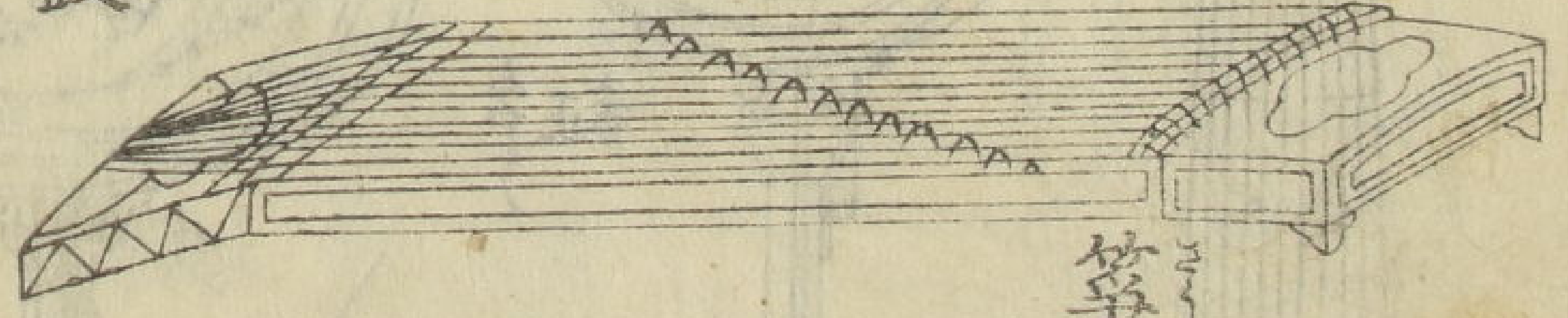
○籥ハ高麗笛なりふくあなをのぞいて六の穴あり又穴三ツあるもあり

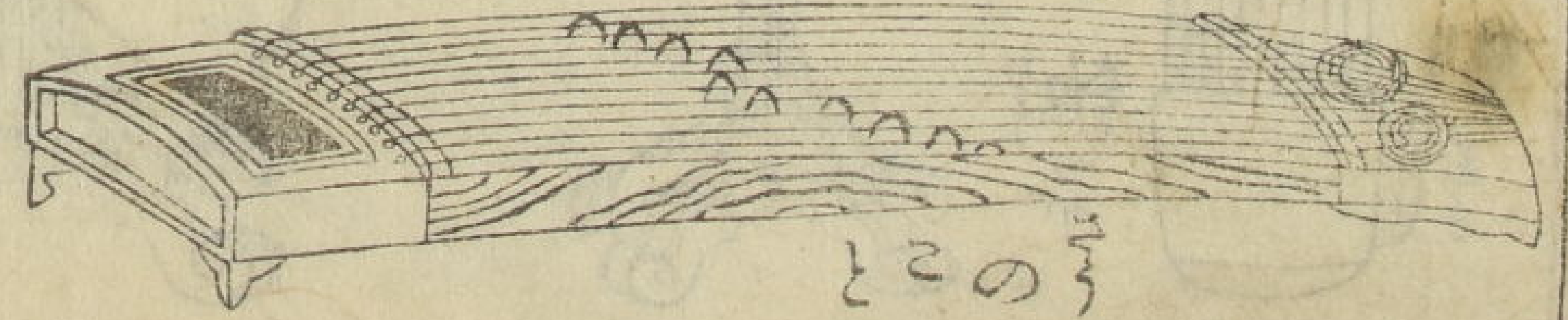


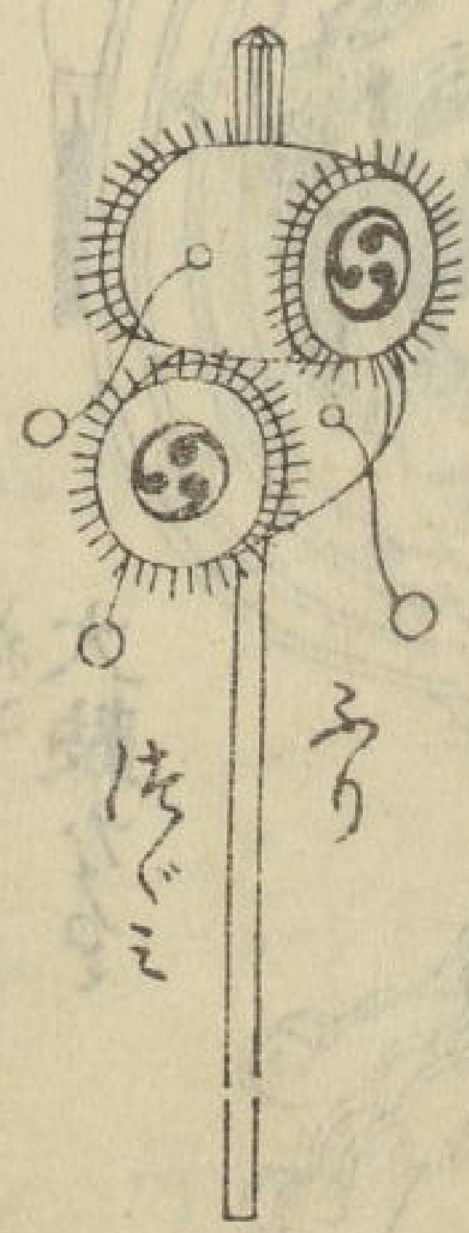












○鼓ハ大鼓なり樂器なり

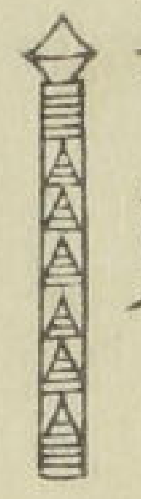
○柷ハ木音なり中に柄ありこれをうごかして左右ふるゝときあて樂をおこすものなり

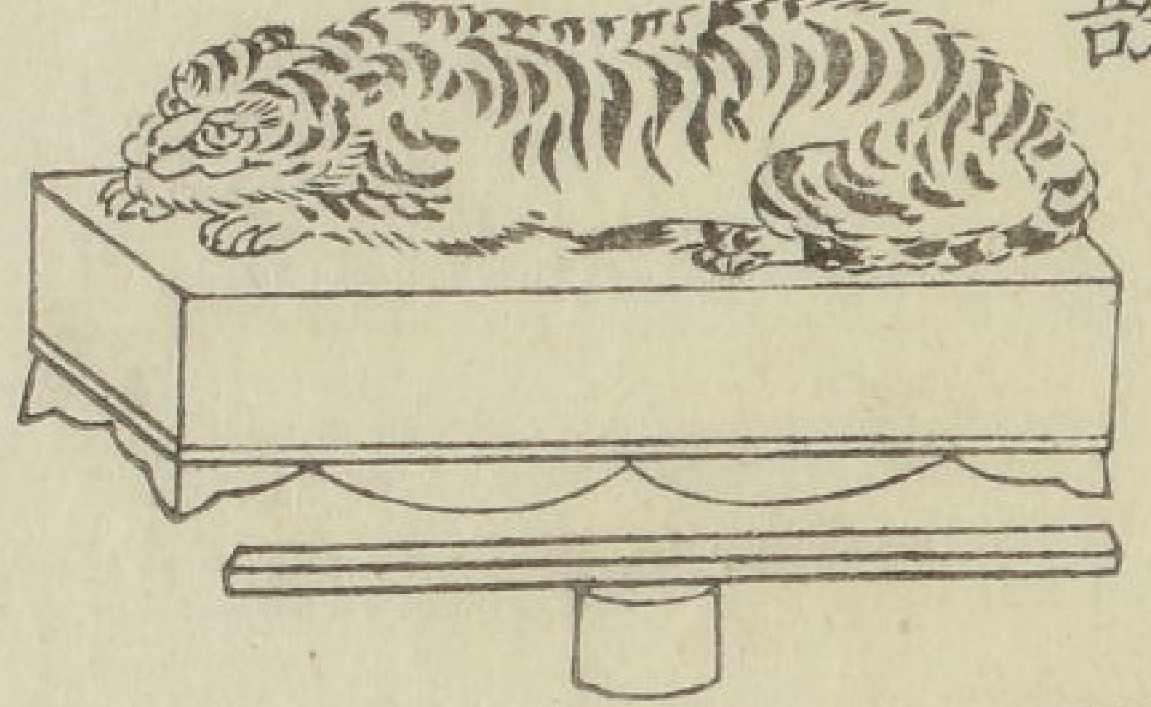
○鉦ハ小鐘なり樂器なり鼓を節し鼓を止むるなり鐘鼓となづく

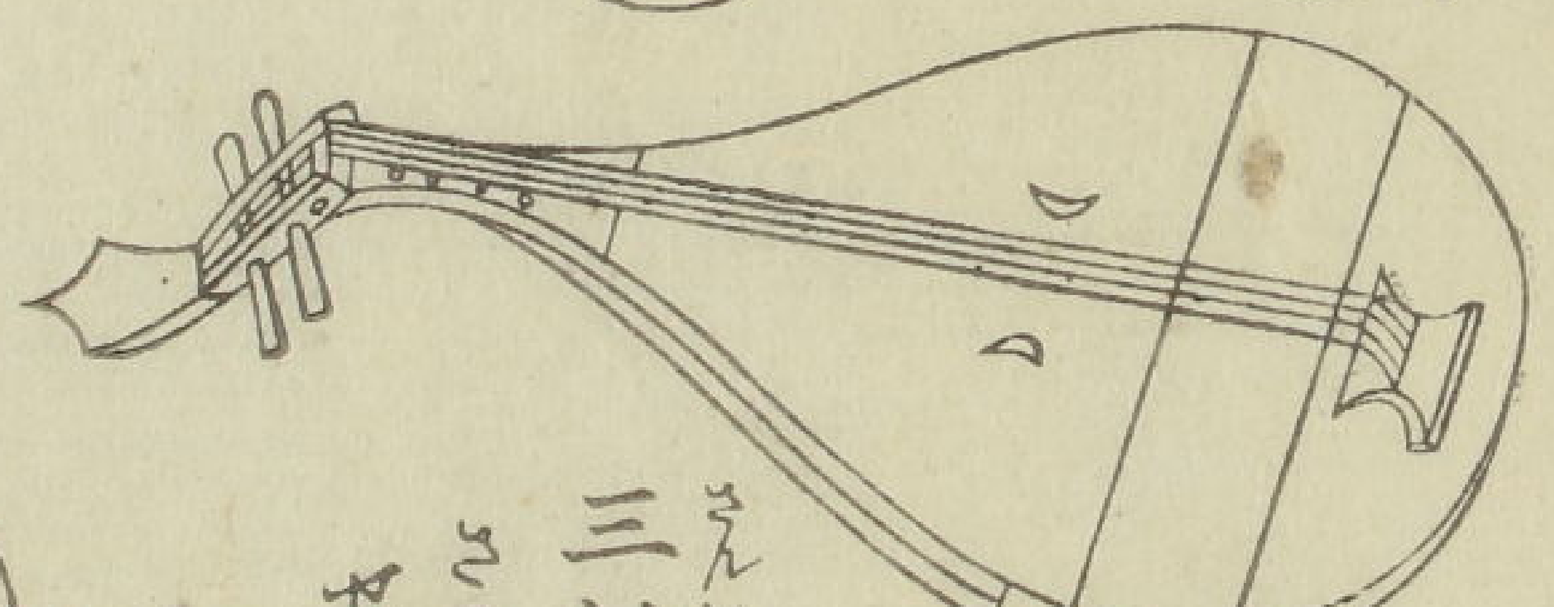
○簫ハ樂器なり小竹管をならべてたる鳳凰の羽翼にかたどる大なるハ二十三管長さ尺四寸小なるハ十六管長さ尺二寸なり

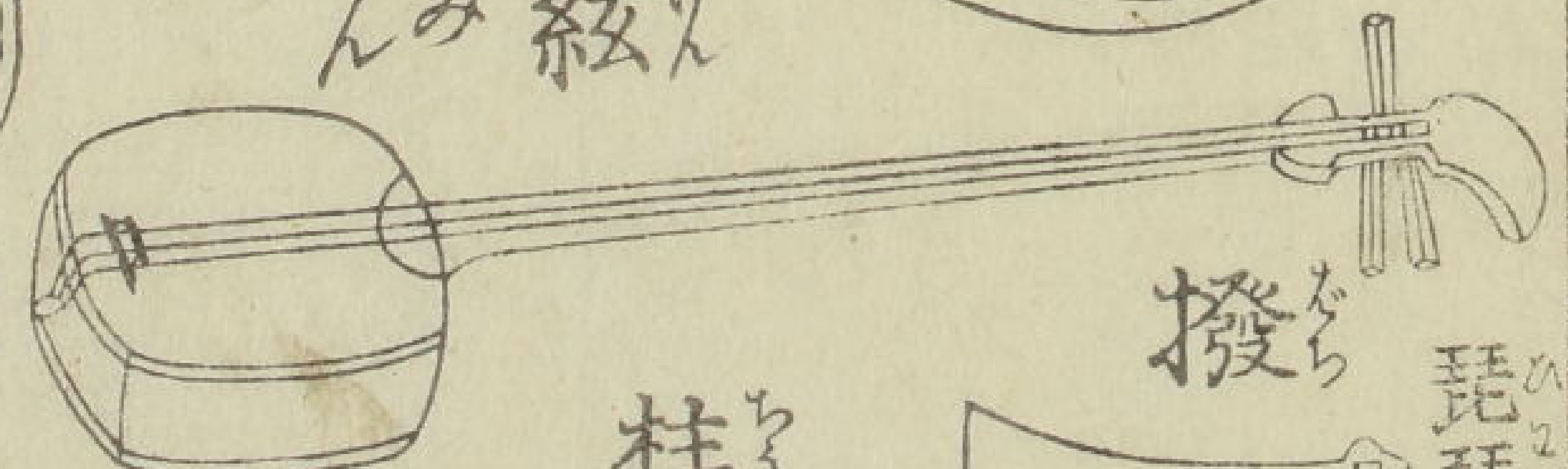
○笙ハ女媧これをつくる大笙ハ十九簧小笙ハ十三簧

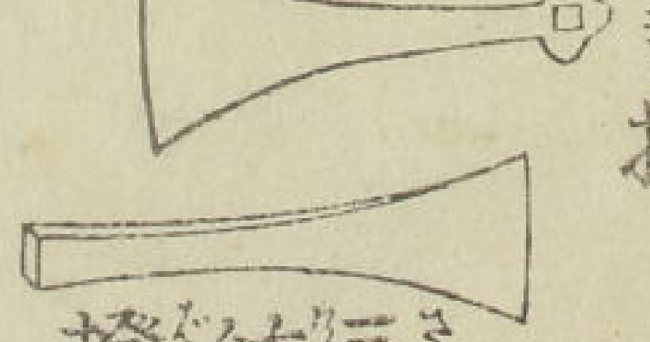
○磬ハ丹句氏のつくりしものなり石磬あり銅

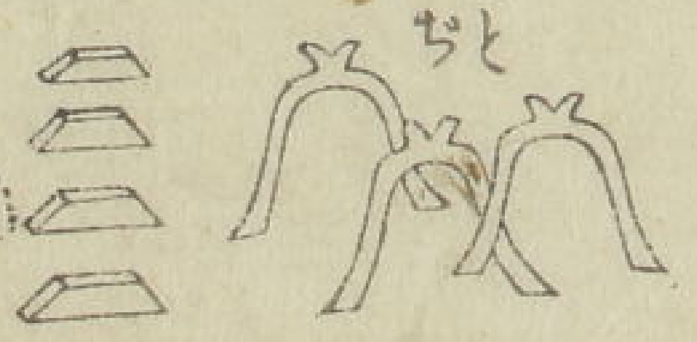


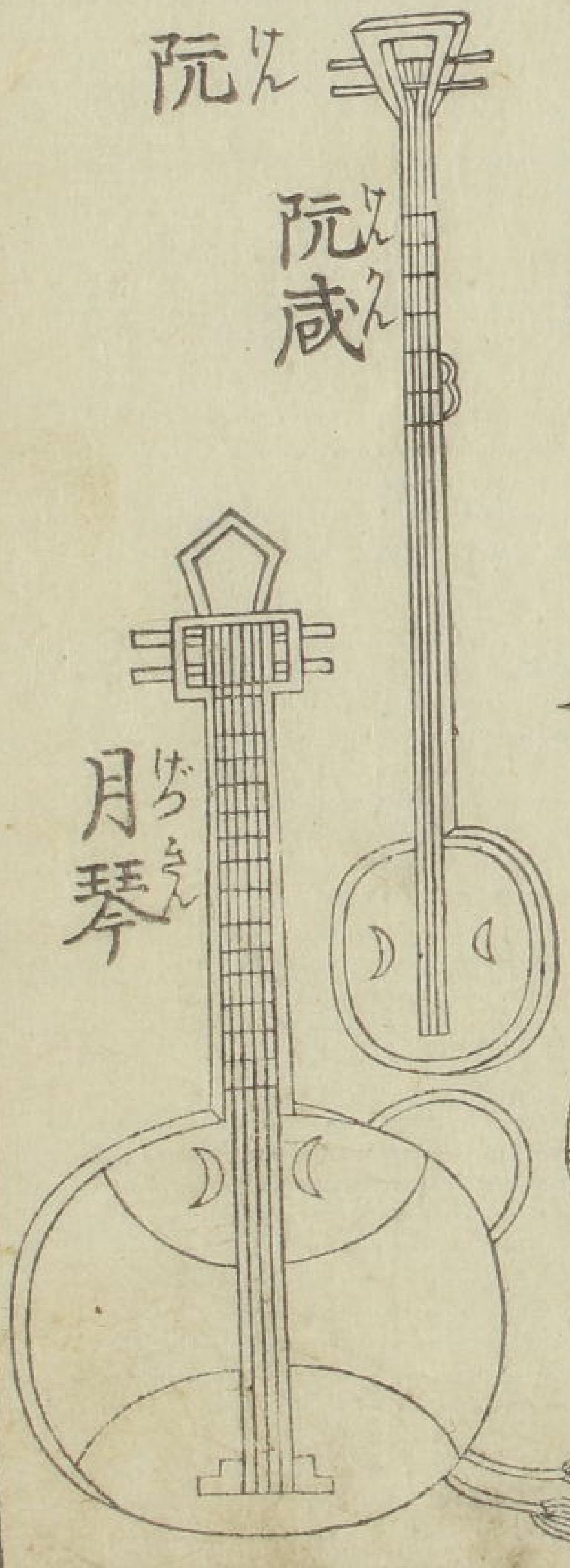




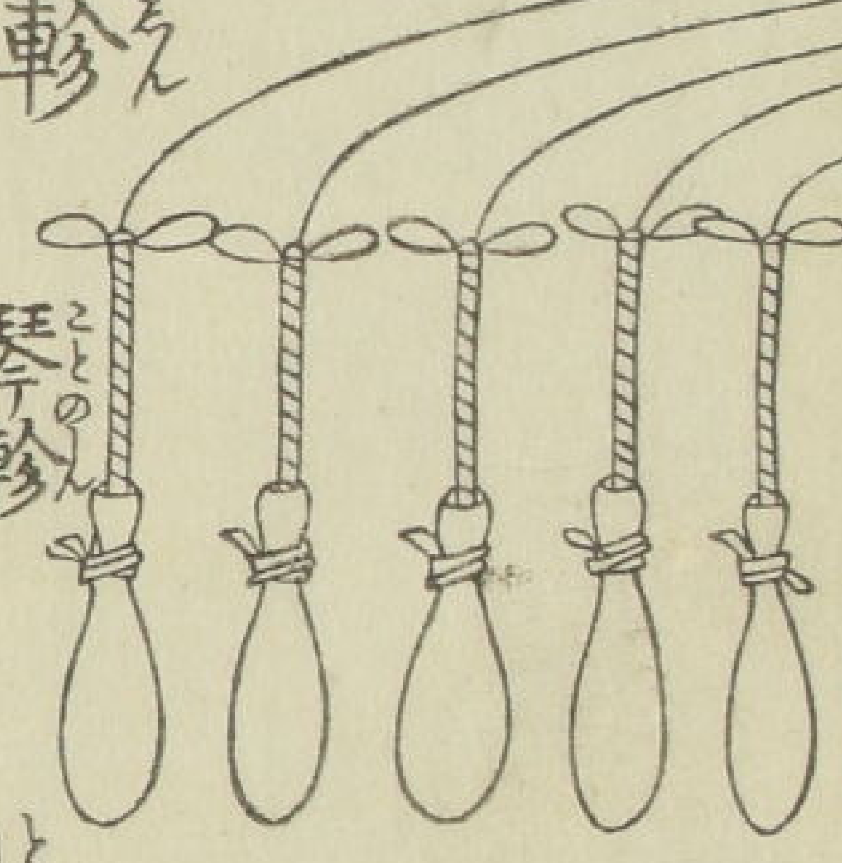


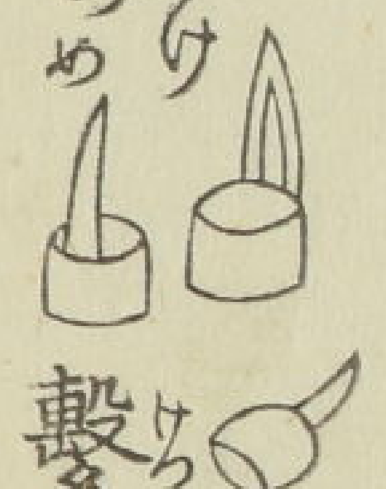


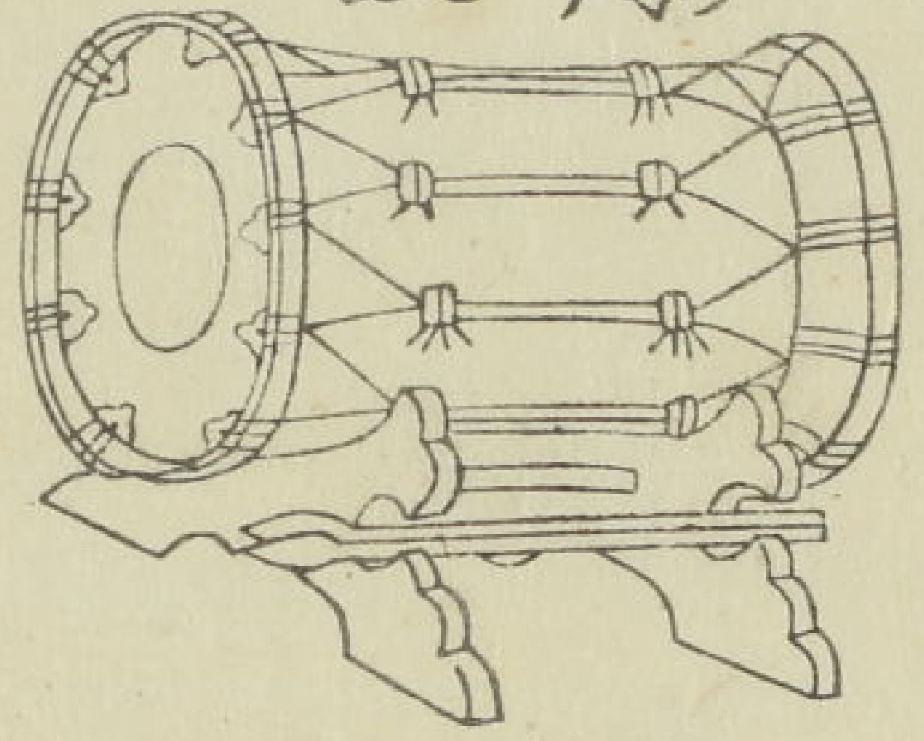


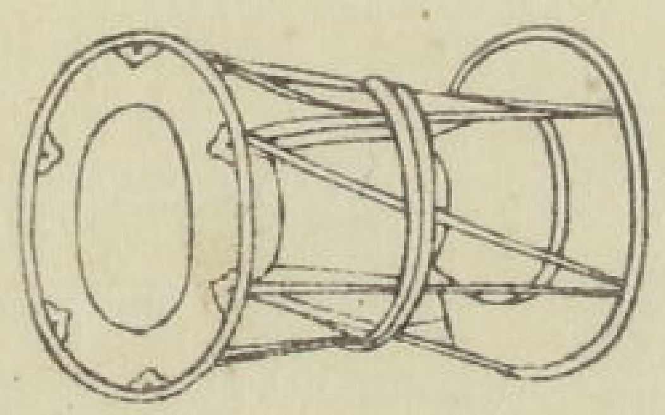


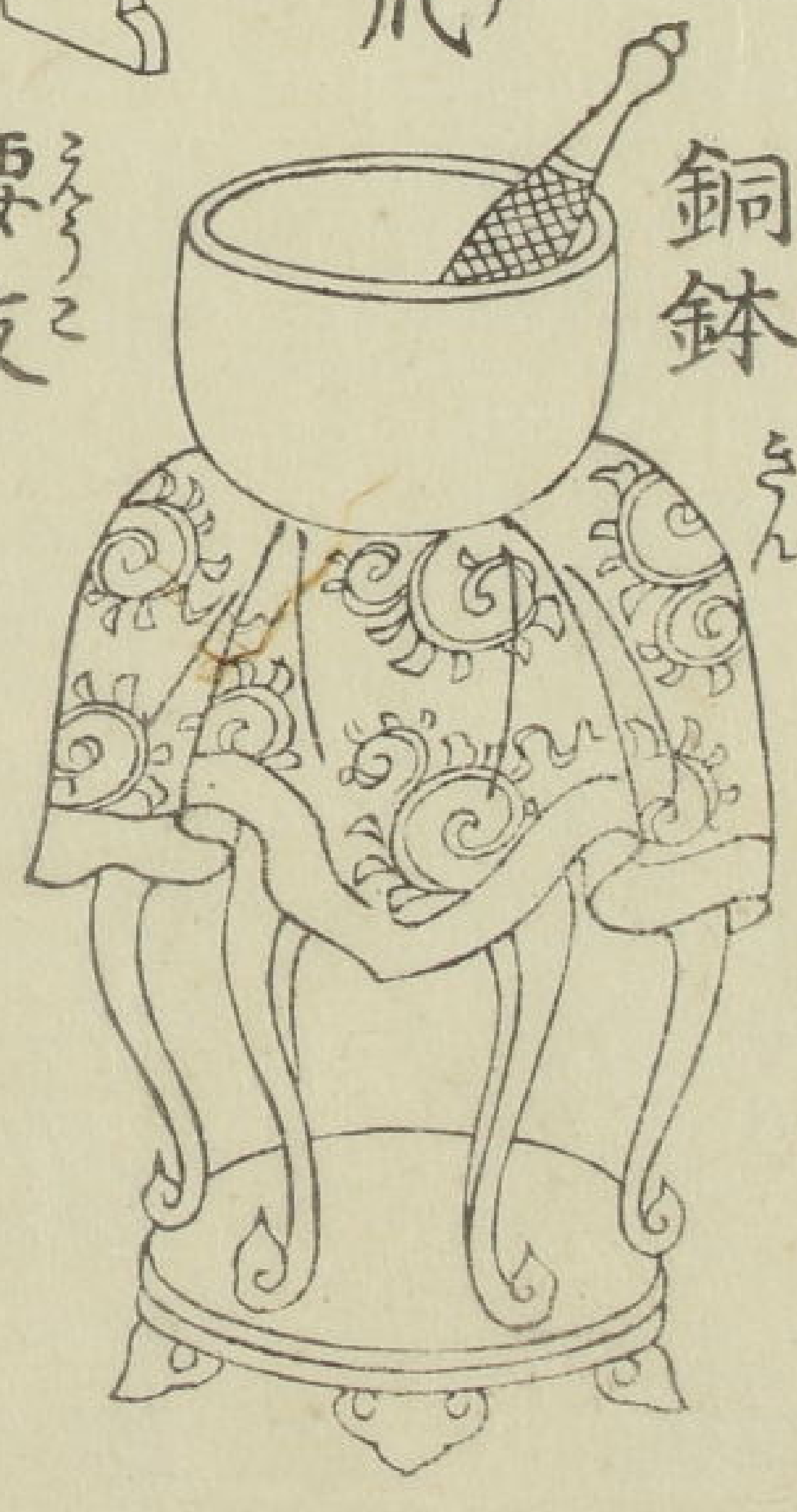
磬あり磬とかくるものを簨
簴といへ
○律ハ樂器なり陽律六陰
律六合て十二律なり六律
六呂ともいふ黄帝に伶倫作る
○琴ハむかしハ五十絃あり
後ふ二十五絃となる今ハ十
三絃あり日本にてハ天の
香弓をならべ絃をかけて
ならしそめしむ
○瑟ハ絃数多少あり大瑟
ハ五十絃なるを舜これを作
といふ樂器なり大なるを
瑟といふ小なるハ琴と云
○箏ハ秦の蒙恬つくり出
せり長六尺絃十三絃柱の

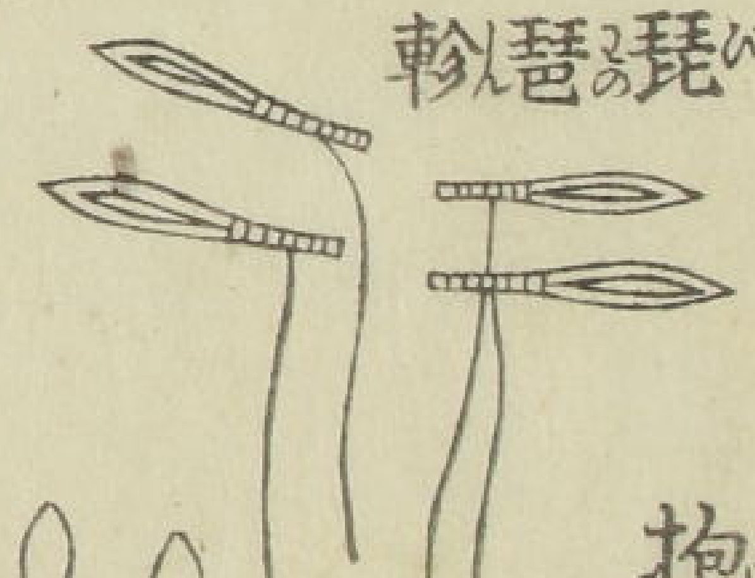


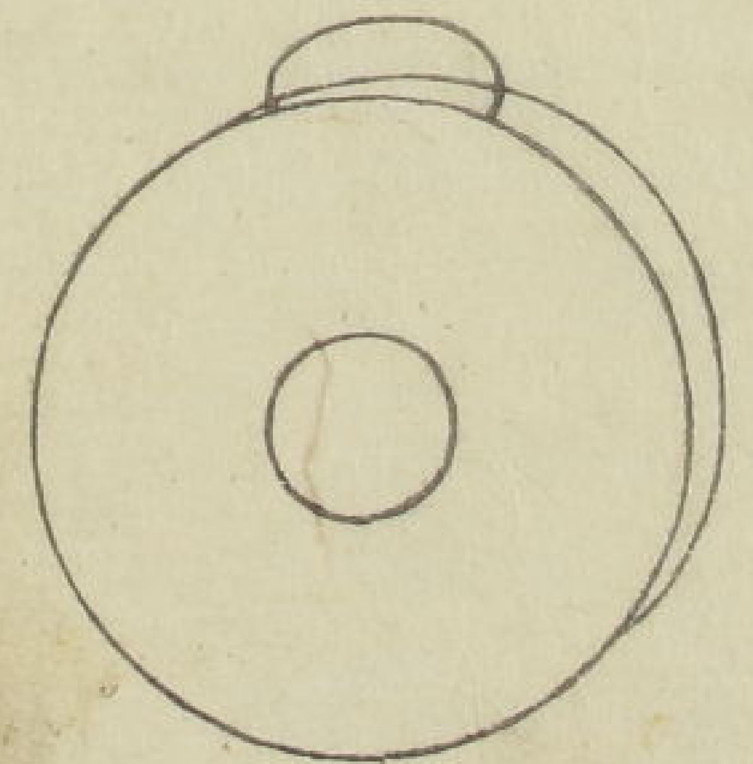


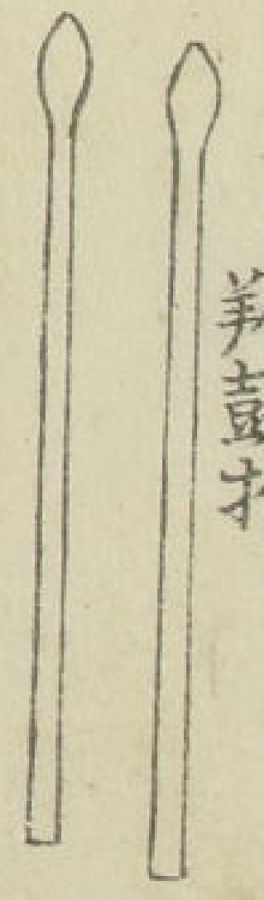


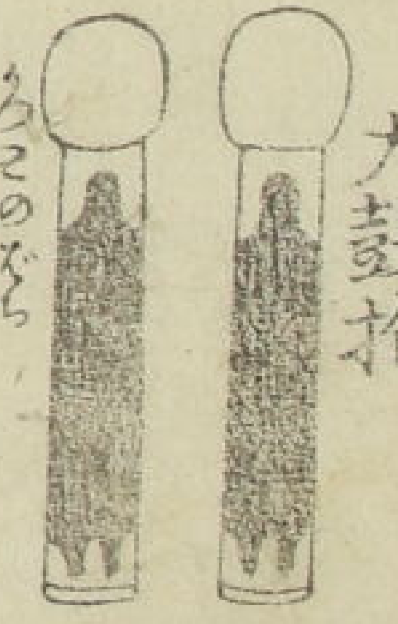




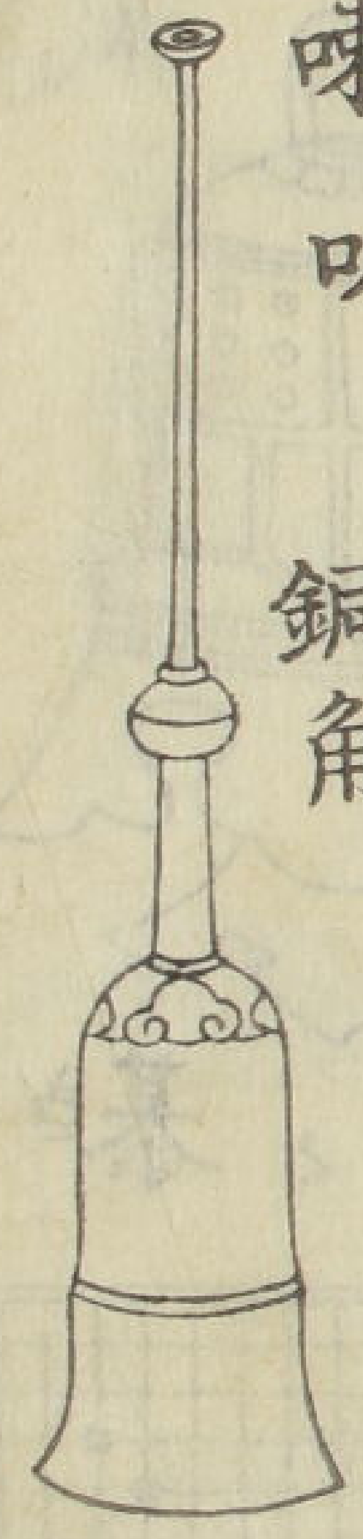


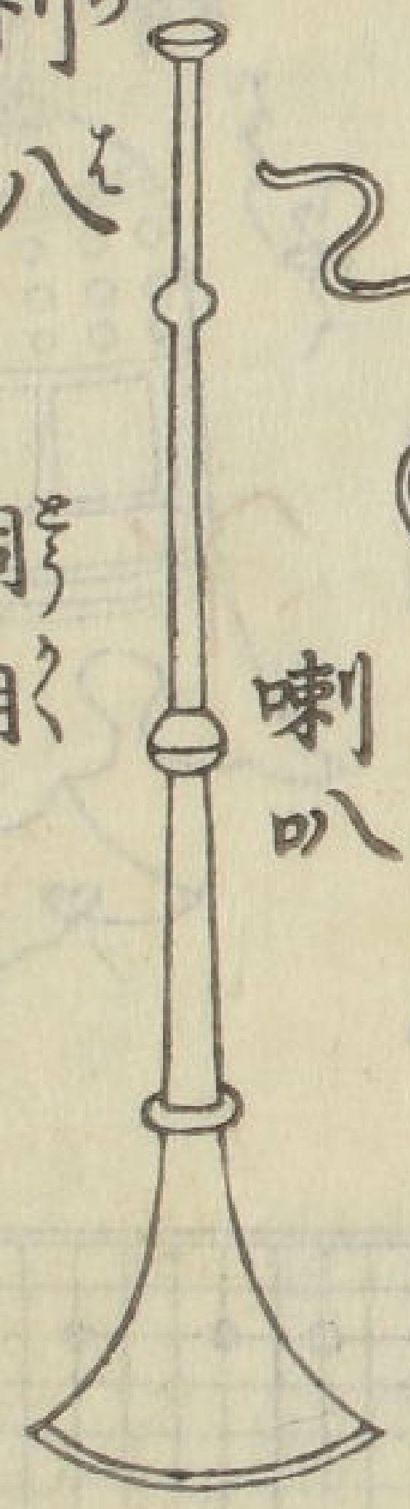


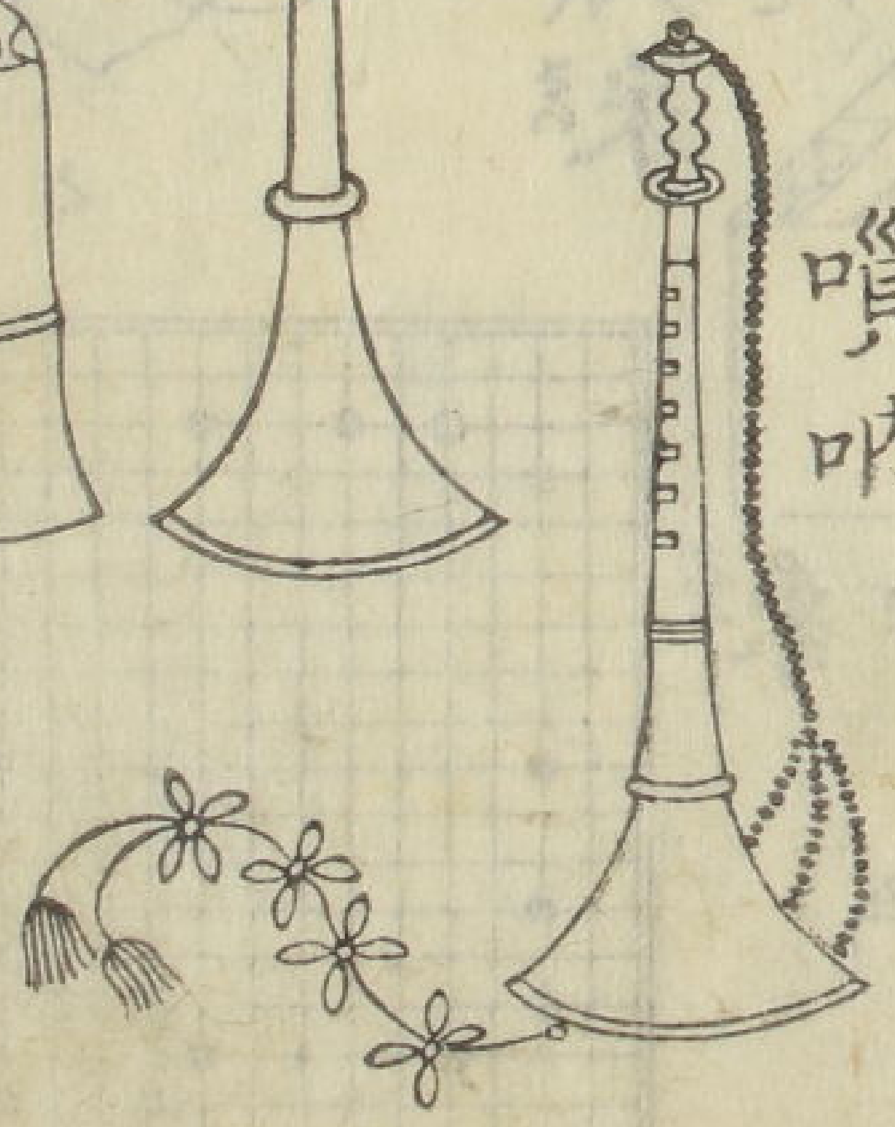


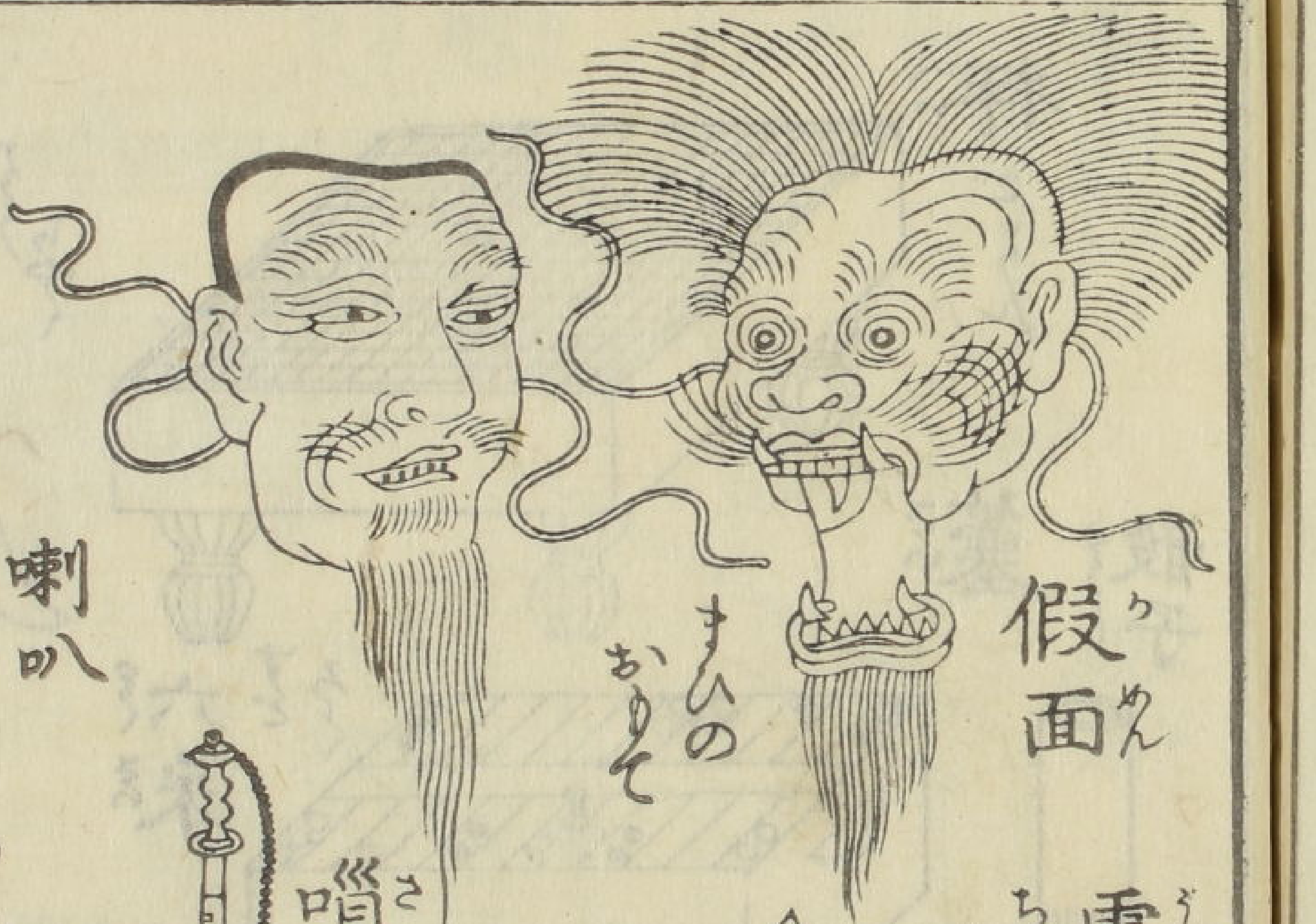


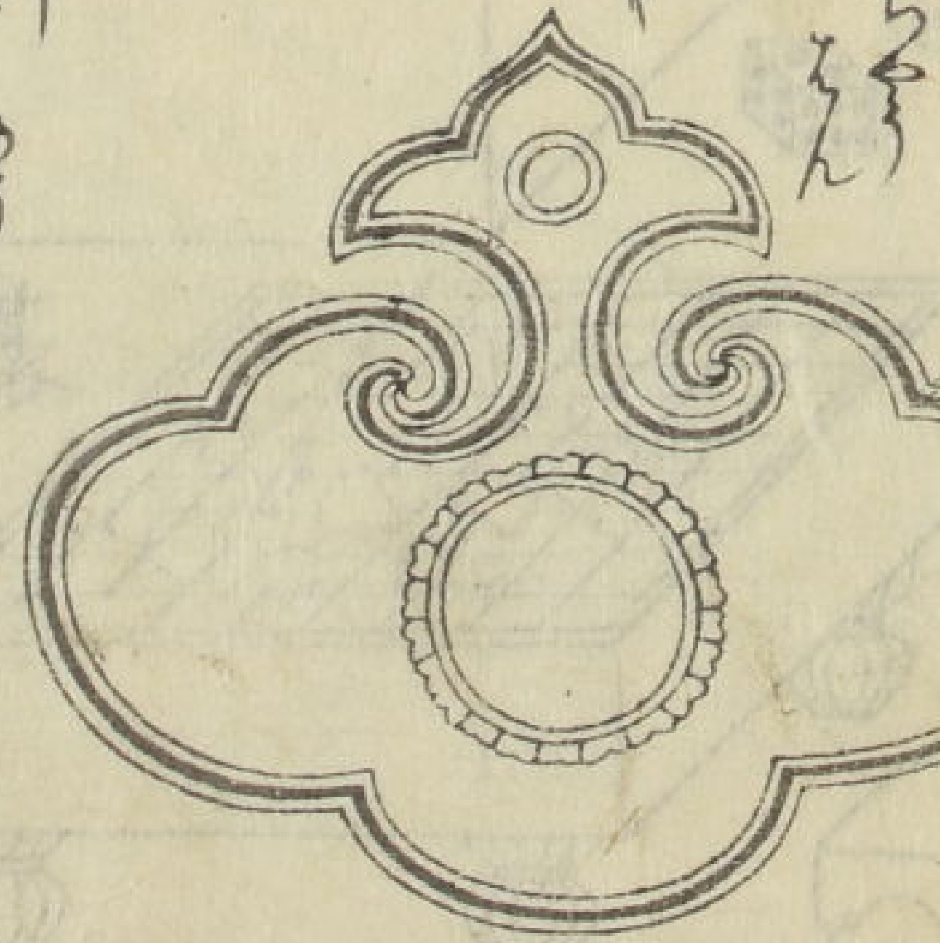
たかさ三寸十二三の三絃を
斗爲巾といふ
○塤ハ土をやいてこれをつく
る六の孔ありてこれを吹て
樂器なり
○鼗ハ鞉と同じ樂器也
一名を搖鼓といふふりつゞミ
○篳篥ハ一名茄管と云
樂器なり胡人ふいて馬を
おどろかす
○敔ハ木虎なり背ふ
そひらびときざミ木を以
てこれをすりて樂をやむ
るものなりさゝらなり竹を
破てもちゆるなり
○琵琶ハ長三尺五寸四絃也











下よりも逆鼓と琵といふ上より順鼓と琶といふ一名胡琴漢の王昭君ひたり

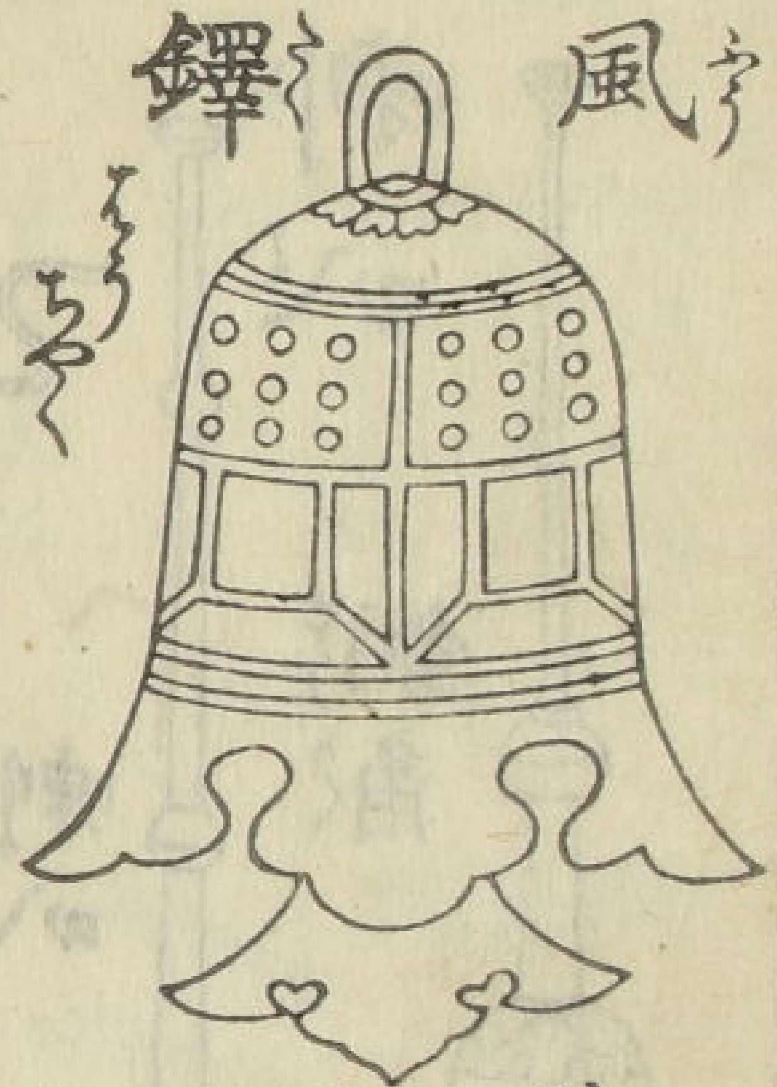
○阮咸ハ四絃十柱あるひハ五絃十三柱なり月琴同

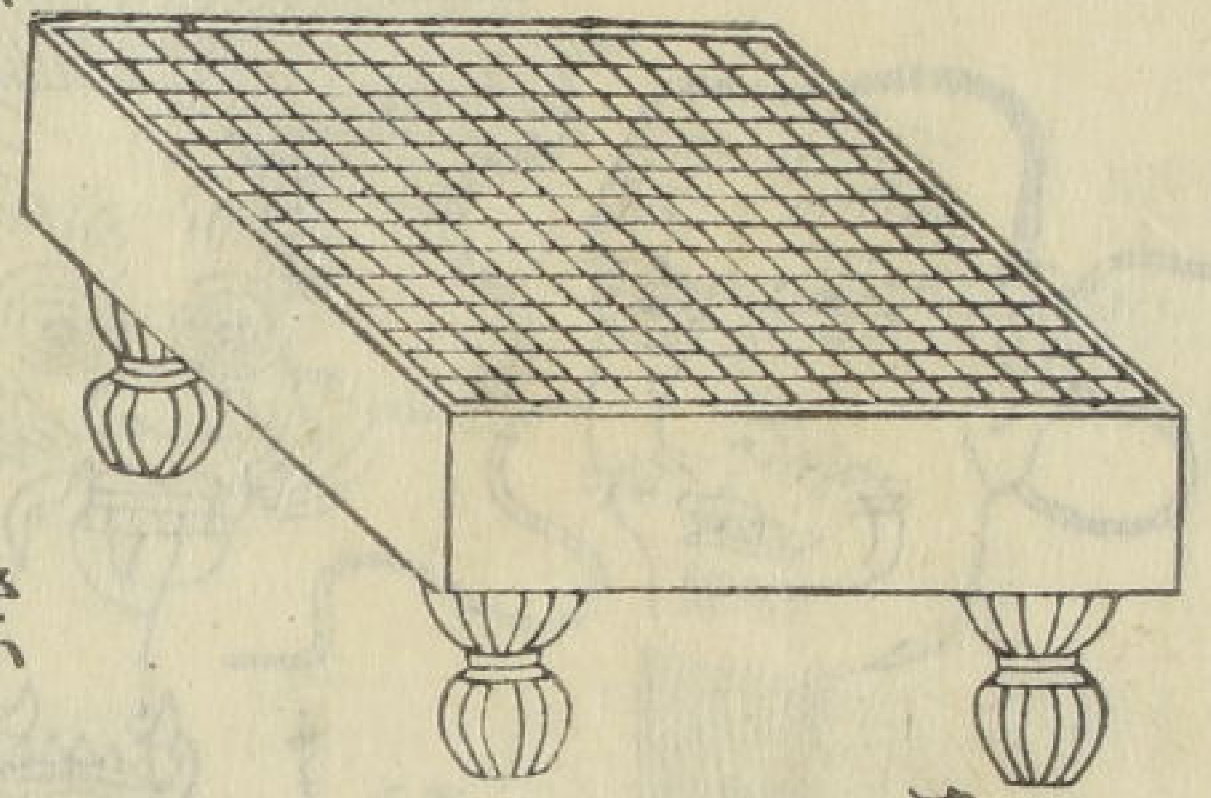
○三絃ハ三味線なり三絃子といふ琉球國より渡せし樂器といふ

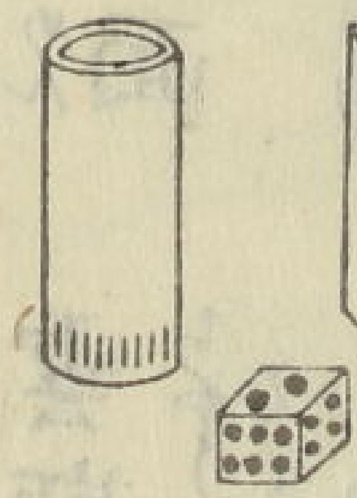
○撥ハ琵琶の撥三絃の撥羯鼓の撥さまざまかたちもちがひ文字もちがひあり族同

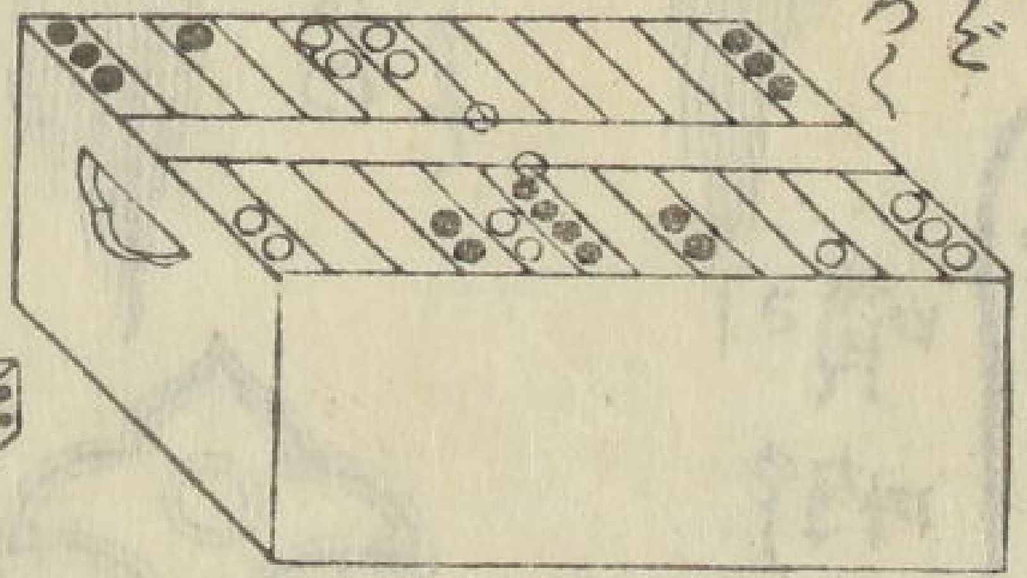
○柱ハ琵琶にてハ柱といふ〽琴にてハことぢといふすこしちがひあり

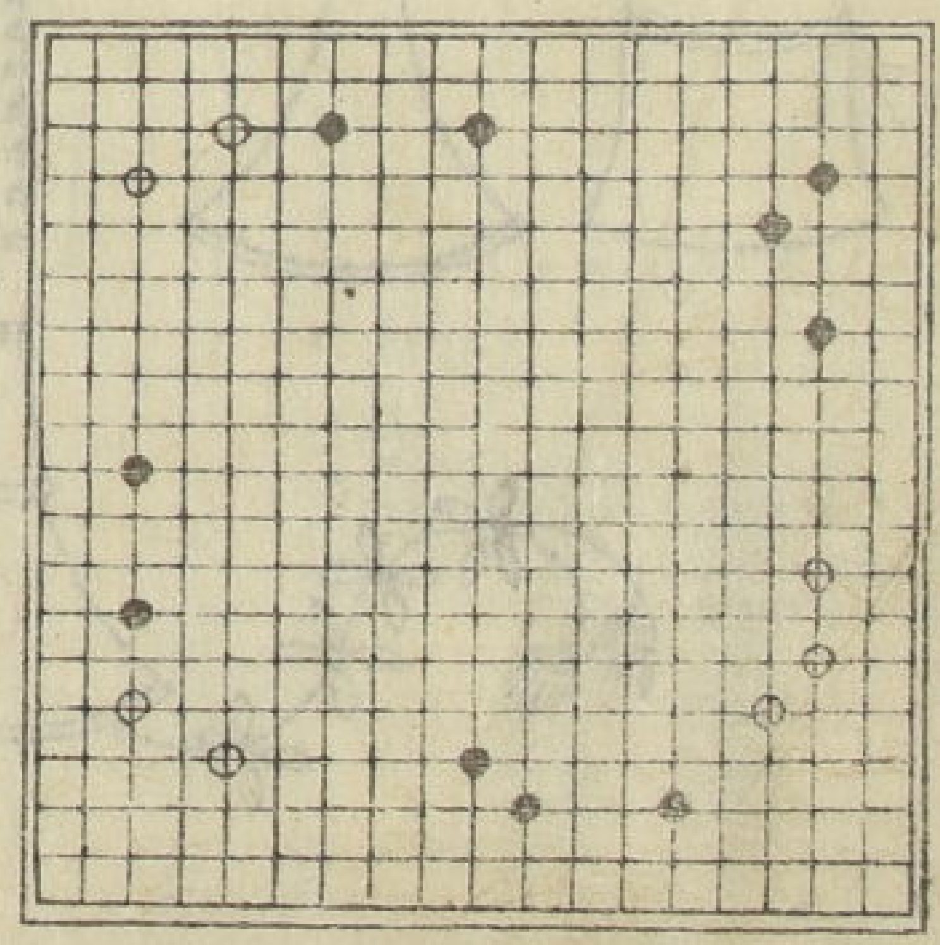
○軫ハ琴軫轉手なり琵琶三味線にもあり

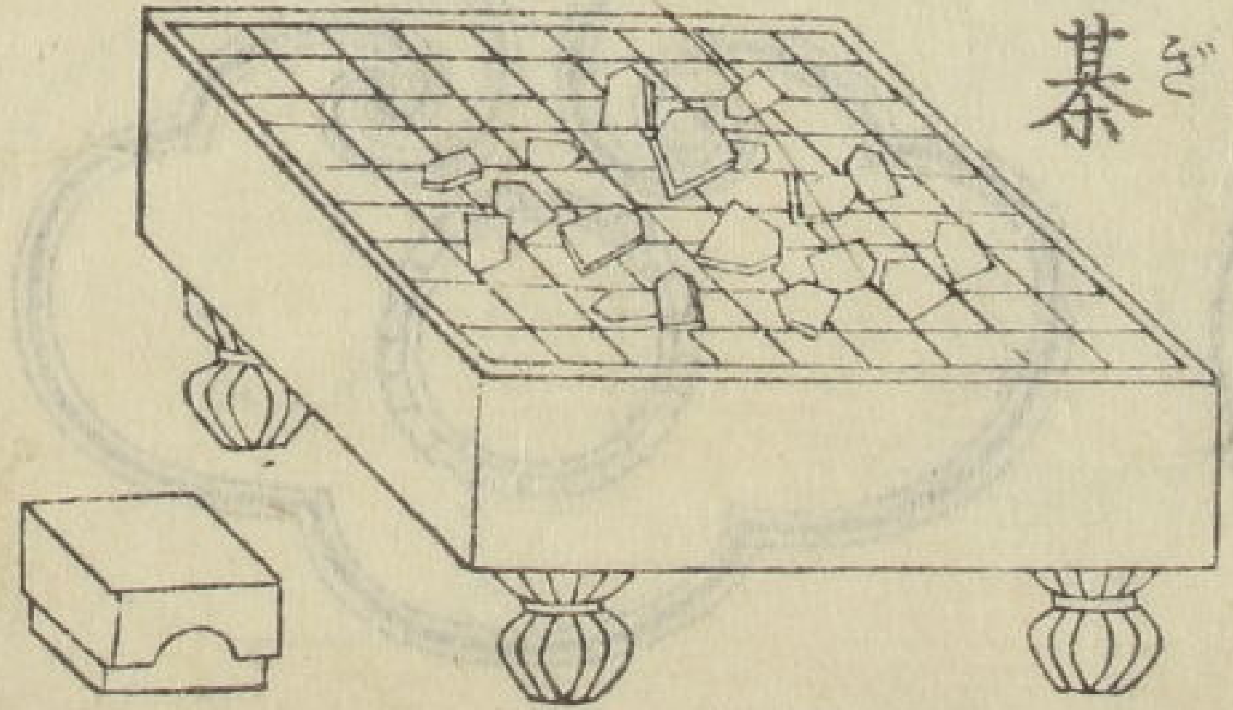

風鐸
ふう
たく
ちりんちりん






六采
りくさい
すごろく





○枹ハ大鼓のばちなり桴とも書べし梹撥ハ琵琶の撥又三味線の撥なり

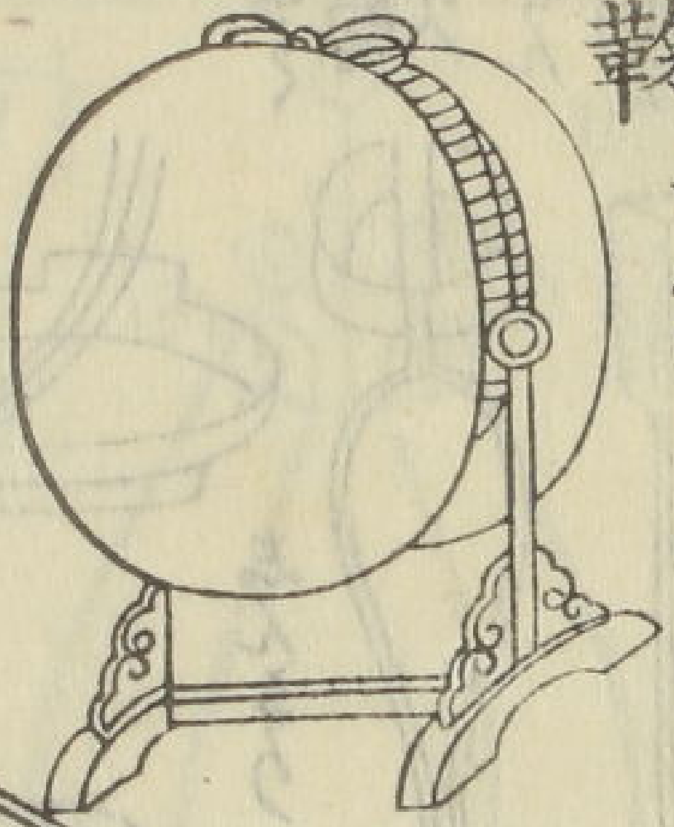
○繫爪ハことのつめなりけつめといふ義甲假甲なりびハ同し

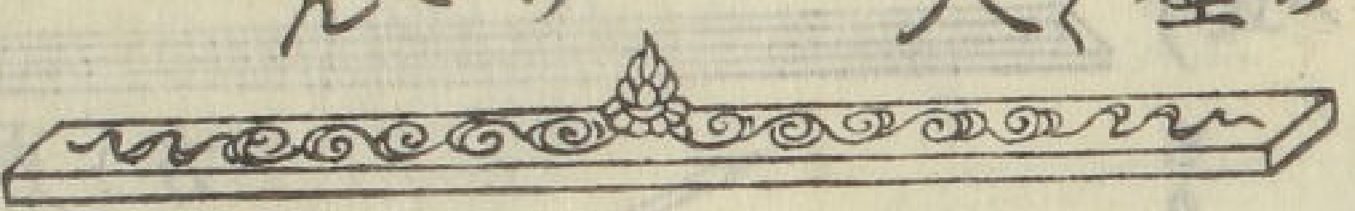
○銅鉢ハ僧家に磬といふきんハ唐音なり

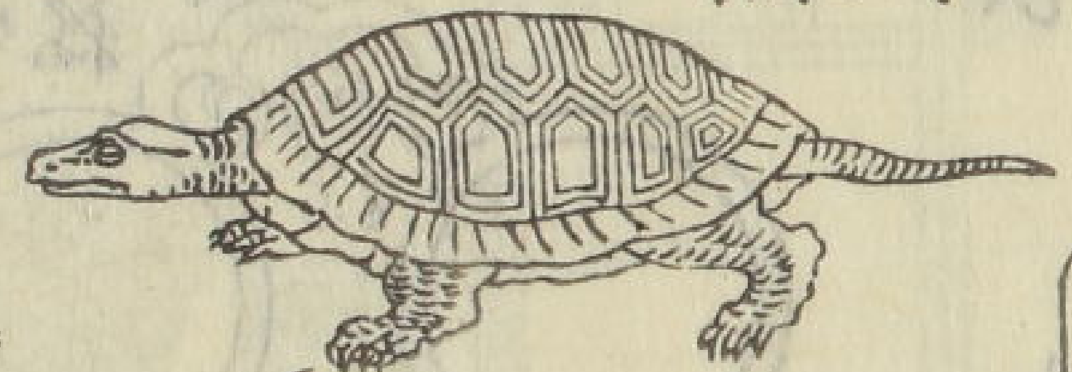
○羯鼓ハ樂器なり唐の玄宗よくうちて花を催と

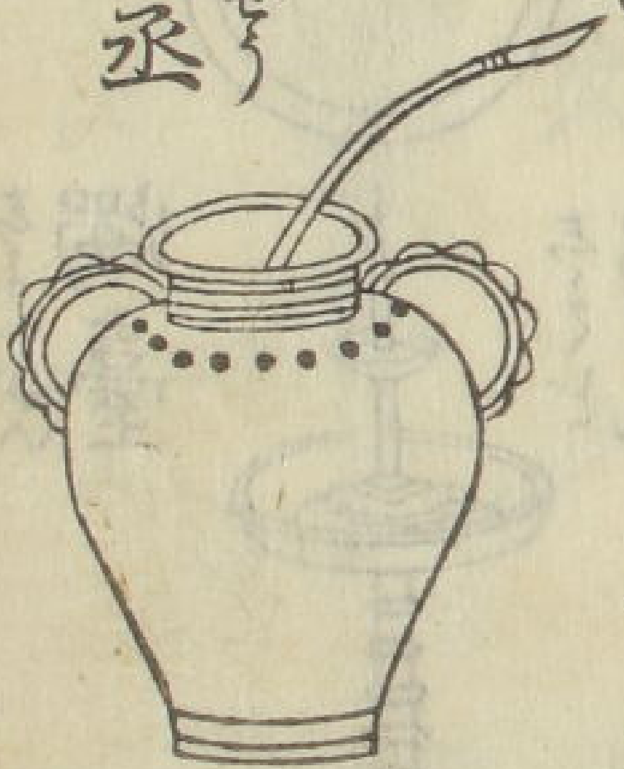
○腰鼓ハ腰前にさしはさむほそくなるつゝの鼓を揩鼓といふ

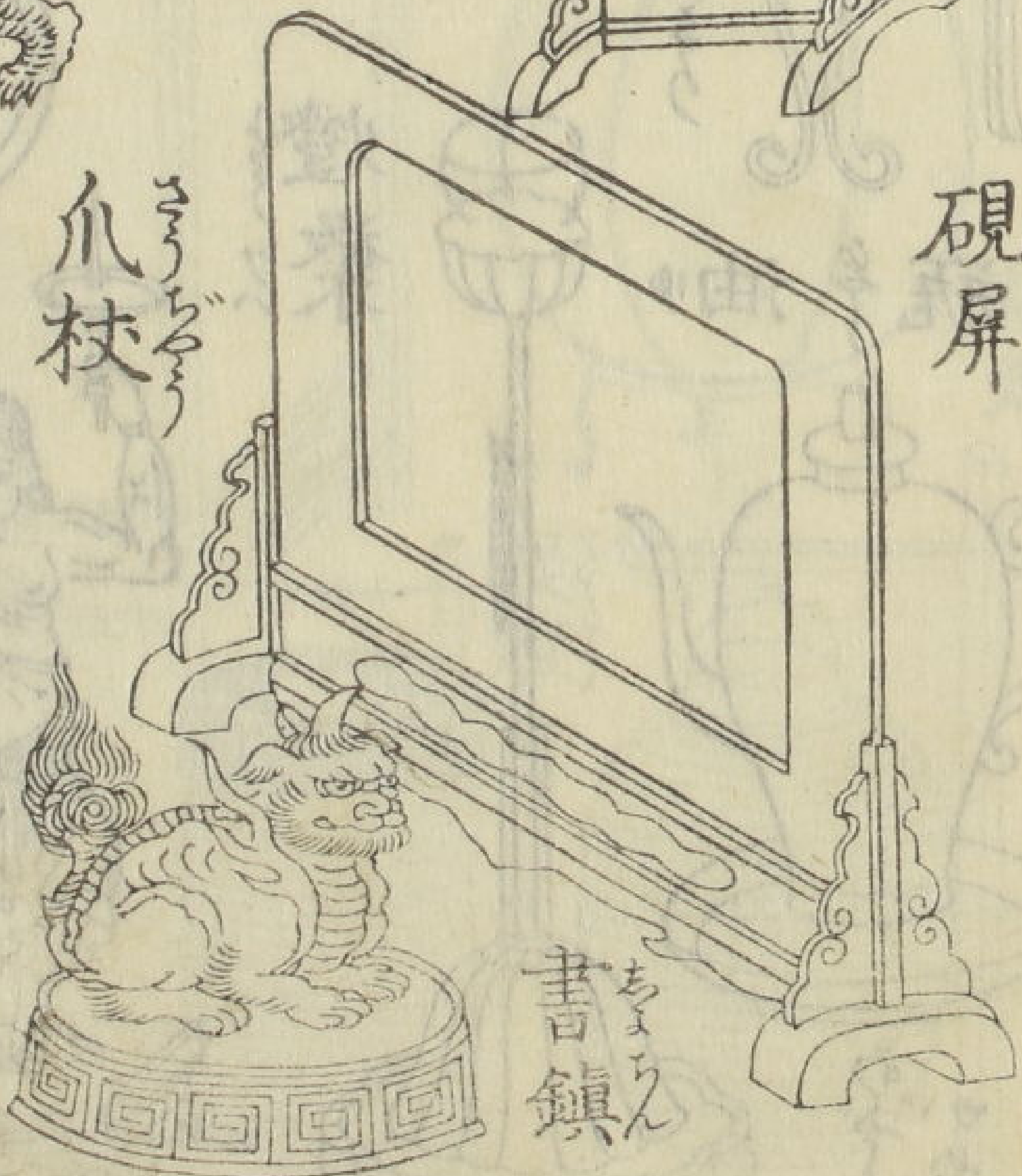
○銅鑼ハ今いふさふらなり樂器なり一説に臍ある鉦といふ

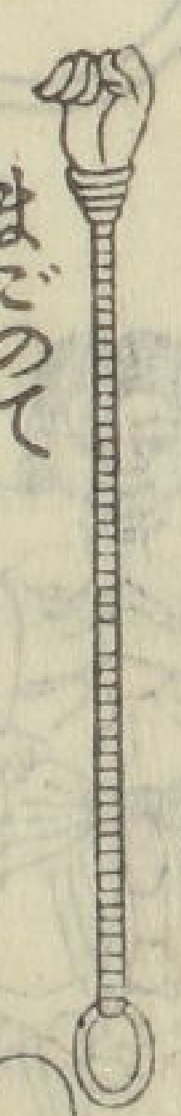


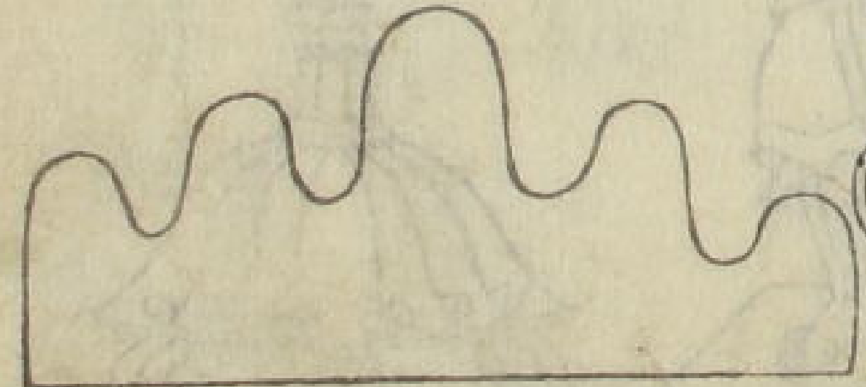

壓尺
あつ
しやく
けさん






硯屏
けんびやう
書鎮
しよちん


爪杖
さうぢやう
まごのて



○假面ハ今いふ舞の面なり代面とも戯面ともいふ能又ハ樂に着るなり

○雲版ハちやうばんなり飯齊の時大衆をあつむるときうつものなり

○嗩吶ハ太平簫といふふえなり嗩哪鎖嗦なども同

○喇叭。銅角ともいふ小唐人ぶゑなり又唐音にてちやるめらといふ

○風鐸ハ寶鐸なり又檐鐸ともいふ堂の檐にあり

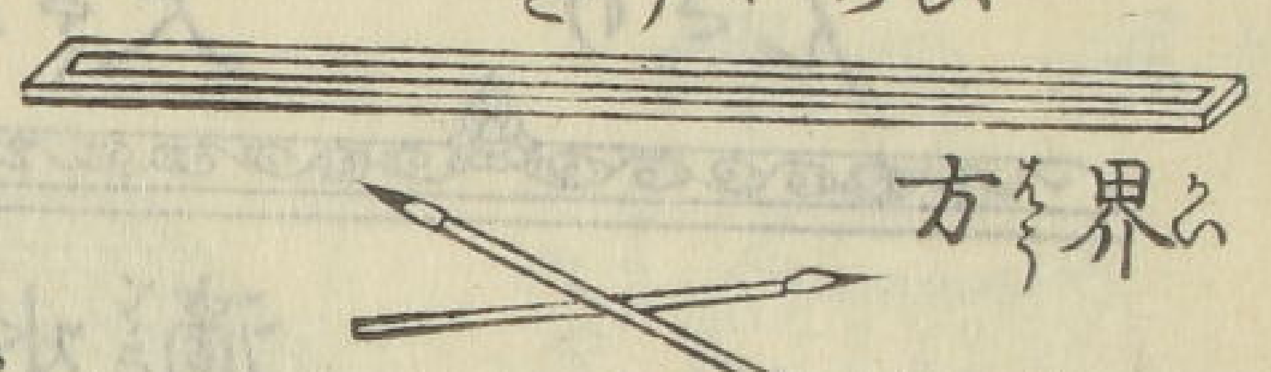
○碁ハ帝堯つくり始めて子の丹朱にをしへ給ふなり黒白の石ハ昼夜にかたどり三百六十ハ日の数を表するなり碁いしを碁子といふ碁笥を碁奩といふ

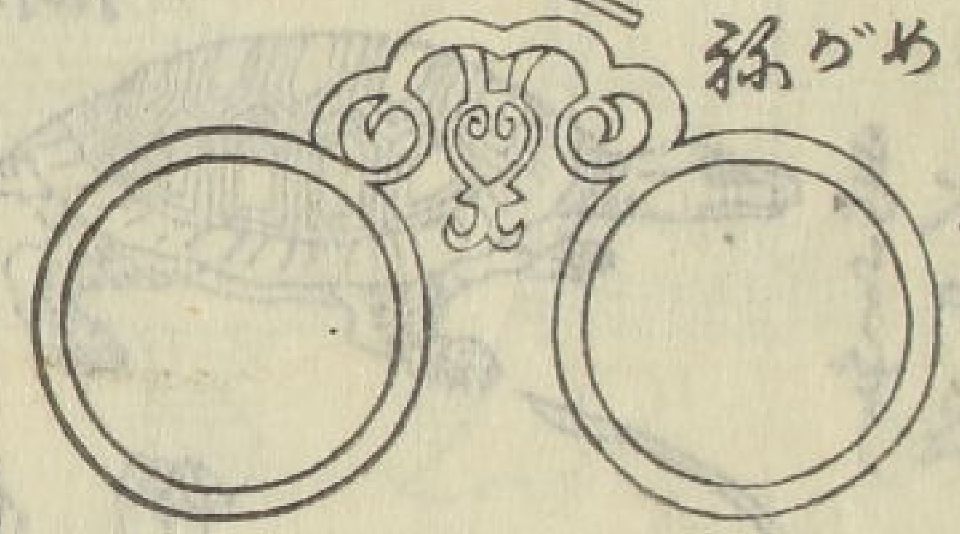
○枰ハ碁盤なり又碁局ともいふ碁盤の目を路と云碁石を子といふ碁笥を奩といふ

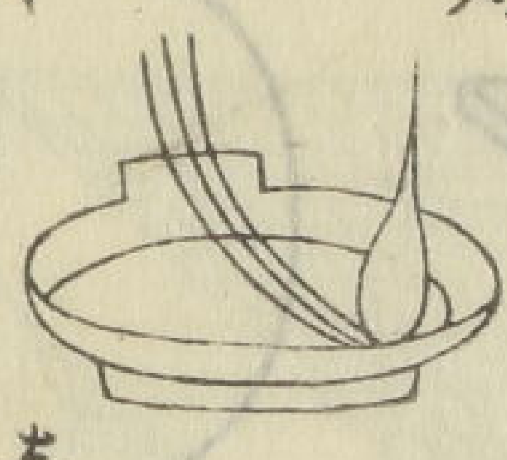
○六采ハ双六なり黒白の石ハ昼夜なり十二の目ハ十二月なり盤を局といふ

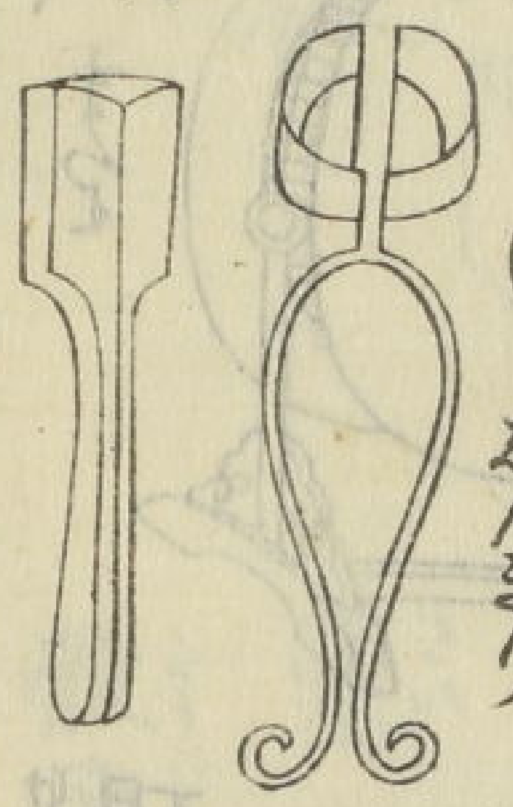
○簺ハ日月の二川に表し四角ハ四方にかたどる骰子も筒なり投子同

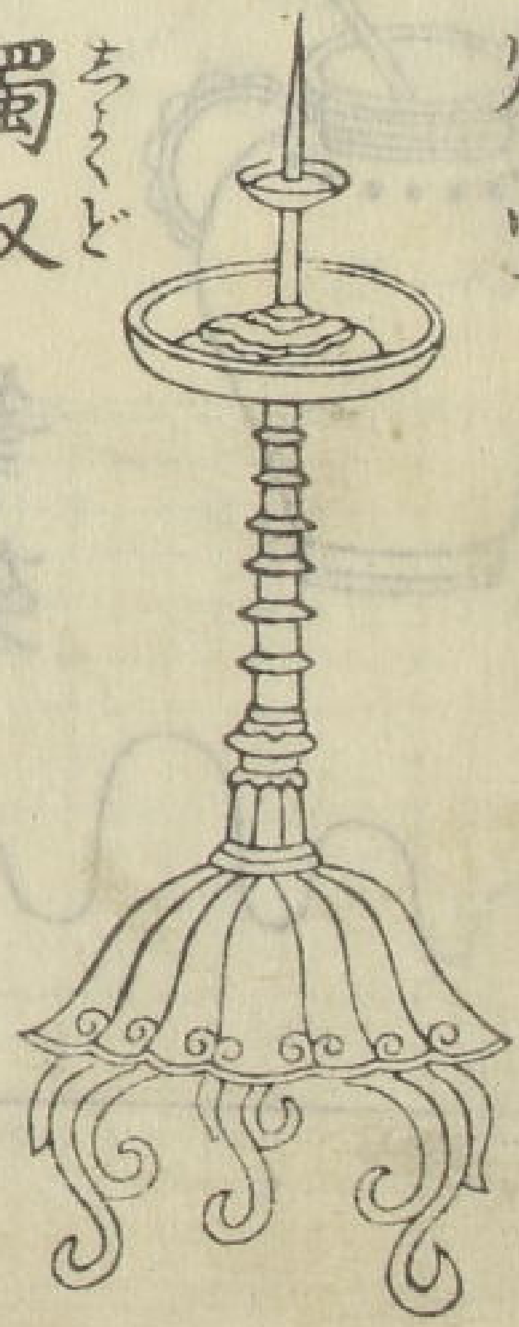
○象棊ハ周公旦作出て成王に教へたまへり大中小の象棊ハ又摩訶陀象戯といふなり

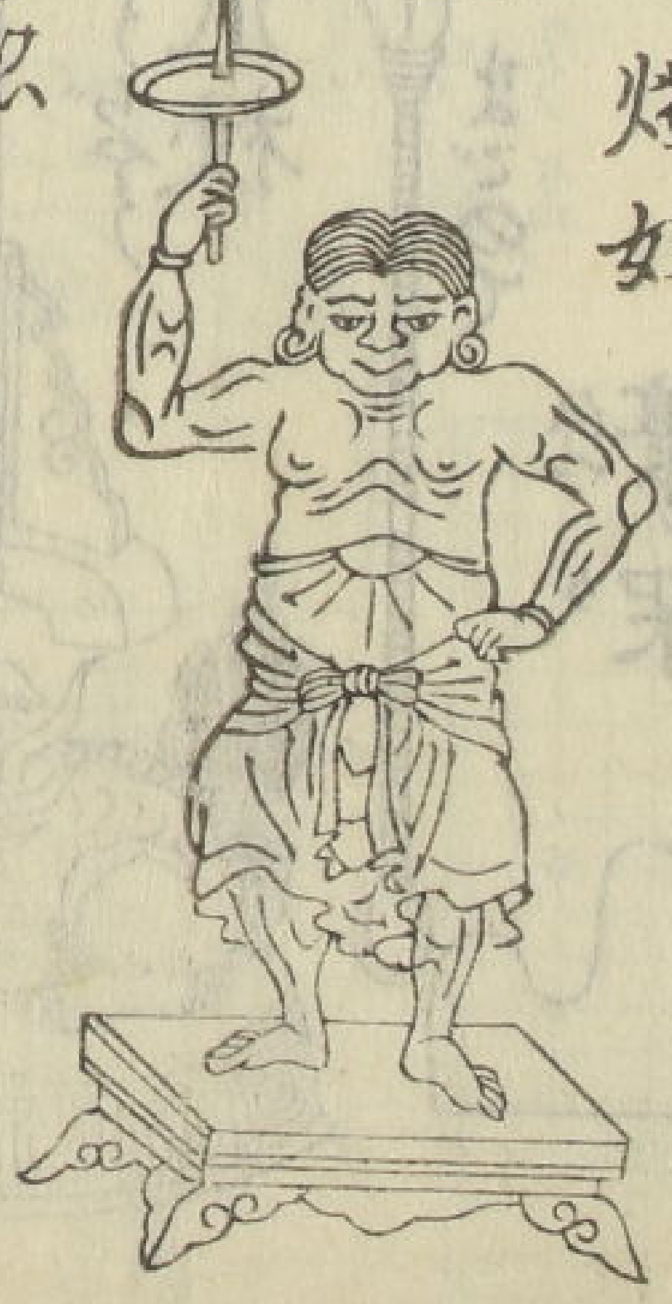


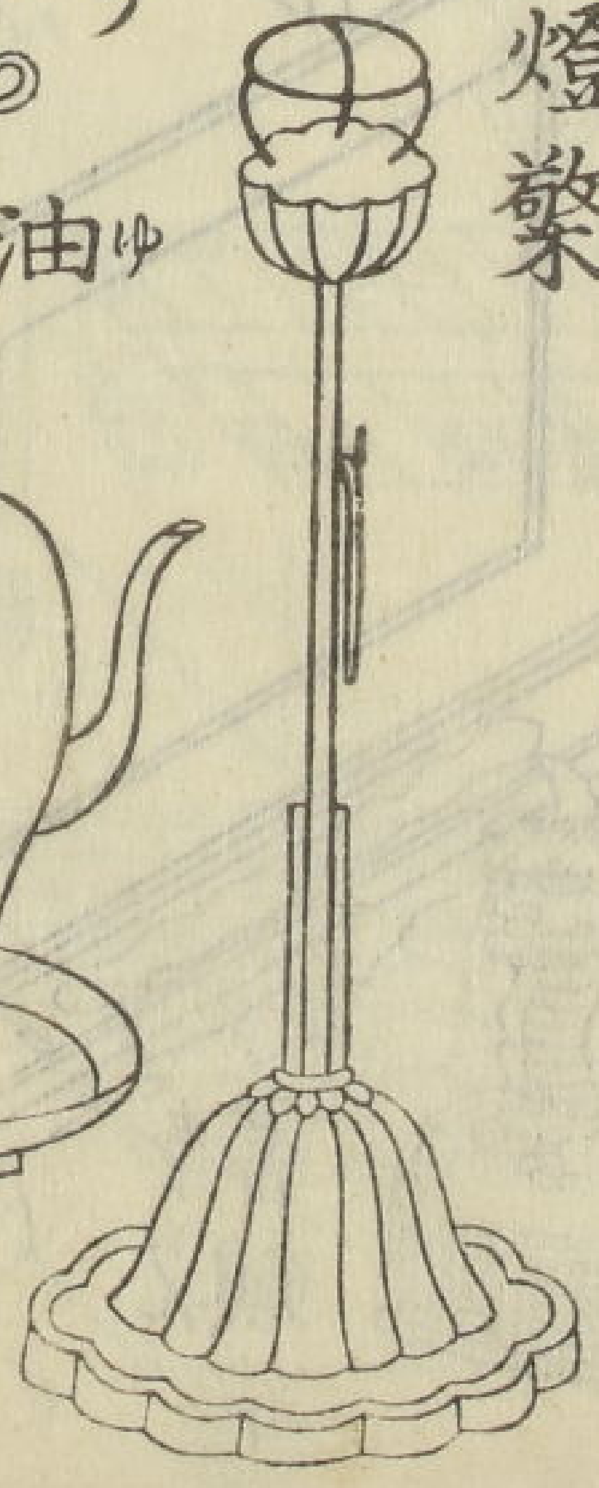


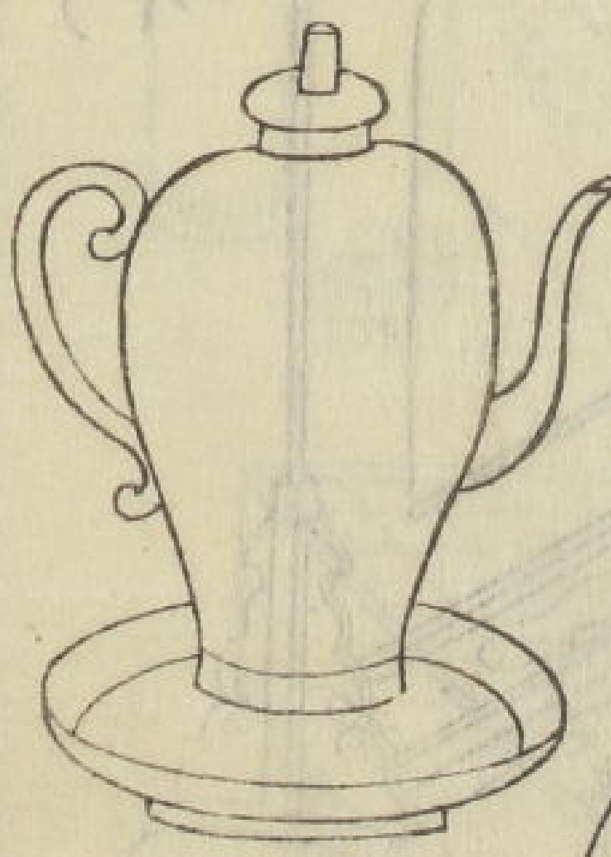


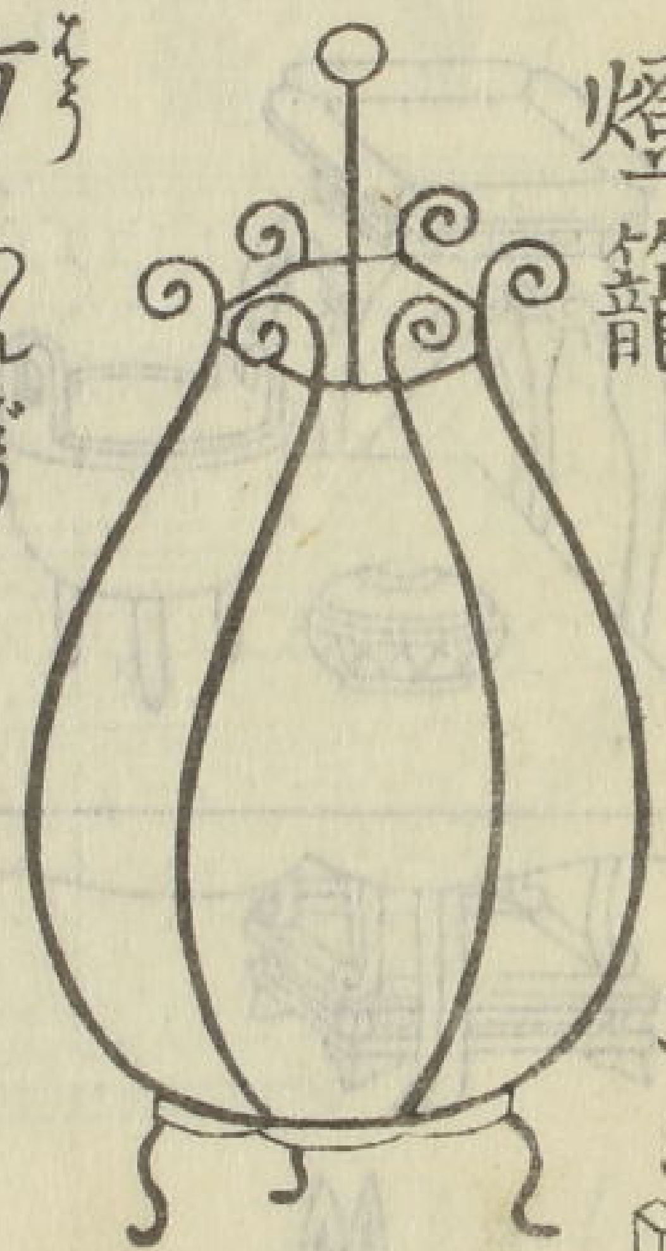


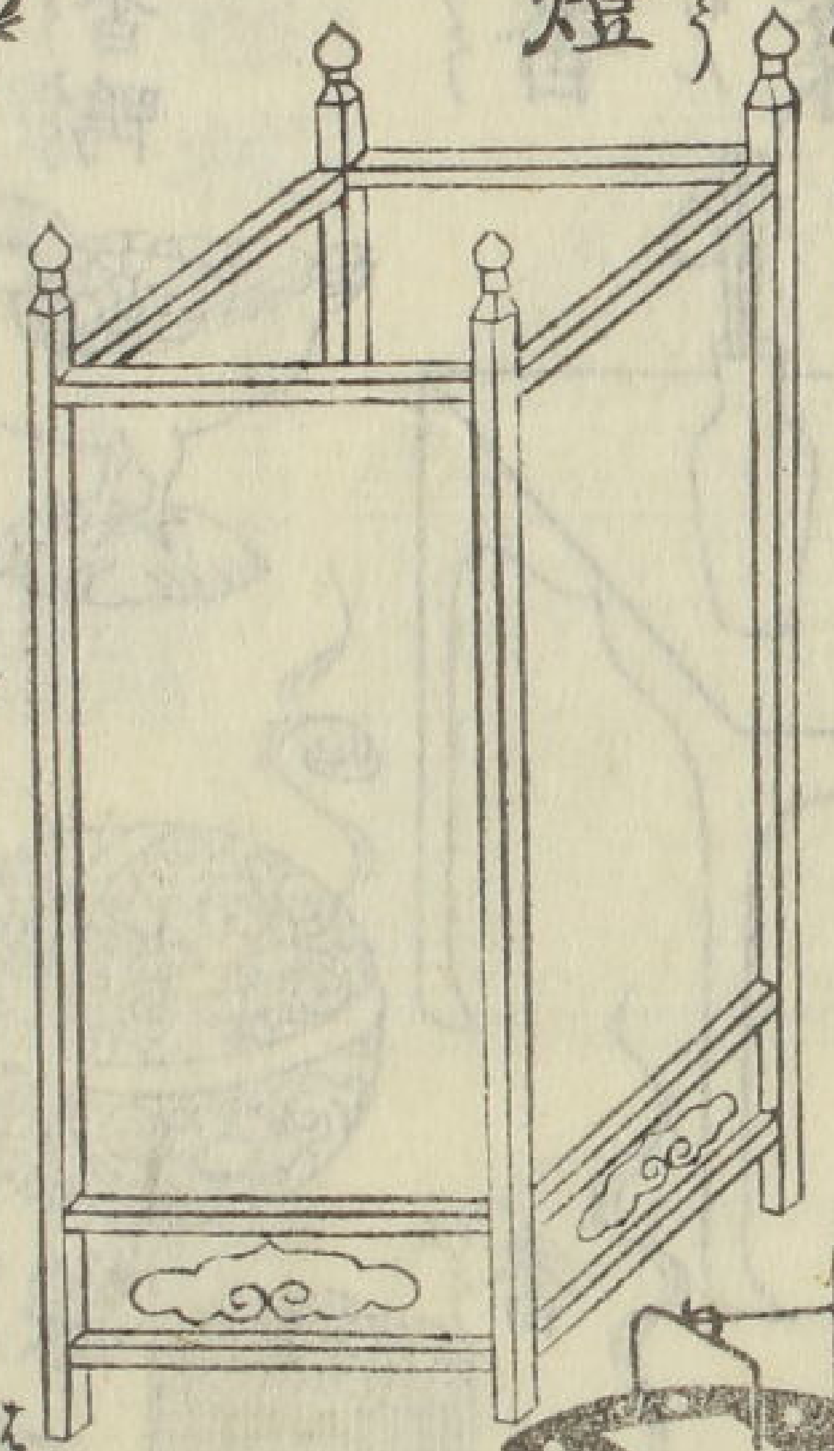


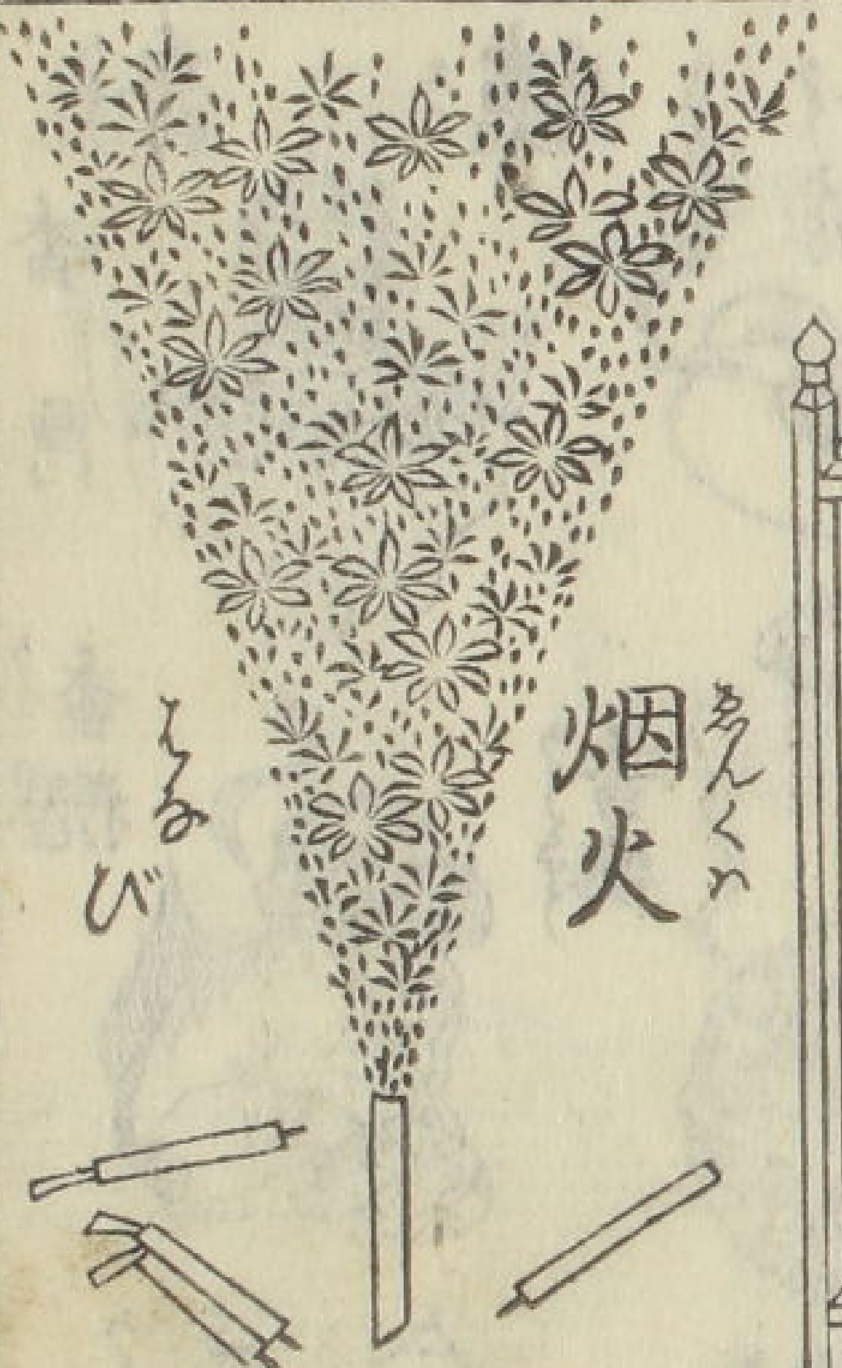


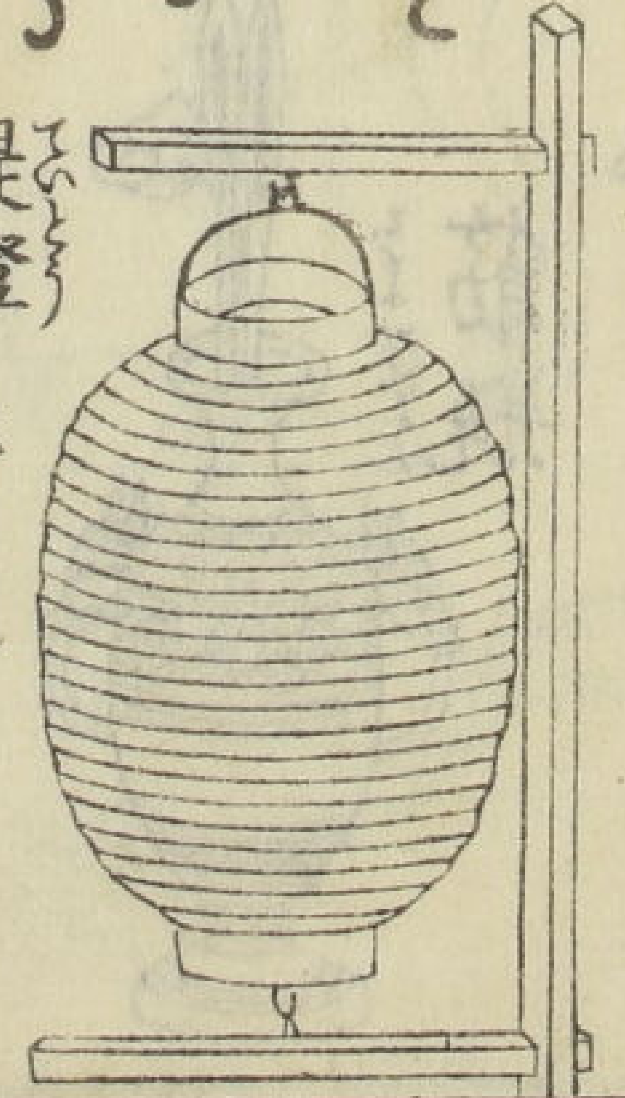


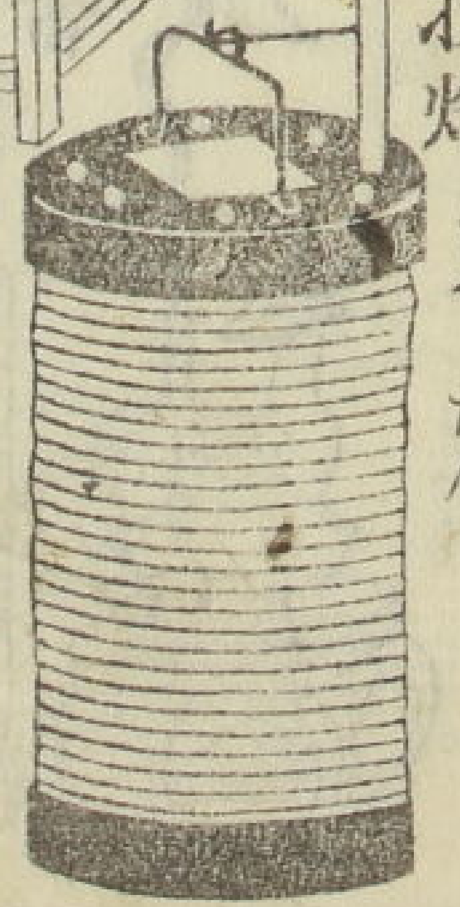


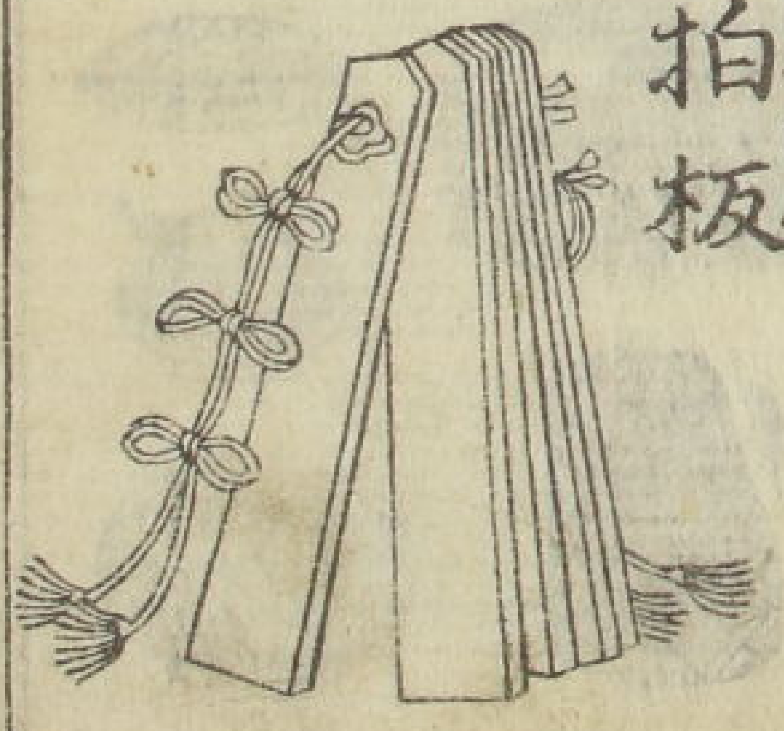


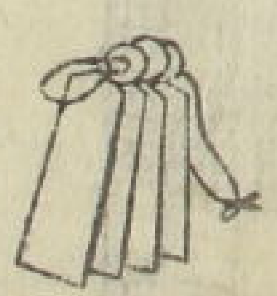




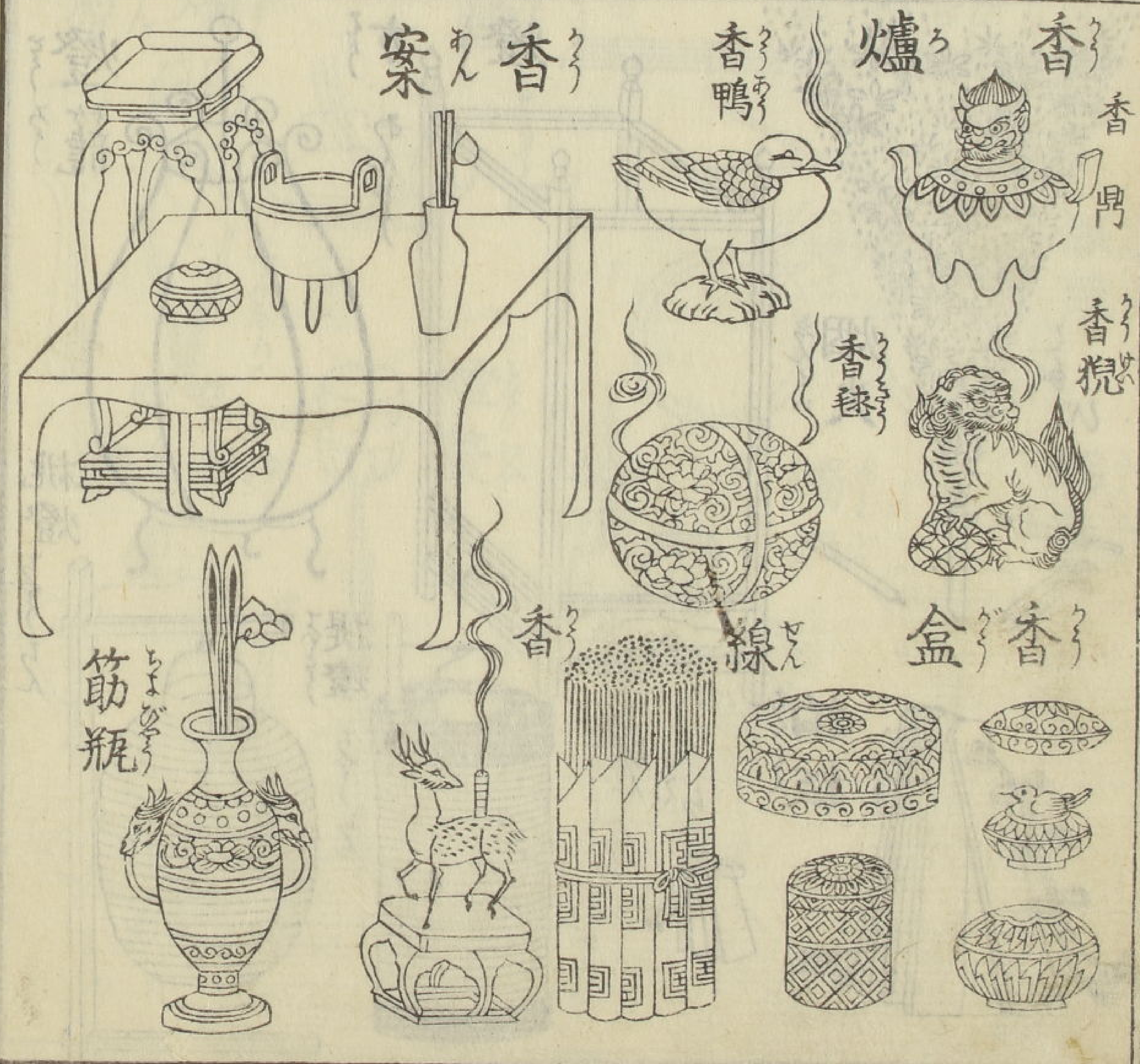




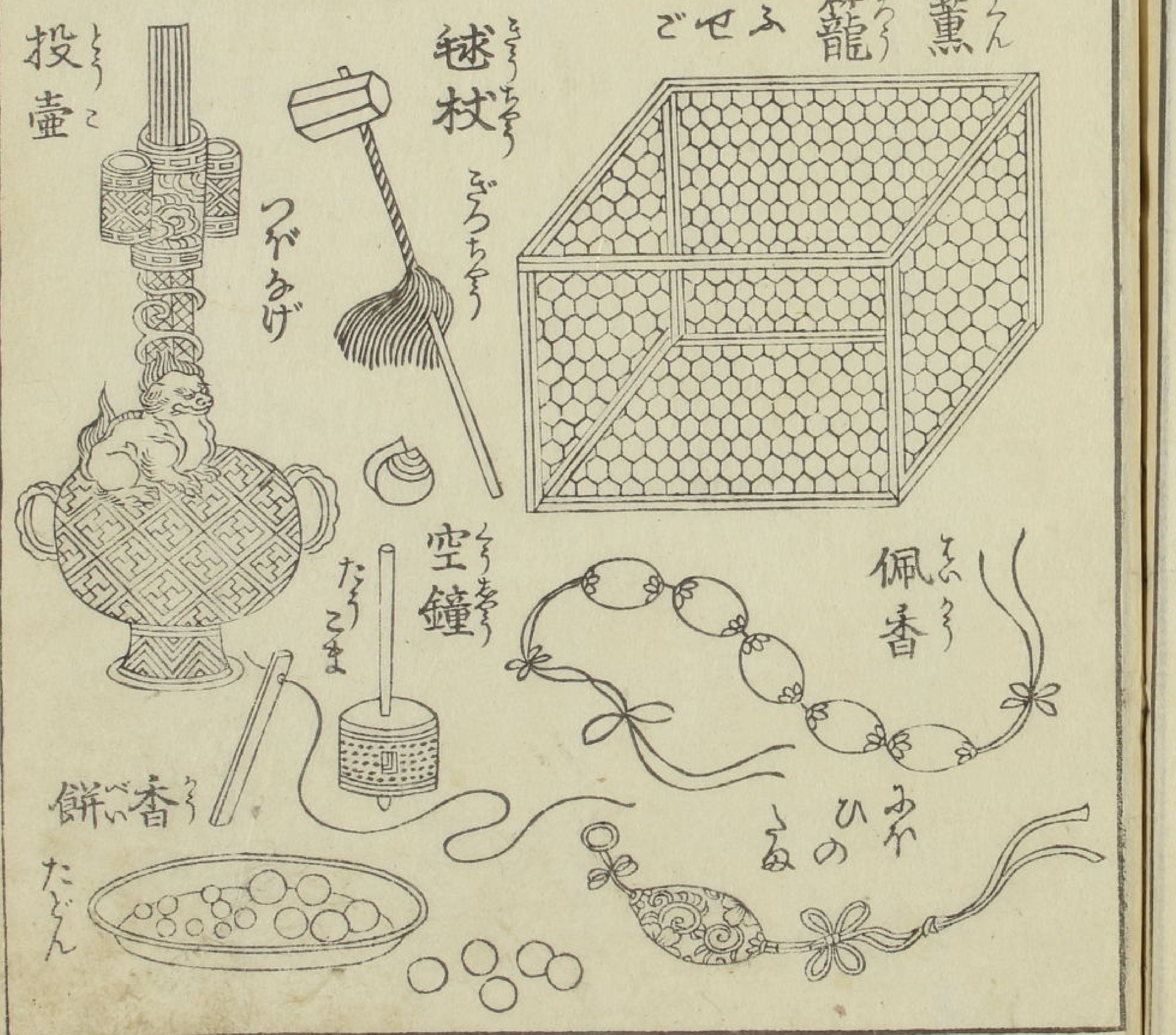




○鞠は蚩尤が頭をかたどり
て蹴るなり飛鳥井どのこの
家なり地下には左近と云
ものあり
○硯屏は硯のむかふにたつ
る屏風なり硯の墨を風
にふかせまじため又塵
ふせぐためなり
○書鎮は風ふくときは書
おさへなり文鎮とも壓書
ともいふ
○壓尺は卦算なり具足
の草摺を卦算といふかた
ちにゆゑ又は卦算とも云
○水滴えうづいは硯のみづいれ
なり玉蟾蜍ともいふ蟾蜍


香爐
香鴨
香閂
香猊
香毬
香案
香盒
線香
香
筯瓶

のかたちにつくる水いれ也
又硯滴ともいふ
○爪杖は搔杖ともいふ麻
姑といふ仙女の手なるの爪
のながきによつて麻姑の手
○筆架は筆をさせなり
筆格筆峯筆山とも云
○界方は今いふ樋定木
なるべし
○眼鏡はめがねなり靉靆
ともいふなり
○燭臺は蠟燭をたつる又
燭架ともいふかくてらさるる
ものあるを
○燭奴はらうそくたてに人
形あるをいふなり


薰籠
ふせご
毬杖
ぎつちやう
投壺
つぼなげ
空鐘
たうごま
佩香
においのたま
香餅
たどん

○燈ハ灯同し燈盞ハあぶらつき燈心ハ燈炷ともいふ燈花ハちやうじがしら

○燈檠ハ長檠あり短檠あり灯臺といふもありまた灯架といふ

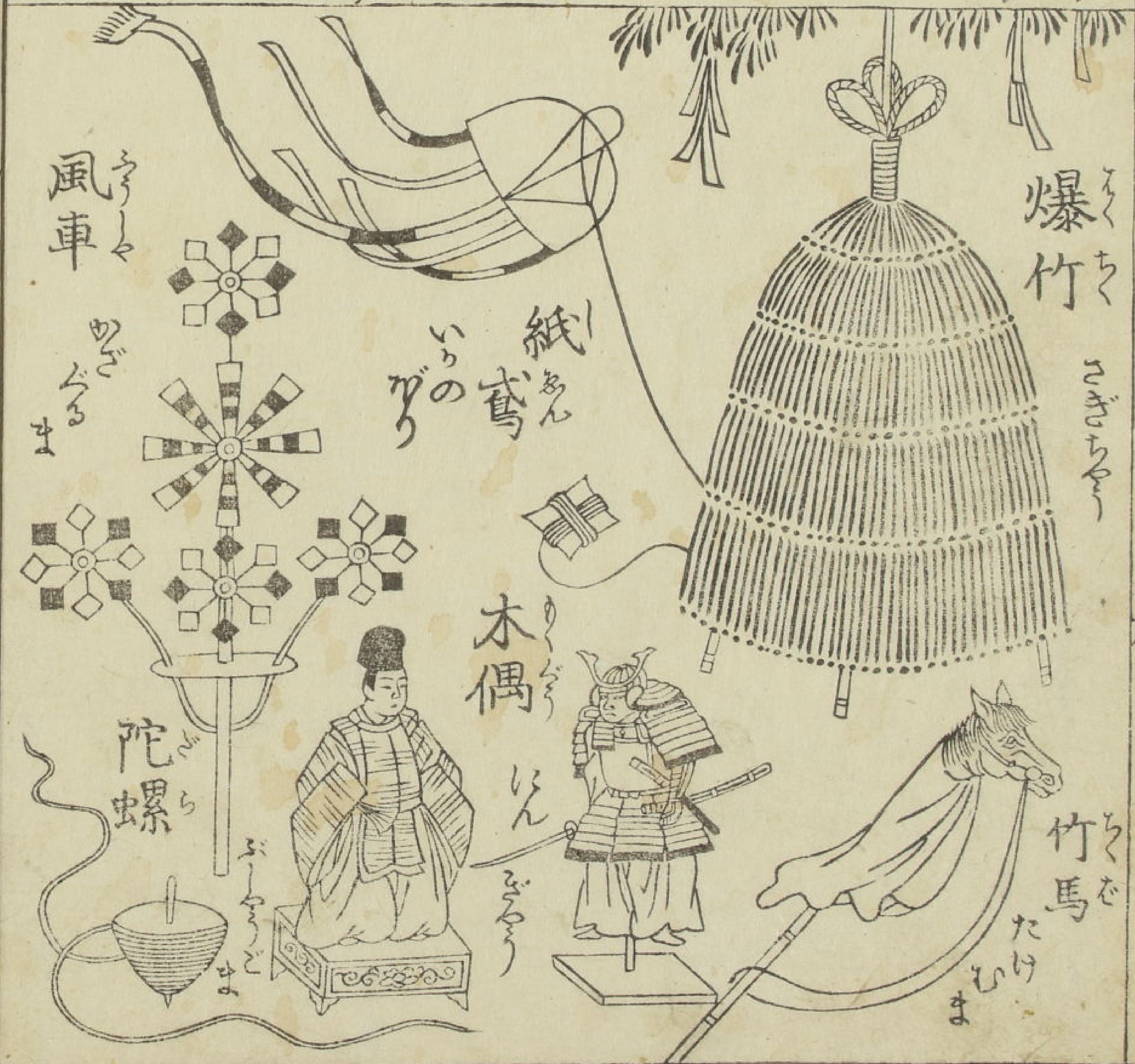
○燭剪ハ今いふしんきりなり

○油瓶ハ今いふあぶらさしなり又油注ともいふ

○燈籠ハ燭籠とも灯毬ともいふ又灯篝ともいふ

○挑燈ハ丸を俗ニ酸漿挑灯といふ紗にて張たるを紗篭といふ

○方燈ハ今いふ行燈なり四方なるゆへ方燈といふ紗にて


爆竹
さぎちやう
紙鳶
いかのぼり
風車
かざぐるま
木偶
にんぎやう
陀螺
ぶりぶりごま
竹馬
たけむま

はるを紗篭といふ○提燈ハ今いふ挑灯なり懸火ともいふ○烟火ハはなびなり花炮ともいふ地鼠 花兒 流星 走線などの名あり○柏板ハ今いふびんざゝらなり又柏子ともいふ○香爐ハ薫爐ともいふ又ハ香鼎 香梘 香鴨などの名ありかたちによりて名のかはりあり香毬ハ俗にまはり香炉○香毬ハてまりのごとくなるをいふまはり香炉あり鴨のやうにくちふつくりたるを香鴨といふ○香盒ハ香をいるゝなり漆盒磁盒および金銀銅錫などにて作る○香案ハ今いふ卓なり又ハ香几といふ○線香ハ線ハいとすぢとよむいとすぢのごとくなる香なり炷香ともいふなり南京よりきたる○筋瓶ハひばしをたつるものなり火筋ハこぢといふ火筯ハさしはさむものなりと○薫籠ハ今いふふせごなり又火篭とも夜篝ともいふ○佩香ハ今いふにほひのたまなり腰におぶるものなり香囊ハにほひぶくろ○毬杖ハ虫左がかくべにいさどるまで正月にうつなり玉毬春ともいふ○空鐘ハとうごまなり獨樂ともいふ小児のすてあそびものなり○香餅ハ今いふ炭團なり又ハ炭餅ともいふ火いけなり又炭墼とも山炭麟ともいふ○投壺ハむかしの射法なり壺に矢をなげいるゝ事なり○爆竹ハ竹の火にもゆる音このこゑきゝて疫鬼おそるゝとよりて[illegible]爆竹ともかくなり又天竺より中國へ佛經わたりしとき佛經と道經を右にをき火をかけたるに佛經やけずよりてたの義長あるとて左義長ともいへり

○竹馬はすゝんだのたけむまなりいとけなきときの友を竹馬の友といふなり
○紙鳶はいかのぼりなり紙鴟風鳶ともいふ声あるハ紙風箏といふ○木偶は木にてつくりたる人形といふ土にてつくりたるを土偶人といふ紙にてつくるをとる紙偶人と云
○風車はかざぐるま也○陀螺は今いふぶちごまなり江戸の小児のもてあそぶもの也